

論理學明因

ニ就テ分類シタル者ナリ假令言葉ハ表詮テモ意味ハ無躰ナルヲアリ
 例ヘハ造物主トは汝ガ妄想の感情なりト云カ如キ是ナリ又言葉ノ表
 詮ナルト共ニ意味モ有躰ナルヲアリ例ヘハ物質には必ス勢力ありト
 云カ如キ是ナリ又言葉ハ遮詮ニシテ意味ハ有躰ナルヲアリ例ヘハ物質
 ハ無勢力にあらすト云カ如キ其言ハ否定的ニシテ其意味ハ反テ有勢力
 ナリ顯彰スルニアルカ如キモノ是ナリ又言葉ノ遮詮ナルト共ニ意味モ
 無躰ナルヲアリ例ヘハ造物主はあるにあらすト云カ如キ是ナリ之ヲ
 表スレハ左ノ如クナル

表詮有躰ノ論法	言語ト云語モ意味ハ甲は乙なり
表詮無躰ノ論法	言語ト云語モ意味ハ甲は乙なり
遮詮有躰ノ論法	言語ト云語モ意味ハ甲は乙なり
遮詮無躰ノ論法	言語ト云語モ意味ハ甲は乙なり

總

論

斯ノ如ク言語上ニ表詮ト遮詮ヲ分類シタル上ヘ更ニ復テ意味ニ就テ
 有躰無躰ノ辨別ヲナスハ何ノ爲ナル乎ト尋ヌルニ此ハ因明ノ論法ニ
 於テ其必要アレハナリ凡ソ論法ノ正否ヲ見ルニハ先ツ宗ノ性質如何
 ナ見ルト最モ必要ナリトス宗ノ性質本ト何乎顯彰セントスル意味ヲ
 含メル有躰ノ性質ナリトセンカ然ラハ其言葉ノ表詮遮詮ナルニ係ラ
 ス宗ノ意味ノ有躰ナルニ隨ヒ因并ニ同喩モ有躰即チ積極的ニ之ヲ證
 明スヘキ何乎ノ事件ヲ擧ケサルヘカラスト云テ規則トナス若シ宗ハ
 有躰ナルニ因喩ハ無躰ナルヲアリトセンカ斯ノ如キ論法ハ宗ヲ立ス
 ルノ効定ナキモノトス例ヘハ余カ前ニ物質は必ス勢力ありト云
 ヒ又テ物質は無勢力にあらすト云ヒタルカ如キ其言ニハ表詮遮詮ノ
 區別アレト其意ハ共ニ物質ハ有勢力ナリト云テテ顯彰セントスルニ
 アレハ其性質有躰ナリ故ニ是等ノ宗ハ二者共ニ學理實驗の成績に由

るが故に譬へは心象作用の如しト云ハサルヘカラス斯ノ如キヲ名ヲ有跡ノ論法ト云大疏三紙^十以有爲宗有爲能成順成有故無非能立トイヘルモノ是ナリ

又宗ノ性質打消シノ一方ニ止ル無跡ナルモノトセシカ然ラハ其言葉ノ表詮ト遮詮トニ係ラス宗ノ意味ノ無跡ナルニ隨ヒ其因并ニ其喩モ無跡即チ消極的否定ノ事件ヲ擧テ證明セサルヘカラスト云テ規則トナス若シ宗ハ無跡ナルニ因喩ハ有跡ナルトアリトセシカ斯ノ如キ論法ノ宗ヲ立シ得ルト決定シテナキトス例ヘハ余カ先キニ造物主トハ是れ汝ガ妄想の感情なりト云ヒ又又造物主はあるにあらずト云ヒタルカ如キ其言葉ヲ見レハ表詮遮詮ノ區別アレトモ其意味ヲ討ヌレハ兩方共ニ神ヲ無ナリトスルニアレハ其性質無跡ナリ故ニ是等ノ宗ニハ二者共ニ論理^比と實驗^現の能ク證明する所に非るが故に譬へは

幽靈の如しトテモ云ハサルヘカラス斯ノ如キヲ名ヲ無跡ノ論法ト云大疏三紙^十因明之法以無爲宗無能成立トイヘルモノ是ナリ

第三 全分一分ノ類別

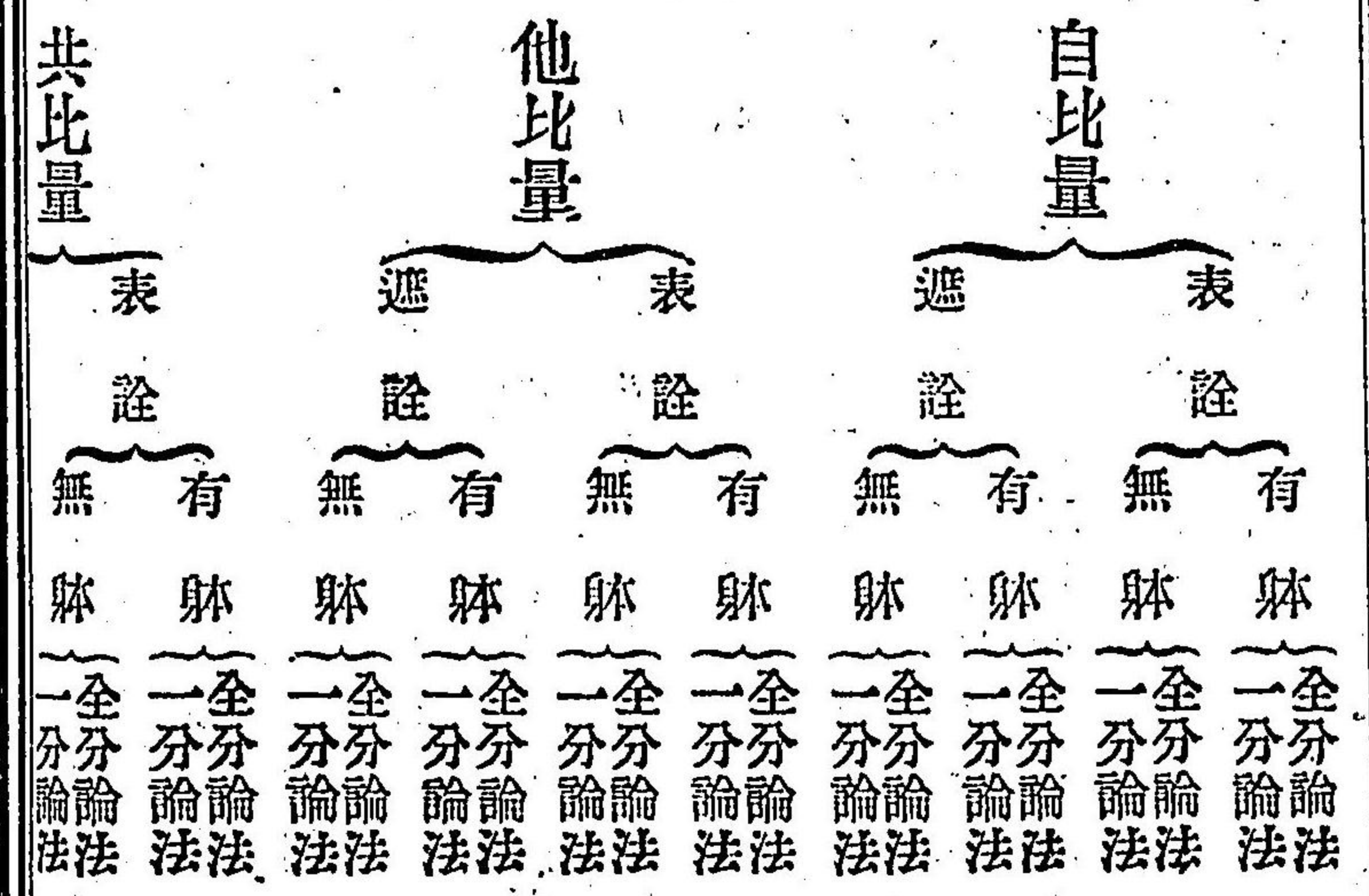
ト云ハ已上分類セル論法其宗ノ分量如何ニ由テ全分ノ論法一分ノ論法ト云ヘル二類ノ區別ヲ生スルコトナル其全分ノ論法ト云ハ宗ノ命題ニ前後ノ二名辭アル中後名辭ガ前名辭ノ全部分ニ遍通シテ少シモ餘ストエロナキモノ之ヲ名ヲ全分ノ宗ト云假ヘハ凡て物質は勢力を有せりトカ或ハ凡て人は死を免れざる者なりトカ云カ如キハ其後名辭ノ意味ガ其前名辭凡テノ上ニ周布遍通シテ遺ル限ナキカ故ニ是等ヲ全分ノ宗ト云^{西洋ノ論理家カ太曼命題亦要スルニ凡ての甲は乙なり或は非乙なりト云式ニ當ルモノ是ナリ而シテ宗ノ分量ガ其前名辭ニ呼ヘル物跡ノ全部ニ遍通スルトキハ隨テ其因其喩モ宗ノ前}

名辭ノ全部ニ關係スヘキ事件ナラサルヘカラス若シモ宗ノ後名辭ニハ前名辭ノ全部分ニ遍通スル事件ヲ陳ヘナカラ其因其喩ハ宗ノ前名辭中ノ一部分ニノミ關係スル事件ヲ擧ノカ然ラハ其因ニハ必ス一分ノ兩俱不成或ハ一分ノ隨一不成ト云カ如キ過ヲ招キ其喩ニハ一分ノ所立不成ト云カ如キ失ヲ招クト成ル故ニ宗ノ後名辭ガ前名辭ノ全部分ニ遍通スルト共ニ其因其喩モ全部分ニ關係スル事件ナラサルヘカラスト云ヲ規則トナス之ヲ名ヲ全分ノ論法ト云ナリ

又其一分ノ論法ト云ハ宗中ノ後名辭ハ前名辭中ノ一部分ニ限リタル事件ヲ陳ルニアリテ全部分ニ周布セサルモノ之ヲ名クテ一分ノ宗ト云例ヘハ日本人ハ英語に自在ありトカ或ハ動物は四足を有するものなりトカ云カ如キハ其後名辭ノ意義ハ前名辭中ノ一部分ニ限リテ全部分ノ義理ヲ陳ヘタルニハ非ルナリ故ニ是等ヲ一分ノ宗ト云西洋家ノ論理

命カ小量命題亦ハ不周布要スルニ或る甲は乙なり亦ハ非乙なりト云式
命題ト云モ是ナリ
 ニ當ルモノ是ナリ斯ノ如ク宗ノ分量カ前名辭ニ呼ヘル物中ノ一部分ニ限ル事柄ナルトキハ隨テ其因其喩モ前名辭中ノ一部分ニノミ關係スヘキ事件ナラサルヘカラス然ラサルトキハ其因ハ不定人過ヲ招クトナリテ其論ハ立シ得サルナリ故ニ宗ノ後名辭カ前名辭中ノ一部分ニ限ル事件ナルト共ニ其因モ其喩モ一部分ニ關係スル事件ナラシトテ要ス之ヲ名クテ一分ノ論法ト云ナリ

上來論法ノ性質并ニ分量ヲ辨明シタリ然ルニ是等ノ種類ハ互ニ隔離セルモノニアラス初メノ三量中ニ表詮遮詮ノ二類ガ分レ其表詮遮詮ノ中ニ於テ有跡無跡ノ二類ガ分レ其ノ有跡無跡ノ中ニ於テ全分一分ノ二類ガ分レ來ル之レニ由テ余ハ前陳ノ分類方ヲ概括シテ茲ニ圖表スルト左ノ如シ



因明學ニ於テ論法ノ種類ヲ分別スルコト大旨如此

第三章 論法三分ノ順序

余序論ニ於テ已ニ辨論スルカ如クろじつ三段ノ論式ハ大前提小前提斷按ト順序次第セルカ故ニ之ヲ因明ヨリ見レハ能立所立ノ順序ト謂ヘキモノ、如シ然ルニ因明三分ノ論法ハ之ニ反シ所立能立ノ順序ヲ以テ第一宗第二因第三喻ト次第スルヲ規則トナセリ抑モ此事ヤ古因明新因明ノ區別ナク彌勒無着世親陳那天主ノ如キ大論師トイヘトモ更ニ異論ナク傳承スルトコロナリ豈誰カ之ヲ動かスヘケンヤ夫レ因明三分ノ論法ガろじつく三段ノ論式ト順序ノ相反スル所以ハ

論理學明因

余已ニ辨スルカ如ク彼ハ思想ノ運用方ニ於ケル自悟主義ノ論式ナルト此ハ言語ノ問答法ニ於ケル悟他主義ノ論法ナルト彼此研究ノ主義殊ナルニ由テ此反對ヲ見ルモノナリ豈之ヲ怪ンテ彼ヲ此レニ依テ其順序ヲ改メ又此レヲ彼ニ依テ其次第ヲ革ムヘケンヤ然ルニ近頃彼ニ依テ此レノ順序ヲ改メントスル人アリト聞ク余ハ其意ヲ解スルニ苦シム者ナリ若シ宗因論ト順序スルガ不都合ナラハ因明學ノ革命主ト稱セラル、陳那論師ハ何故ニ之ヲ改ムルヲナク舊ニ依テ由宗因論多言辨說他未了義理門論初トイヘル乎天主論師モ亦何故ニ舊ニ依テ由宗因論多言開示諸有問者未了義入正理論初トイヘル乎蓋シ之ヲ改メサルヨリ之ヲ改ムル方ニ於テ然ルヘキ理由ノ存スルナラハ余輩モ陳那天主等ニ拘泥セス進テ之ヲ改作ヒンコト望ム者ナリ然ルニ余輩ハ其之ヲ改ルハ其之ヲ改メサルニ遙カ劣ルト云理由ヲ見出ス者ナリ余

總

論

輩ハ之ヲ改メテ論因宗ト次第スレハ悟他ヲ以テ主義トナシテ問答往復ノ規則ヲ訂正シタル因明學ノ特色ハ爰ニ打破シ去ルト見ル者ナリ故ニ余輩ハ此順序ヲ改ルコト得ス凡ソ論壇上ニ於テ甲先ツ問ヒ乙先ツ告ルハ抑モ那邊ニアル乎曰ク宗是ナリ宗既ニ告白シタルトコロニテ立敵方ニ相分レ論諍茲ニ發生スルモノナリ故ニ次ニ因ヲ説カサルヲ得サル場合トナル既ニ因ヲ説クモ敵者ニ尙充分ノ悟了ナキトキハ更ニ論ヲ陳ヘ以テ青天白日彼ニ一點ノ疑雲ナキニ至ラ令ルハ問答往復以テ吾レノ懷ケル旨義ヲ外人ニ承諾セシムル自然ノ順序ナルモノナリ豈誰カ此順序ヲ改ムヘケンヤ故ニ余ハ爰ニ瑜伽論十五卷ノ文ヲ擧ク以テ因明學三分論法ノ順序ヲ定メオカント欲ス其文ニ曰ク問何故先立宗耶答爲先顯示自所愛樂宗義故問何故次辨因耶答爲欲開

顯依現見事決定道理令他攝受所立宗義故問何故次引喻耶答爲欲顯示能成道理之所依止現見事故ト云々讀者更ニ大疏一三紙ヲ披キ因明三分ノ順序ハ改ムヘキモノニアラスト云丁ヲ思ヘ余ハ其贅論ヲ止ム

第二段 別論

第一部門 眞能立(顯正的眞正論法)

第一章 宗ノ組織方

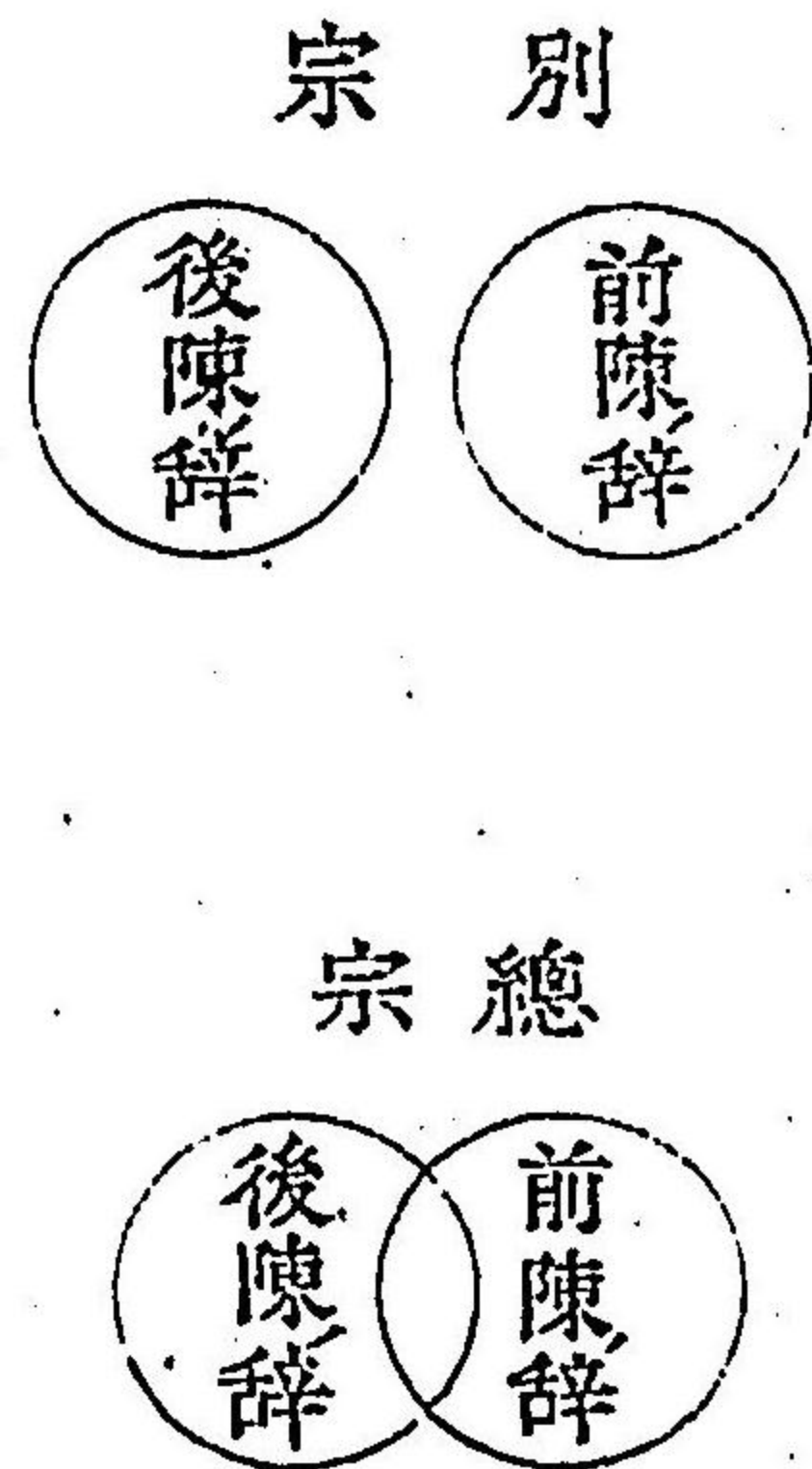
第一節 總宗別宗ノ區別

余總論ニ於テ示ス如ク因明學全部ヲ分類スルニ八大部門トナル故ニ下ノ別論ハ八門ノ順序ヲ追テ先ツ眞能立ヨリ講述セサルヘカラス而シテ其宗ヲ先ニシ其因ヲ次ニシ其喻ヲ後ニスヘキハ因明論法ノ規則ナルヲ亦前ニ陳ル如シ故ニ今ヤ第一宗ノ組織方ヨリ講述セサルヘカラス而シテ宗ノ組織方ヲ示サントスルニハ先ツ總宗別宗ノ區別關係ヲ示サントテ要ス

夫ノ宗ハ二個已上ノ名辭ト一個ノ接續詞ニテ成ルモノナリ此ニ就キ
 慈恩大師曾テ大疏ヲ作りシヨリ以來因明家ノ慣用語トシテ二個已上ノ
 名辭ニシテ未ダ接續詞ヲ加ヘサルモノ即チ前陳ノ名辭ト後陳ノ名辭ト
 ノ兩方ガ未ダ結合セサル位ヲ名ヲ宗依トイヒ已ニ接續詞ヲ以テ之ヲ
 結合シタルトコロ之ヲ名ヲ宗。跡ト稱シ來リテナリ蓋シ前陳後陳ノ名
 辭ハ宗ヲ組成スル爲ノ依憑トナルカ故ニ之ヲ宗依ト名ヲ已ニ結合シ
 タル所ハ立者ノ尊崇シテ止マサル所ナルト共ニ敵者ノ破毀スル所ナ
 レハ立敵論諍ノ目的物ハ只此ニアルカ故ニ之ヲ宗跡ト名ケタリ然ラ
 ハ亦間然ス可ラサル名稱ナリ然リト雖モ余ヲ以テ之ヲ見ルニ宗依宗
 跡ノ語ハ普通ノ耳ニ聞エ難キヤノ恐レアリ故ニ余ハ宗依ノ語ヲ改メ
 テ別宗ト名ケ宗跡ノ語ヲ換ヘテ總宗トイハントス（蓋シ大疏二六同三
 紙初ニ據テ總宗別宗ノ目ヲ設テアレハ余ノ私立ニハ非ルナリ故ニ是ヨ

リ下ニ別宗トアレハ即チ宗依ノ改名詞ナリ又總宗トアレハ則チ宗跡
 ノ改名詞ナリト思ヘ
 然リ而シテ總宗ト別宗ヲ辨別スルノ要點二件アリ曰ク一ニ相離不相離
 ノ區別二ニ同許不同許ノ區別是ナリ第一ニ相離不相離ノ區別ヨリ説
 カン夫レ別宗ト云ハ二個已上ノ名辭即チ甲名辭ハ甲自身ニ獨立シ乙
 名辭ハ乙自身ニ獨立スト云様ニ數般ノ名辭ガ各個不羈獨立スル所
 ニ名ツク又總宗ト云ハ其元來各自ニ不羈獨立シテアルトコロノ名辭
 ヲハ接續詞ヲ以テ二個已上結合シタルトコロニ名ツク既ニ然ラハ別
 宗總宗ハ相離不相離ノ區別トイハサル可ラス例ヘハ日本ト云名辭モ
 鳴國ト云名辭モ東洋ト云名辭モ獨立國ト云名辭モ皆元來各自ニ獨立
 シテアル語ナリ之ヲ名テ別宗ト云フ然ルニ人アリ之ヲ結合シテ日本
 ハ鳴國（二個ノ名辭ヲ結合スルノ例）或ハ日本ハ東洋（三個ノ名辭ヲ結合スルノ例）ノ獨立國なり

ト云フアヲソカ即チキ。ト云接續詞ヲ加ヘタルトコロヲ總宗ト成ル
之ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



之ヲ要スルニ前後ノ名辭相分レタル位ヲ別宗ト名ク相合シタル位ヲ
總宗ト名ク 第二ニ同許不同許ノ區別ト云ハ凡ソ真正ノ宗ハ其別宗
ヲ見レハ必ス立敵同許ノ名辭ニシテ其總宗ハ必ス立者之ヲ許シ敵者
之ヲ許サ、ル事件ニ限ル若シ之ニ反シ別宗マデモ立敵ノ中ニ不承知
ナル名辭ナリトセソカ然ラハ不承知即チ不同許ノ名辭ヲ以テ總宗ヲ

組成セントスルモ成ス能ハサルヲナリ故ニ別宗ハ立敵同許ノ名辭ニ
限ルモノトス若シ別宗ノ立敵同許ナルト共ニ總宗ニテモ立敵同許ナ
リトセソカ然ラハ宗トノ立敵ノ論證スヘキモノニハアラサルナリ故
ニ總宗ハ必ス立敵不同許ニ限ルモノトス之ニ由テハ別宗總宗ハ同許
不同許ノ區別ニアリトイハサル可ラス例ヘハ宗○教ト云語モ普通ニ許
ス名辭ナリ人○生トイヒ必要トイフ語モ普通ニ許ス名詞ナリ然ルニ宗
教家アリテ無宗教家ニ對シ宗教ハ人生に必要ナリトイハソカ然ラハ
立者ハ宗教ノ人生ニ必要ナルヲ許セトモ敵者即チ無宗教家ノ中ニ
ハ宗教ヲ以テ人生ニ必要ナリトスルヲ許サス故ニ之ヲ相離シタル
トコロテハ雙方同許ナルニモ係ラス之ヲ相合シタルトコロニテ一方
ハ許ルシ一方ハ許サ、ルヲ、ナルカ如シ

第二節 別宗前後ノ區域

總宗ヲ組立ル別宗ノ名辭ハ二個ノ一モアリ或ハ三個四個五個ノ一モアリテ一定セサルモノナリ而シテ其數個ノ名辭カ必ス前後ノ兩段ニ相分ルモノナリ其ノ前後兩段ト相分ルニツキ前後共ニ一個ノ名辭ナルトアリ或ハ前段ハ一個ニシテ後段ハ數個ナルトアリ或ハ前段ハ數個ニシテ後段ハ一個ナルトアリテ前後ニ名辭ノ數ノ多少モ亦一定セサルナリ請フ茲ニ二三ノ例ヲ舉グ

- (一) 教育は盛んにすへし前陳後辭共ニ一個ノ例ナリ
- (二) 女子の教育は必要なるへし前陳ハ一個ノ例ナリ
- (三) 女子に高等の教育は必要にあらず前陳ハ三個ノ例ナリ
- (四) 宗教は治世に効益あるへし前陳ハ一個ノ例ナリ
- (五) 宗教は國家の風俗に關係すへし前陳ハ三個ノ例ナリ

斯ノ如ク總宗ヲ組立ル名辭ノ數ハ時ト場合ニ依テ一定セス名辭ノ數ノ一定セサルノミナラズ其前段ト後段トニ分ル、ニ就テモ前段ノ名辭必ス多キニアラス又必ス少キニアラス後段ノ名辭モ必ス多キニアラス亦必ス少キニアラス前後ノ多少ハ時ト場合ニ依テ一定セサルナリ而シテ其前段ト後段トノ境界標ハ日本語ナレハト云手仁葉ヲ用ユルトコロニアリハ手仁葉ヨリ前部ニ屬スルモノ之ヲ因明學ニハ前陳ト云西洋論理家ノ主辭又ハ手仁葉ヨリ後段ニ屬スルモノハ其接續詞即チ「べし」なりである等ノ語ヲ除キタル外ハ皆因明學ニ於テ後陳ト云西洋論理家ノ賓辭故ニ是ヨリ下モニ前陳後陳ト云テ出タルハ即チ別宗中ノ前段後段ヲ指スノ語ナリ思ヘ然リ而シテ余ハ是ヨリ下モ講述ノ便ヲ計リ甲乙丙ノ記號ヲ設ケテ論法ノ義脈ヲ辨明セント欲ス其表左ノ如シ

前何は……甲
 宗 陳後何なるへし……乙
 因……何なるが故に……丙

余ハ此記號ニ依テ下モ講述スルカユエ讀者ハ甲トアレハ別宗ノ前陳
 ナリ乙トアレハ別宗中ノ後陳ナリ丙トアレハ即チ因ナリト見ヨ又余
 ハ同喩異喩ノ解釋モ此記號ヲ應用セント欲スレハ讀者宜シク之ヲ記
 憶シテ忘ル、勿レ

第三節 別宗前後ノ辨別

前節ノ如ク別宗ハ前陳後陳ノ兩部ニ分ルモノナリ而シテ其兩部ハ只發
 言上ノ時間ニ就テ前後ヲ異ニスルノミカ將々其前後ト分ルニ就テハ
 他ニ何乎性質上ノ異ナリテモアルモノ乎ト討ルニ只時間上其發言ニ
 前後アルノミナラス又其前後ト分ル、ニ隨テ性質上ニモ其異ヲ見ル

第三節 (別宗前後ノ辨別)

モノナリ此ニ就キ因明學ニハ躰ノ三名義ノ三名ト云論アリテ前陳ヲ
 凡テ躰ト名クニ同シト云後陳ヲ凡テ義ト名クニ同シト云且ツ其躰トイハ
 ル、前陳ノ意義ヲ顯彰センカ爲メニ三名ヲ施シ又其義トイハル、後
 陳ノ意義ヲ顯彰センカ爲メニ亦三名ヲ設ケタリ大疏一廿六紙其表左
 ノ如シ



先ツ總メ之ヲ論スルニ前陳ヲ躰ト名ク後陳ヲ義ト名ク其躰ト名クル
 意ハ前陳ハ立敵ノ相諍フ主質ナルヲ顯ハス其義ト名クル意ハ後陳
 ハ立敵ノ相諍フ義理ナルヲ示ス又別メ之ヲ論スルニ三重アリトシ
 其第一重ニ前陳ノ躰ヲ自性ト名ク後陳ノ義ヲ差別ト名クタリ其前陳

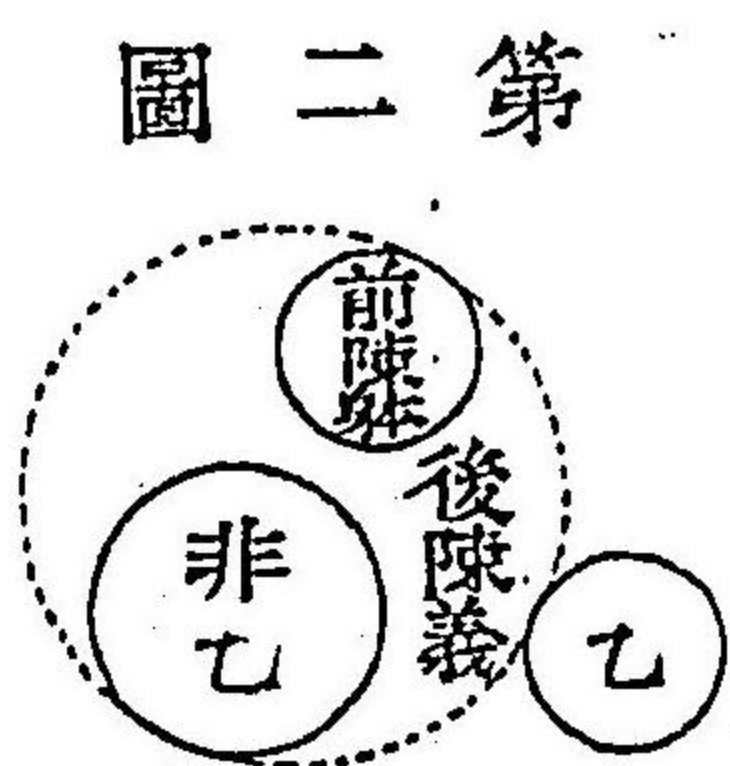
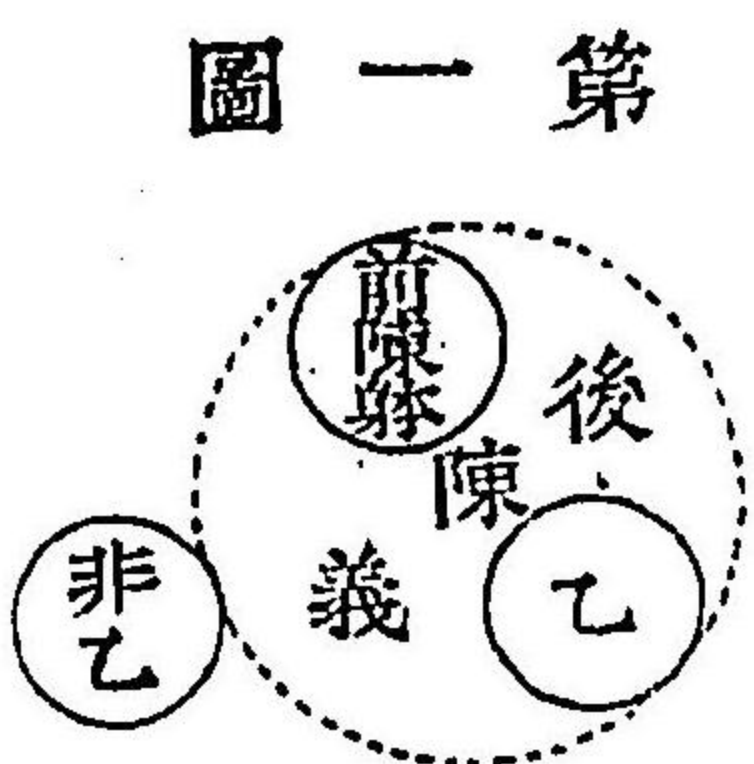
ヲ自性ト名クル所以ハ凡ソ先キニ陳ル名辭ト云モノハ只其者ヲ呼表
 スルニ止マリテ未タ何等ノ義理ヲモ顯彰スルコトナキカ故ニ之ヲ自性
 ト云例ハ「月は清し花は美しくしく山は静かに水は冷かなりト云カ如キ
 月トイヒ花トイヒ山トイヒ水トイフ前陳ハ只其自昧ヲ呼表スルニ止
 マルモノナリ故ニ之ヲ自性ト云フ自性トハ自昧ト又其後陳ヲ差別ト
 名クル所以ハ凡ソ後ニ陳ル辭ト云モノハ其前名辭ニ望レハ能ク前ヲ
 分別スル意義アルト共ニ又之ヲ其餘ノ者ニ望レハ餘他ノ外物ニモ通
 貫スルモノナリ之ヲ前例ニ就テ説明センカ月は清しトイヘハ月ト云
 語ハ其自昧ニ局ル名ナントモ清しト云語ハ月ノ清キヲ分別スルト共
 ニ亦百花ノ清キニモ通シ萬川ノ清キニモ通シ花は美しくトイヘハ花
 ハ其自昧ニ局ル名ナレモ美しくト云語ハ花ヲ説明スルト共ニ亦餘ノ
 衣服等ノ美ニモ通スルカ如シ大疏一紙廿七今此因明但局自昧名爲自性

通他之上名爲差別トイヘルモノ是ナリ
 此自性差別ノ語ハ本ト瑜伽論ニ出タルハ後代ノ因明家ノ慣用語ト
 ナレトモ余ハ其語ノ改作ヲ悞ス者ナリ何トナレハ自昧ニ局ルノ故
 テ以テ自性ノ語ヲ解釋スルコトハ好クントモ他ニ貫通スルノ故ヲ以
 テ差別ノ語ヲ解釋スルコトハ甚ダ穩當ナラサルカ故ナリ故ニ余ハ之
 テ改メテ差別ノ語ヲ共相或ハ普通トイハソ方々至當ナラント思ヘ
 リ
 第二重ニ前陳ノ昧ヲ有法ト名ク後陳ノ義ヲ法ト名クテ其前陳ヲ有
 法ト名クタル所以ハ凡ソ前ニ陳ル名辭ニハ必ス後ニ陳ル辭ノ意味ヲ
 有スルモノナリ故ニ其後陳ヲ法ト名クルニ對シ前陳ハ彼レ後陳ノ法
 テ有セリトノ意味ニテ有法ノ名ヲ與ヘタリ而メ其後陳ヲ法ト名クマ
 ル所以ハ夫レ法トハ本ト軌範ノ義ニ名ク換言スレハ吾人ノ思想ヲ惹

起ス爲ノ摸範ニナルトコロヲ法ト名ク然リ而メ前陳ノ名辭ハ只其者
ヲ呼稱スルニ止ルユニ敵者之ヲ聽クモ只凡庸ノ思想ヲ生スルノミ未
ク劇シキ思想ハ起ラサルナリ然ルニ後陳ヲ以テ前陳ヲ説明シテ甲ハ
乙ナリトイヘハ敵者ノ方ニ劇クシキ思想即チ異見ヲ生スルヲ見ル爰
ニ於テ立者更ニ因喩ヲ陳ヘテ敵者ノ思想ヲ一轉シ立者ノ説即チ後陳
ノ説明ヲ彼ニ悟了セシムルカ議論ノ約束ナリ故ニ後陳ニハ殊更ニ法
ノ名ヲ命シタリ其法ト命名スル後陳ヲ有スルモノ是レ前陳ナルカ故
ニ前陳ニ有法ノ名ヲ命シタリ之ヲ要スルニ前陳其者ニハ後陳ニ云ヒ
顯ハス事柄ヲ保存セルモノナリ故ニ前陳ヲ能有トスレハ後陳ヲ所有
トナサ、ルヘカラストノ意味ニテ有法ト法ノ名ヲ命シタリ
第三重ニ前陳ノ昧ヲ所別ト名ク後陳ノ義ヲ能別ト名クタリ其前陳ニ
所別ノ名ヲ與ヘ後陳ニ能別ノ名ヲ與ヘタル所以ハ凡ソ前陳ト後陳ヲ

對望スルニ後ヲ以テ前ヲ分別スルト共ニ又前ヲ以テ後ヲ分別スル意
味アルモノナリ例ヘハ驚ハ白シト云カ如キ後ヲ以テ前ヲ照セハ白キ
驚ニシテ黒キ驚ニアラスト分別スル意味アルト同時ニ又前ヲ以テ後
ヲ照セハ驚ノ白ニシテ雪等ノ白ニハアラスト簡別スル意味アリ之ヲ
因明ニ互相差別ト云然ルニ立敵ノ諍ヲ論點ヲイヘハ前ヲ以テ後ヲ分
ツトコロニアラスト後ヲ以テ前ヲ分ツトコロニアリ重言スレハ前陳ノ
甲ヲハ後陳ヲ以テ乙ナリ非乙ナリト分別スルトコロ是レ立敵ノ論點
ナリ故ニ前者ヲ所別ト名ク後者ヲ能別ト名クテ後陳ハ前陳ノ上ニ保
存シ居ル乎否乎ト云トコロ是レ立敵ノ論點ナルヲヲ顯ハセリ
已上三重ノ得名ハ要スルニ前陳ハ其者ニ局ントモ後陳ハ其外ノ者ニ
モ通スト云フヲ顯ハスハ第一重ナリ又後陳ハ餘他ノ者ニ通ストモ
前陳其者ノ上ニ固ヨリ保存シ居ル事柄ヲササルヘカラスト云コトヲ

知ラセタハ第二重ナリ又後陳ハ餘他ノ者ニ通スト云モ凡テニ通スト云ニハアラス故ニ乙トイヘハ其前陳ハ非乙ニアラスト分別スルトニ成リ非乙トイヘハ前陳ハ乙ニアラスト分別スルトニ成ルト知ラセタハ第三重ナリ之ヲ圖ニ表セハ左ノ如クナル



第一圖ハ甲ハ乙ナリノ式ニ依リ第二圖ハ甲ハ非乙ナリノ式ニ依ル今姑ク第一圖ニ就テ説明センカ後陳ノ義ハ前陳ノ外ナル乙ニマテ關係スル所ハ自性差別ノ名ヲ得タル狀ヲ示ス又後陳ハ前陳ノ全部ニ關係

ノ居ル所ハ有法ノ名ヲ得タル狀ヲ示ス又後陳ハ乙ノ方ニノミ關係ノ非乙ノ方ニ關係セサル所ハ所別能別ノ名ヲ得タル狀ヲ示スニアリ第二圖之ニ准ノ知レ

第四節 前陳後陳ノ轉換

前節ノ如ク説キ來レハ人或ハ前陳トナル名辭ハ後陳トナルトナク又後陳トナル名辭ハ前陳トナルトナキモノト想ハソ然ルニ前陳トナリシ名辭モ時ニ依テハ後陳トナリ後陳トナリシ名辭モ時ニ依テハ前陳トナルトアリ之ヲ前陳後陳ノ名辭轉換ト云例ヘハ人は道義心なかるヘからすトイハソカ人ハ前陳ニシテ脉ナリ道義心ハ後陳ニシテ義ナリ又之ヲ轉換シテ道義心は人の特性なりトイハソカ道義心ハ前陳ニシテ脉トナリ人ハ後陳ニシテ義トナルカ如シ凡ソ學理上ニテハ佛性相門云脉トイヒ自性トイフ語ハ万有ノ自脉自質ニ名ケ義トイヒ差

別トイフ語ハ万有各個ノ屬性ニ名クタモノエニ躰ハ決定ノ躰ニシテ
 義ト成ルコトナク義ハ必ス義ニシテ躰ト成ルコトナクニモ因明門ニ來リ
 テハ躰モ決定ノ躰ニアラス或ハ義ト轉スルコトアリ義モ決定ノ義ニア
 ラス或ハ躰ト換ルコトアリ要スルニ前陳即チ一命題ノ中はノ手仁葉ヨ
 リ前ナル區域ニ入レハ如何ナル名辭モ躰ト呼ハレ自性ト云ハル、後
 陳即チ一命題中はノ假名ヨリ後ナル區域ニ入レハ如何ナル名辭モ義
 トイハレ差別トイハル此カ學理上ノ得名ト因明門ノ得名ト異ナルト
 コロナリ此ニ就キ躰義決定ト得名不定ノ兩說
 アレトモ今ハ得名不定ノ說ニ據ル

第五節 總宗ノ取捨選擇

已ニ別宗ヲ説明シ終レハ方ニ總宗ヲ講述セサルヘカラス總宗ヲ講セ
 ントスルニハ先ツ總宗ノ種類ヲ擧テ選擇シオカサル可ラス此ニ依テ
 總宗ノ種類ヲ尋ルニ大疏一紙廿四凡テノ宗ヲ分類スレハ四種アリトイ

ヘリ一ニ遍所許宗ニ先承稟宗三ニ傍憑義宗四ニ不願論宗是ナリ
 第一ニ遍所許宗ト云ハ世界一般ノ人類トシテ遍ク知ラサル者ナキ事
 件ヲ陳テ宗ト成スモノ是ナリ例セハ人類は餘の動物に優れり或ハ色
 は眼にて視るヘク聲は耳にて聞くヘシト云カ如キヲ遍所許宗ト名ク
 斯ノ如キ宗ハ既ニ一般ノ人ノ許シ居ル事柄ナレハ論ヲ俟タスシテ既
 ニ立セリ論ヲ俟タスノ既ニ立スルモノハ宗ト名クヘキモノニアラス
 縱ヒ假リニ宗ノ名ヲ與ルコトニシテモ論場ニ之ヲ説テ寸効モアルコトナ
 シ故ニ此ノ如キ宗ハ陳フヘカラサルモノトス
 第二ニ先承稟宗ト云ハ同黨類ノ中ニ於テ雙方共ニ先輩ヨリ承稟シテ
 許ルシ居ル事柄ヲ陳ヘテ宗ト成スモノ是ナリ例セハ佛教徒相集リテ
 現在の苦樂は過去の因縁に由るヘシト説キ耶穌教徒相集リテ未來の
 昇沈は神の賞罰に由るヘシト説クカ如キヲ先承稟宗ト名ク此ノ如キ

宗ハ第一類ノ如ク雙方ノ間ニ曾テ許シ居ル事件ナレハ之ヲ論スル
 モ寸効ナキカユエ論場ニ陳フヘカラサルモノトス
 第三ニ傍憑義宗ト云ハ茲ニ甲乙兩事件ノ立スヘキアリトセンカ中ニ
 於テ立者甲事件ノミヲ立シテ乙事件ハ只意内ニ懷包スルノミ未ダ言
 語ニ發表ノ論スルヲナシ未ダ言語ニ發表シテ之ヲ論セサントモ甲事
 件アレハ乙事件モ屹度アルヘキカ故ニ甲事件ノ立スルト共ニ乙事件
 モ亦傍ラ立スルヲ得ヘシト意ヲ竊カニ憑ミ想フトエロテ傍憑義宗
 ト名ク例セハ耶蘇教者アリテ耶蘇ハ神子なるヘシト云フヲ論シテ未
 タ耶蘇ハ贖罪者あるヘシト云フヲ論セス彼レ耶蘇ノ贖罪者ナルヲハ
 未ダ論セサントモ既ニ耶蘇ノ神子ナルヲ立シ得レハ隨テ其贖罪ナ
 ルヲハ言論ヲ俟タスシテ既ニ立スト想ヒテ之ヲ言論ニ掛ケサルカ如
 キモノ是ナリ然ルニ因明ハ言論ヲ以テ牒トス故ニ未ダ言論ニ掛ケル

トナク只立者ノ意内ニ甲事件ノ立シ得レハ乙事件ハ辯論ヲ要セスシ
 テ立セリト想フトモ未ダ言論ニ掛ケサル間タハ其乙事件タルヤ立シ
 得タリト云モノニアラス故ニ凡テ言ニ云ヒ兼テ只意ニ斯クあるヘシ
 ト合ミ居ル宗ハ眞正ノ宗ニハアラサルモノトス
 第四ニ不願論宗ト云ハ是ハ眞正ノ宗ニ名ク眞正ノ宗ニ不願論宗ノ名
 テ命シタルニ二意ヲ合メリ一ニ凡ソ自己ノ教理ヲ主張セントスルニ
 ハ敵者ノ持論ヲ願慮セサルノミナラス故サテニ敵論ニ乖キテ自論ヲ
 張ルカ故ニ之ヲ不願論宗ト名ク二ニ又時アリテハ敵黨ノ中ニ組ミ入
 リ彼カ教理ニ就テ論ヲ立ツルヲアリ其時ハ假リニ敵論ニ順ノ宗ヲ立
 シ自論即チ自己ノ教理ニ乖クヲモ願慮セサルカ故ニ之ヲ不願論宗
 ト名ク其例ヲ需ルニ佛教徒アリテ耶蘇教者ニ對シ吾人の苦樂は自ら
 招く結果なるヘシト云ハソカ即チ前者ノ例ト云ヘシ又吾人の靈魂は

生命と共に滅すへし本と生命と共に生ぜし者なるが故にトイハシガ
然ラハ即チ後者ノ例ニ當レリ何トナシハ靈魂ハ耶蘇教徒ノ論ニ佛
教徒ノ許スヘキモノニ非ルカ故ナリ斯ノ如キ二類ノ不願論宗ハ共ニ
論場ニテ立スヘキモノナリトス
上陳ノ如ク凡テノ宗ヲ分類スルニ四種アリト雖モ前三種ハ立スヘキ
モノニアラス唯第四ノ不願論宗ノミ立スヘキモノナリト云カ總宗ノ
選擇ナリ
其第一第二ヲ簡ヘル意ハ總宗ハ違他順自ヲ以テ規則トスルカ故ナリ
其第三ヲ簡ヘル意ハ凡ソ議論ハ言語ヲ以テ他ニ悟ラ令ルヲ要ス然ル
ニ言語ニ發セス意内ニ懷包セルモノハ悟他ノ用ナキカ故ニ之ヲ簡ヘ
リ獨リ第四ノ宗ノミ違他順自ナルト共ニ亦言論ニ發表セルカ故ニ唯
此ノミヲ選ヒ取タモノ也

第六節 總宗ノ性質

說ヲ爰ニ至レハ讀者ハ已ニ總宗ノ性質如何ハ辯チ俟タスシテ粗々悟
了アリシナラン然レトモ余更ニ之ヲ重説シ以テ宗ノ組織方ノ結論ニ
供セントス
夫レ總宗ノ性質ハ一言以テ覆フトキハ違他順自ト云ニアリ總宗ハ違
他順自ナルカ故ニ之ヲ所立ト云フヲ得タリ又違他順自ナルカ故ニ之
ヲ宗ト名クルヲ得タリ若シ總宗ノ性質違他順自ニアラサルカ然ラ
ハ因喻ヲ以テ立セントスル目的物ニアラス因喻ヲ以テ立セントスル
目的物ニアラサレハ何ソ所立ト云フヲ得ン宗既ニ所立ニアラサレ
ハ因喻モ亦能立ト云フヲ得ス然ラハ既ニ所立ナク亦能立ナシ既ニ所
立ニアラス亦能立ニ非レハ因明トモ云ヘカラサルモノナリ又總宗ノ
性質違他順自ニアラサルカ然ラハ其者ヤ實ハ宗ト名クヘキ者ニアラ

因明學理論

サルナリ何トナレハ宗ト云ハ論場ニ臨ミ立敵ト相分レタル中ニ於テ
 彼レ愈々嫌ヘハ此レ愈々樂ンテ立セントスル立者ノ本尊ニ名クオモ
 ノナルカ故ナリ大疏一紙宗是何義所尊所崇所主所立之義トイヘルモ
 蓋シ此意ナリ
 既ニ然ラハ別宗ノ立敵同許ナルニ反シ總宗ハ必ス立敵不同許ナル性
 質ニ限ルト定ムヘシ大疏一五紙宗所依必須極成依之宗性方非極成ト
 イヒ又ク宗依必依共許能依宗性方非極成能立成之本所證故トイヘル
 文ノ如キ皆此意ヲ陳ヘタモノナリ
 余爰ニ於テ知又因明ハ既知界ヲ以テ未知界ヲ量ル論理學ナリト云フ
 テ人動モスレハ販納論理ハ既知ヲ以テ未知ヲ推ス法式ナリ續釋論理
 ハ既知ヲ以テ既知ヲ推ス法式ナリ而シテ因明ハ續釋論理ナルカ故ニ既
 知ヲ以テ亦既知ヲ推ス法式ナリト云者アレトモ彼等ハ未タ因明學ヲ

眞能立

詳ニセサル批評ナリ抑モ因明ハ純粹續釋法ナルニアラス歸納法ノ分
 子ハ固ヨリ含藏セリ其事ハ現量比量ノ下ニ至テ知ヘシ且ツ之ヲ續釋
 法ト視ナノモ之ヲ既知界ヨリ未知界ヲ推シ量ル法式ナリト云フヲ得
 ル所以ハ總宗ノ性質ハ立敵不同許ニ限ルト云所ニアリ夫レ宗ハ立者
 ニアリテ既知界ナレハ敵者ニアリテハ未知界ナリ敵者ニアリテハ未
 知界ナルカ故ニ因明ヲ以テ之ヲ成立スル規則ヲ設テ者ナリ故ニ因明
 ノ論法ハ全ク既知ヲ以テ未知ヲ量ル爲ノ法則ナリト云フヲ得ル天主
 カ由宗因喻多言開示諸有問者未了義トイヘルモ蓋シ此ノ謂ヒナリ
 余爰ニ於テ亦考ルテアリ曰ク西洋論理ノ斷接ニハ接辭ニなり或ハで
 あるト云如キ語ヲ用ユレハ因明ハ宗ノ接辭ニベシト云語ヲ用ユルヲ
 規則トスルト是ナリ抑モろじつくノ第三段ハ已ニ推斷シタル結果ナ
 リ故ニ之ヲ斷接ト名ク因明ノ宗ハ未タ推斷セサル位ナリ未タ推斷セ

サル位ナルカ故ニ論者ノ甲ト想ヘルニ對シテハ乙なるべしト説キ又乙ト想ヘルニ對シテハ丙なるべしト説ク然ラハ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ因明ノ宗ニベシト云接續詞ヲ用ルハ即チ宗ハ性質ハ違他順自ナルヲ顯彰セシカ爲チト云ハサルヲ得ス故ニ方便心論ニハ隨所執ト説キ理門論ニハ惟隨自意樂爲所成立説名宗ト説モ入正理論ニハ隨自樂爲所成立性ト説クリ蓋シ是レ四類ノ宗アル中ヲハ不顧論宗ヲ取ルヲ意味スルモノ也

第二章 因ノ設立方

第七節 因ノ性質論

因ト云語ハ既ニ序論ニ於テ陳ル如ク通常原因結果ト云時ノ因ト同シ意味ニ見テ可ナリ即チ敵者ヲシテ彼レ舊來未知ノ宗ヲ今方ニ了知セシムル爲ノ原因トナルモノハ因明三分ノ中ヲハ第二段特ニ其重位ヲ有

ス故ニ第二段ニハ特ニ因ノ名ヲ命シタリ然ラハ立敵對望シテ云ハ敵者ノ知識ヲ惹起ス原因ナルカ故ニ之ヲ因ト名ク又宗因對望シテ語ヲハ未決ノ宗ヲ方ニ決斷スルノ原因ナルカ故ニ之ヲ因ト名ケタリ而シテ如何ナル性質ノモノカ此因ノ名ヲ得ヘキ資格ヲ有スル乎ト討ルニ第一ニ因ハ前ノ總宗ニ殊ナリ立敵ノ間ニ曾テ同許スル事件ナラサルヘカラスト云テ規則トス若シ一方ニテモ許サ、ル事件ヲ取テ第二段ニ陳ルトセンカ其レハ因ト名クヘキ價直ハナキモノナリ何トナレハ敵者ノ新知識ヲ惹起ス力ナキト共ニ總宗ヲ決定スル力ナキカ故ナリ例ヘハ耶蘇敵者アリテ佛教徒ニ對シ耶蘇ハ救世主なるべし能ク萬人ノ罪を贖ふカ故にト云カ如シ抑モ耶蘇出テ萬人ノ罪ヲ贖ヘリト云フハ彼レ耶蘇敵徒ノミ許ス事柄ニシテ佛教徒ノ曾テ許サ、ルトナリ佛教徒ノ曾テ許サ、ル事件ヲ擧テ佛教徒ニ對シ耶蘇ハ救世主ナリト云

「ヲ知ルノ新知識ヲ惹起ス原因即チ理由ニ供セントスルモ此事ヤ不可ナリ斯ノ如キ者ヲ因明ニハ他隨一不成ノ過アル似因ナリトス第二ニ因ハ別宗中ノ前名辭ニ周布セル事件ナラサルヘカラスト云テ規則トス若シ第二段ニ陳ヘタル因ガ別宗ノ前名辭中ニ少シテモ周布セサル部分アリトセンカ然ラハ其周布セサル部分丈ニ望メテハ因ノ資格ヲ有スルヲ能ハサルモノナリ何トナレハ別宗中ノ前陳ニ關係ナキ事件ナレハ亦前陳其者ノ屬性ナル後陳ニ關係ナキカ故ナリ請フ此趣キハ下モ三相ノ第一遍是宗法性ノ下ニ至テ知レ之ヲ要スルニ甲は乙なり丙あるか故にト云論式ヲ設ケタル時ニ其因ハ甲其者ノ中ニ於ケル一種ノ屬性ナラサルヘカラスト而シテ丙ハ甲其者ノ中ニ於ケル一種ノ屬性ナリト云テ立敵共ニ曾テ許諾シ居ラサルヘカラスト云ニ飯ス然ラハ吾人苟クモ論ヲ立ントスル時ハ必ス先ツ

吾レノ利用スル理由即チ因ハ吾レノ將ニ論決セントスル別宗中ノ前陳其者ノ中ニ周布セルカ否カ又吾レハ之ヲ周布セリト見ルモ敵者ハ此事ヲ承知スルカ否ヤヲ吟味スルヲ最モ必要ナリ若シ之ヲ吟味スルニ今陳ル如キ二件ヲ缺ルヲアレハ其發論ハ無効ニ屬スヘシ若シ此二件ヲ缺クサレハ其發論或ハ立スヘキナリ之ヲ因ノ性質論トナス

第八節 因ノ分類方

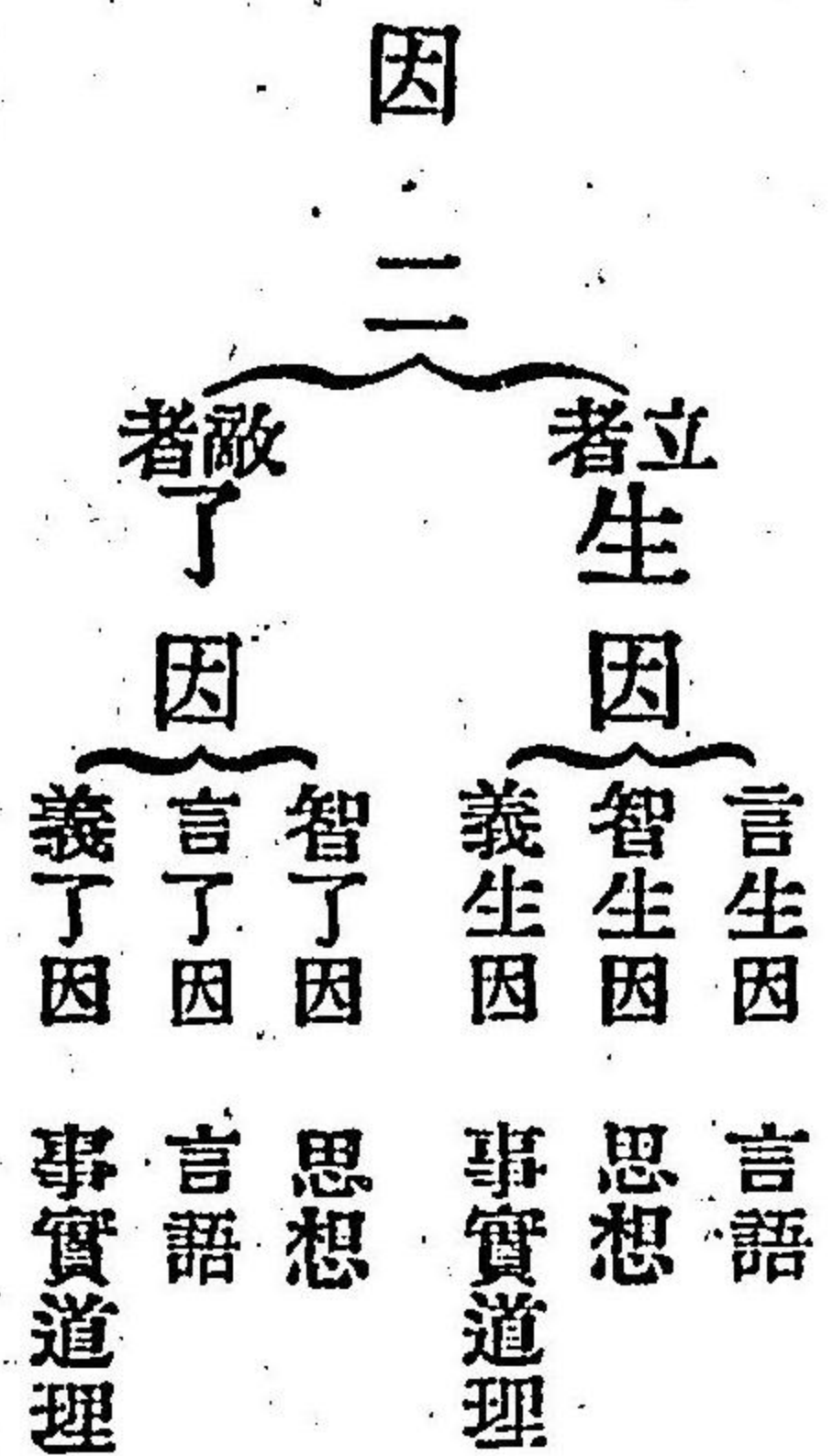
因ニ二個三個アルニハアラス然レトモ立敵ニ就テ論スレハ一因分テ二因ト成ル又之ヲ言語ト思想ト事實トニ就テ分レハ二因ニ又各々三類アルトナリテ終ニ一因分レテ六個ノ數ヲ成スルニ至ル之ヲ名ケテ六因ト云大疏二紙已下ヲ披ク予カ因ノ分類方ト題セルハ即チ此六因ヲ陳ルニアリ請フ先ツ二種ノ分類方ヨリ說ソ凡ソ議論ハ同時ニ二個ノ論ヲ爲スヘキモノニアラス其論件ハ一個ヲ

リ論件ハ一個ナレトモ之ヲ論スル者ハ必ス立敵ノ二派ト分ル、ト必
 定ナリ既ニ立敵ノ二派ト分ル、ユエ一種ノ論法ヲ立者ノ方ニ屬シテ
 見ルト敵者ノ方ニ屬シテ見ルト其所屬異ナルニ隨テ二様ニ分ル先ツ
 之ヲ立者ノ方ニ置テ見ンカ立者ハ敵者ノ悟解ヲ惹起スカ主要トナレ
 リ而シテ敵者ノ悟解ハ何ニ由テ生スル乎トイハ立者ノ言語ニ由テ彼
 レ敵者ノ悟解ハ生スルモノナリ故ニ立者ノ方ニテハ言語其重キニ居
 ストイハサルヘカラス而シテ其言語ハ敵者ノ悟解ノ知識ヲ生スルヲ効ト
 スルカ故ニ立者ノ言語之ヲ生因ト名ケテ大疏ニ如種生芽能別起用
 故名爲生因トアルハ蓋シ此意ナリ又之ヲ敵者ノ方ニ置テ論センカ敵
 者ハ舊來未了ノ事件即チ立者ノ告白シタルノ宗義ヲ悟了スルカ主要
 ナリ而シテ其宗義ハ誰カ之ヲ悟了スル乎トイハ即敵者ノ智力是ナ
 リ敵者真正ノ智力ハ能ク立者ノ言論ヲ公平ニ聽キ分クテ舊來未了ノ

宗義ヲ照シ見ル効能アリ故ニ敵者ノ智力ヲ名ケテ了因ト云フ大疏ニ
 如燈照物能顯果故名爲了因トアルハ蓋シ此意ナリ此ノ如ク生因了因
 ノ二種揃フタトコロデ方ニ一段ノ議論ハ完結セリト云場合ニ至ル若
 シ生因ナカラシカ然ラハ了因起ルニ由ナシ若シ了因起キサランカ然
 ラハ立論ヲ悟了スヘキ様ナシ又假令生因アリモ敵者愚ニシテ了因起
 キサランカ然ラハ亦立論ヲ悟了スヘキ様ナシ敵者立論ヲ悟了スル
 ナキカ然ラハ其議論ハ無効ノ徒勞ニ屬スルトナル應知識論ニ好結
 果ヲ見ルノ要素ハ生因了因ノ二元素ニアリト云フテ
 更ニ復タ此生因了因三種ニ分チ了因モ亦三種ニ分ツ所以ヲ辨明センカ
 抑モ立者ノ言論ハ何故ニ能ク敵者ノ智力ヲ發生スルカアル乎ト討ヌ
 ルニ立者ノ言論ハ正當ナル事實ト正當ナル事實ニ由テ推續スル道理
 ヲ陳ヘタル言論ナルカ故ニ能ク敵者ノ智力ヲ發生スルカアルナリ然

ラハ立者ハ何ニ由テ其正當ナル事實ト又正當ナル事實ニ由テ推續ス
 ル道理ヲハ能ク言論ニ陳ルヲ得タル乎曰ク他ナシ立者ノ智力現比
 最能ク事實ヲ見且ツ理法ヲ見ルカ故ニ之ヲ言論ニ陳ルヲ得ル然ラ
 ハ直接ニ敵者ノ智力ヲ惹起スモノハ立者ノ言論ニアリト雖モ間接ニ
 論スレハ立者ノ智力并ニ其智力ニテ見付タル事實道理モ敵者ノ智力
 ヲ惹起スカアリトイハサルヘカラス此ニ由テ立者ノ言語ヲ名ヲ言生
 因トイヒ亦立者ノ智力ヲ呼テ智生因トイヒ亦其智力ニテ見付タル事
 實道理ヲ指シテ義生因トイフ
 又敵者ノ智力ハ何ニ由テ舊來未了ノ宗義即チ曾テノ見解トハ反對シ
 タル立者ノ説ヲ悟了ノ異論ヲキニ至ル乎曰ク他ナシ立者ノ言論ヲ聽
 クニ由ル問テ云ク立者ノ言論ヲ聽ケハ何故ニ曾テノ見解ヲ翻ヘシテ
 立者ノ説ニ同意スルニ至ル乎曰ク立者ノ言論ヲ聽クト同時ニ言論以

テ陳ヘタル事實道理ヲ照シ見ルニ由ル既ニ然ラハ敵者カ直接ニ舊來
 未了デアリシ立者ノ宗義ヲ悟ルハ自動的ニ進ム智力ニ相違ナケント
 モ其自動的ニ進ム智力ハ本ト受動的ニ立者ノ言語并ニ其事實道理ヲ
 聽キ分ク知リ分ケタル由ル故ニ立者ノ言語並ニ其事實道理モ亦敵者
 ニ了因ヲ起スノ材料ニナルトイハサルヘカラス是ヲ以テ敵者ノ智力
 其者ヲ呼テ智了因ト名ク傍ラ立者ノ言論ヲ名テ言了因トイヒ又其事
 實道理ヲ指シテ義了因トイフ
 以上ノ二因六因ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



斯ノ如ク因ニ就キ二種六種ノ分析方アル所以ハ議論ハ必ス立敵二派ノ間ニ起ルカ故ト又因明ハ言語ト思想ト事實ノ三種孰レニモ其關係アルカ故トノ二故アルヨリノ斯クハ分析シタル者也二故アルニ由テ斯クハ分析シタル能立即チ論議ヲ決擇スルニ就キ直接的ニ強大ノ効力アル者ハ立者ノ言論ト敵者ノ智力是ナリ故ニ大疏二紙ニ六因ヲ説キ終リテ分別生了雖成六因正意唯取言生智了由言生故敵證解生由智了故隱義今顯故正取二爲因相牀トイヘリ而ノ其生因了因ノ二種中ニ於テ更ニ分別スルトキハ生因ハ根本ナルカ故ニ能立ノ効強大ナリ了因ハ枝末ナルカ故ニ能立ノ力弱劣ナリトイハサルヘカラス故ニ大疏一紙四因謂立論者言建本宗之鴻緒也トイヒ同紙一其言生因正是能立乃立論者言已爲能立敵證智了亦爲能立性トイヘリ蓋シ因明ハ悟他主義說明爲本ノ論理學ナルカ故ニ立者ノ言語ヲ最要トスルト共ニ亦

敵者ノ智力ヲ磨シテ仕舞フコトハ出來サルナリ
 問テ云ク已上二因六因ノ分析論ハ論法三分ノ中ニ於テ唯因ニノミ此論アリテ宗并ニ喩ニハ此分析論ヲナサ、ル乎 答テ云ク然リ 問テ云ク因ニ其區分アルト共ニ宗並ニ喩ニモ其區分ナカル可ラス何ソ因ニノミ此論ヲナシテ宗并ニ喩ニハ此論ヲ爲サ、ル乎 答テ云ク問難ノ如ク因ニ立言敵智ト分レ而モ事實道理ノ關係ヲ有スルカ如ク宗并ニ喩モ立言敵智ト分ルヘク亦事實道理ノ關係モアルヘキ筈ナリ然ルニ因ニノミ此論ヲナシテ宗并ニ喩ノ上ニ此論ヲ爲サ、ル所以ハ二由アリ一ニ議論ノ要ハ立敵一致セサル未決擇ノ事件アルヲ今論ノ立敵一致ノ場合ニ運ハセル決擇ヲ目的トナス然リ而シテ其決擇ハ誰カ能ク之ヲナス乎ト討ルニ論法三分ノ中特ニ因ノ効力ニアリ故ニ宗ヲ所立トナシ因喩ヲ能立トナシ其能立ノ中ニテ因ハ是レ正能立ナリ喩ハ是レ

助能立ナリトス因ハ既ニ事ヲ決擇スルニ就キ能立ノ全力ヲ有スルカ
 故ニ特ニ因ニ就テ此分析論ヲナシ餘ノ宗ト喩ハ此因ニ准ノ二種六種
 ノ區分アルヲ知ラセタルモノナリ此ハ實ノ三支ニ就テ論ス 二ニ三分差別門ニ
 就テ論セハ前説ノ如クナントモ更ニ三分一致門ニ就テ論スレハ因ノ
 外ニ宗モナク亦喩モナシ因ハ宗中前ノ一條件ナルト共ニ亦喩ノ中ノ
 一條件ナリ故ニ宗喩ノ外ニ因モナク因ノ外ニ宗喩モナシ故ニ大疏二
 紙ニハ別名宗喩通即稱因遍是宗喩二之法故トイヒ又々宗同異喩各有
 一因相貫三更無別體トイヘリ既ニ因ノ外ニ宗モナク喩モナクレハ
 因ニ就テ二種六種ノ分析論ヲナストコロ即チ三分凡テニ就テ分析論
 ヲナスト云モノ也此ハ就テ論ス 然ラハ前難アルヲナカルヘシ

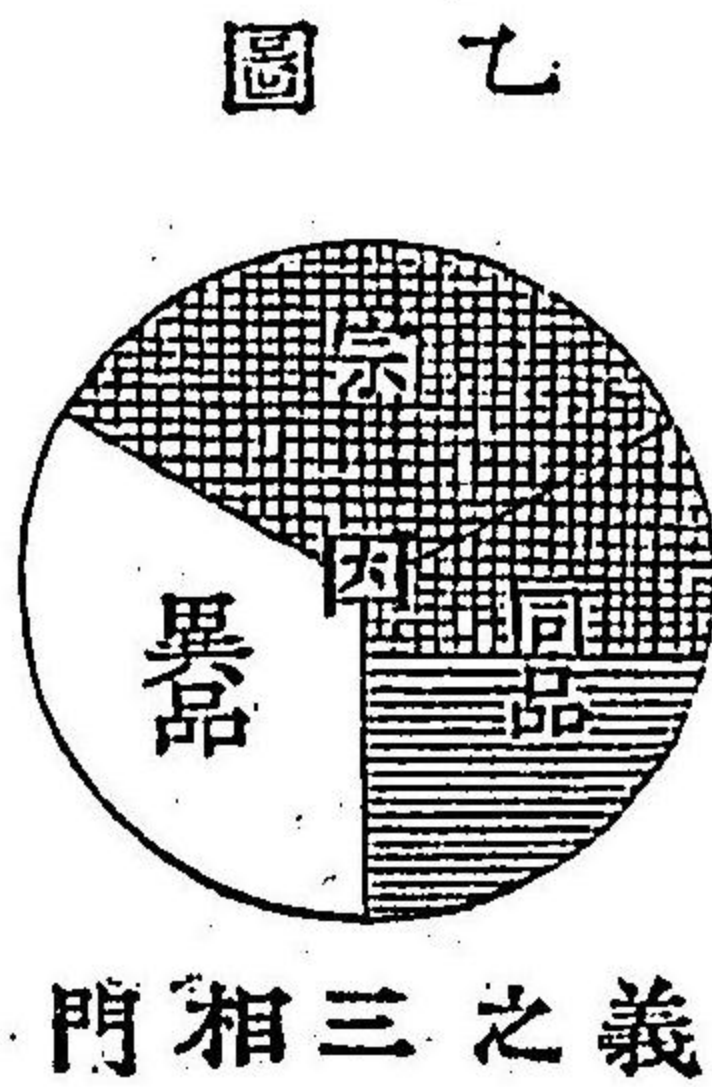
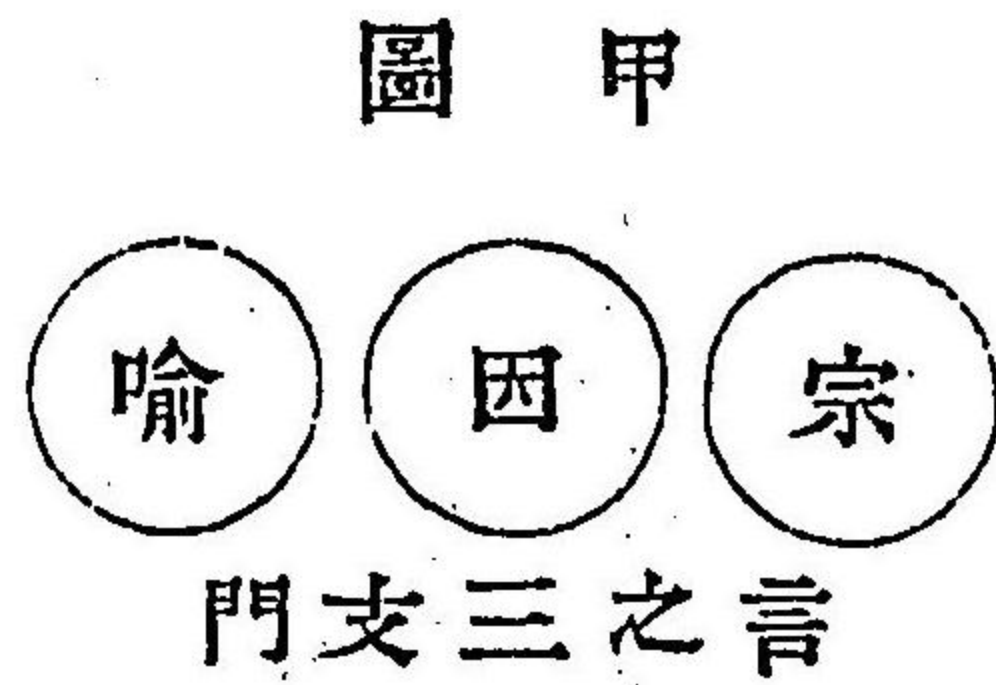
第九節 三支門ト三相門ノ辨別

説テ爰ニ來レハ三支門三相門ヲ辨別スルノ必要ヲ感スルニ至レリ

余先キニ云如ク言ノ三支義ノ三相ト云フヲ考ヘ出シタハ陳那論師ナ
 リ凡ソ陳那ノ發明論多シト雖モ論法上ニ其効偉大ナルモノハ三支門
 三相門ノ考ヘニアリトイハサルヘカラス新因明ノ長處特色ハ偏ヘニ
 此ニアリトイハサルヘカラス故ニ余ハ先ツ三支門ト三相門ヲ辨別シ
 次ニ三相門ヲ詳論セントス
 言ノ三支ト云ハ能説ノ言語是ナリ義ノ三相ト云ハ被説ノ論脈是ナリ
 能説ノ言ヲ見レハ第一段ニ宗第二段ニ因第三段ニ喩ト三分ノ區域劃
 然トシテ差別セリ之ヲ名テ言ノ三支門ト云フ余ハ之ヲ三分差別門ト云
 ノトス而メ被説ノ論脈ヲ問ハ、第二段ニ陳ル所ノ因ハ第一段ノ宗中
 ニ周布遍存セルト共ニ亦同喩異喩ヲ總合シテ自己ノ本體トセル者ナ
 リ故ニ因ノ外ニ宗ト云者ナク又因ノ外ニ喩ナク喩ノ外ニ因ナシト云
 フヲ得ル其因ノ外ニ宗ナキ所以ハ姑ク之ヲ前陳ニ望メテ論センカ丙

ノ因ハ前陳ノ甲其者ニ具ヘタル一屬性ヲ取ルテ以テ規則トスルカニ
 エ宗ノ外ニ因ナシトイハサルヘカラス又之ヲ後陳ノ乙ニ望メテ論セ
 ノカ丙ノ因アル處ニハ乙ノ宗必スアリ若シ因ヲ以テ紙ノ表面ニ喩レ
 ハ宗ハ紙ノ裏面ノ如ク暫時モ因ト離ル、コトナキモノナリ既ニ宗ハ
 因ニ離レサルモノユエ因ニハ宗ヲ含藏セリトイハサルヘカラス故ニ
 因ノ外ニ宗ナシト云フヲ得ル次ニ因ノ外ニ喩ナク喩ノ外ニ因ナキ所
 以ハ其言葉ノ上ヲ見レハ因喩各立スレトモ其論意ヲ討ヌレハ因ノ外
 ニ喩アルユラス甲は乙であけねばならぬト云理由即チ因ハ凡て丙
 なる者は皆乙なりト云フ同喩ト又凡て乙に非ざる者ハ皆丙に非すト云
 フ異喩トニ外ナラス此同異二喩コソ宗ヲ斷決スルニ就キ全力ヲ有ス
 ル能立ノ因ナリ故ニ因ノ外ニ喩ナク喩ノ外ニ因ナシト云フヲ得ル大
 疏一六諸能立皆名爲因非唯一相トイヘルハ即チ此意ナリ斯ノ如ク被
 說ノ論脈ニ就テ見レハ因ハ宗ト喩ヲ該攝シ盡スカ故ニ因ノ外ニ宗モ

ナク亦喩モナシ三分ハ該ノ一個ノ因中ニ攝マレリト論スルモノ之ヲ
 名テ義ノ三相門ト云フ余ハ之ヲ三分無差別門トイハントスル之ヲ圖
 ニ表スルヲ左ノ如シ

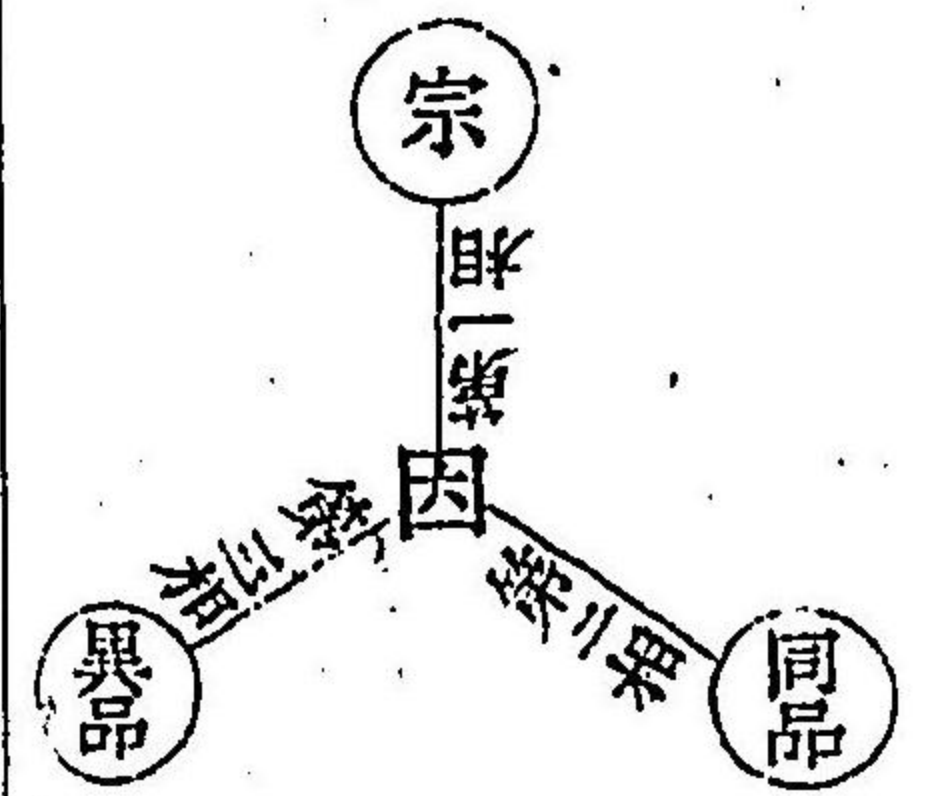


甲圖ノ如ク言ノ三支門ヲハ宗因喩ノ三分各立スレトモ乙圖ノ如ク義
 ノ三相門ヲハ一個ノ因中ニ宗喩ヲ含藏スルカ故ニ三分合同シタル一
 個ノ因コソ眞能立ナリト云フヲ示ス請フ更ニ此三相門ヲ詳説スルヲ
 俟テ乙圖ノ意味ヲ知レ

第十節 三相門ノ詳説

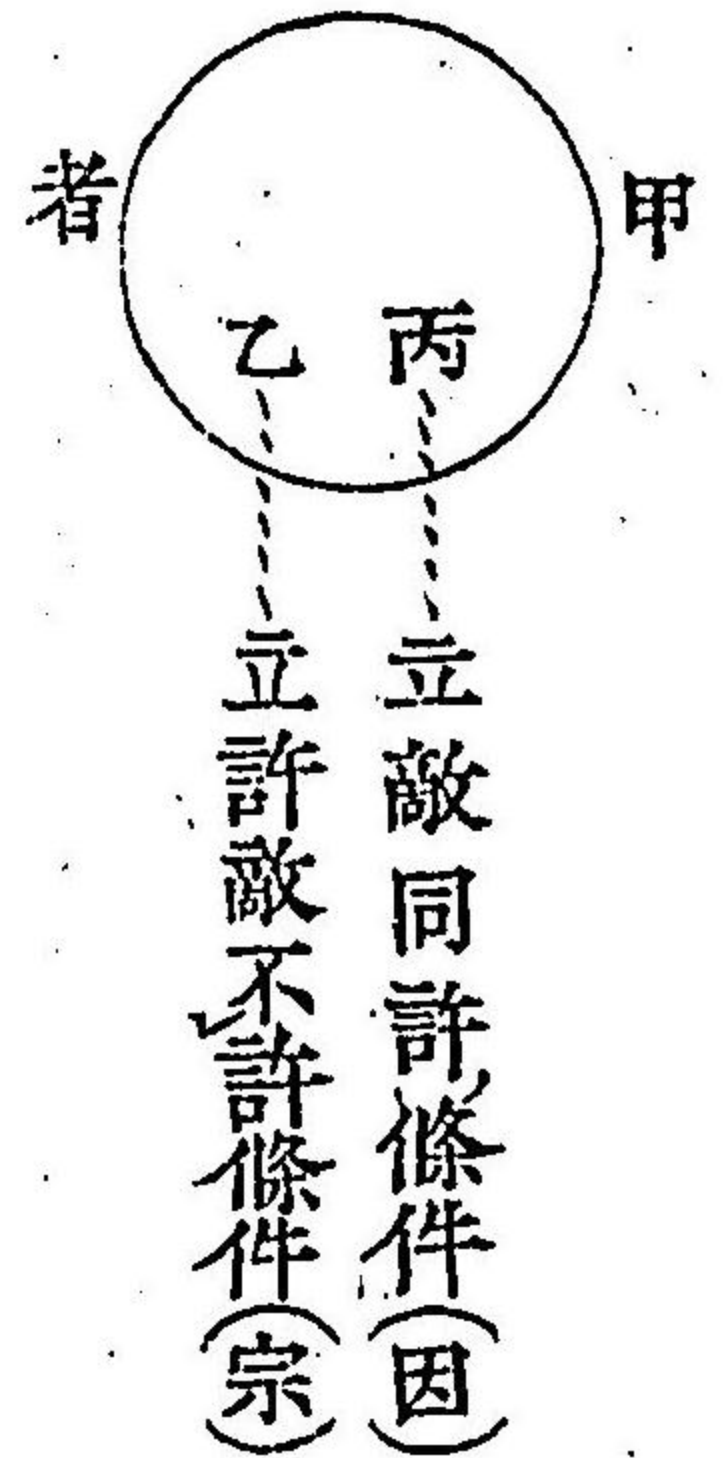
第一項 遍是宗法性(因ト宗ノ關係論)

三相ト云ハ換言スレハ三義ト云ヘシ一個ノ因ニ三種ノ義理ヲ具ヘタ
ルヲ三相ト名ク而メ其第一相ヲ遍是宗法性ト名ク即チ因ト宗トノ關
係論ナリ其第二相ヲ同品定有性ト名ク即チ因ト同喻ノ關係論ナリ其
第三相ヲ異品遍無性ト名ク即チ因ト異喻ノ關係論ナリ然ラハ三相ハ
之ヲ要スルニ中間ノ因ヲ宗ト同品ト異品トノ三方ニ望メテ其關係ヲ
論スルニアリ故ニ之ヲ圖ニ表スレハ左ノ如シ



圖ノ如ク因ヲ三方ニ望メテ關係ヲ論スルモノ之ヲ因ノ三相ト名ク或
ハ亦之ヲ三向ト云フ請フ第一相ヨリ説明セン
夫レ因ハ誰カ因ナル乎曰ク宗之因即チ宗ヲ成立スル爲ノ因ナリ既ニ
宗之因ナルカ故ニ其宗ト因ノ關係アルヘキハ論ヲ俟タスシテ知ヘシ
蓋シ其宗ト關係スル關係ノ仕方如何ト云フ是レ第一相ノ特ニ要論ト
スルトコロナリ
凡ソ因ト云モノハ其所在ヲ論スルニ別宗中ノ前陳其者ニ元來固有セ
ル事件ナラサルヘカラス別宗中ノ前陳其者ニ固有セル或ル事件ヲ取
テ因トナシ以テ別宗中ノ後陳ニ出セル他ノ事件モ因ト同様ニ前陳其
者ノ固有性ナリト云フテ立スルニアリ重言スレハ先ツ甲其者ノ中ニ
ハ乙事件ト丙事件トヲ固有セルモノト見ヨ而シ之ヲ立敵二派ノ中ニ
置テ見ルトコロ丙事件ハ甲其者ノ固有性ナリト云フ異論ナク同許ス

トモ乙事件ノ甲其者ノ中ニ固有セリト云フハ一方許ルシテ一方許
サス爰ニ於テ甲其者ヲ前陳トナシ乙事件ヲ後陳トナシテ總宗ヲ組織
シ次ニ其丙事件ヲ取テ因トナシ既ニ丙カ甲ノ中ニアル已上ハ此ト共
ニ乙モ甲ノ中ニナクテハナラヌト立スルモノ之ヲ因ト名ク凡テ立論
ノ原則ハ此ニアルモノナリ試ミニ圖ヲ作ラハ左ノ如シ



此カ因ヲ宗ニ望メタル關係論ナリ是ヲ以テ第一相ノ事ヲ遍是宗法性
ト名ク遍トハ周遍ヲ意味ス即チ丙ハ甲ノ全部ニ遍通ノ遺ル限ナシト
云フヲ顯ハス是トハ丙ヲ指シ宗トハ甲ヲ指シ法トハ亦丙ヲ指ス故ニ

遍シテ是レハ宗ガ法タル性ト點讀スル意味ナリ蓋シ余ヲ以テ之ヲ見ル
ニ其語穩當ナラサル哉ノ觀アリ故ニ余試ミニ換言スレハ前陳遍在性
或ハ所別遍在性トイハントス
之ヲ要スルニ因ハ必ス別宗ノ前陳甲其者ニ周遍スル事件ナラサルヘ
カラス若シ丙ノ因ニシテ甲其者ニ固有セル事件ニアラストセシカ然
ラハ兩俱不成過隨一不成過猶豫不成過所依不成過之ヲ四不成過ノ
四種孰レカヲ招クトナル又假令丙ノ因ガ甲其者ニ固有セル事件ナ
リトスルモ甲ハ全部分ニ固有スルテナク只一部分ニノミ固有セル事
件ナランカ然ラハ全分ノ四不成過ハ避ルコトヲ得レトモ一分ノ四不
成ノ過ノ中ニテ孰レカヲ免ル、コト能ハサルモノナリ故ニ真正ノ因ヲ
求ントスルニハ先ツ第一着ニ別宗中ノ前陳トスヘキ物品ニ普遍スル
事件ヲ用ヒンコトヲ要スト云カ第一相ノ關係論ナリ

例へハ凡て人は死すへし此ハ相符極成トイハシカ然ラハ曾て生れた
る者なるか故にト云カ如キハ第一相ヲ完全セル因ナリトイハサルヘ
カラス又々學理を研究するか故にト云如キハ第一相ノ一部分ヲ缺少
スル因ナリトイハサルヘカラス又々無機物なるか故にト云カ如キハ
第一相ノ全部ヲ缺少スル因ナリトイハサルヘカラス其旨學者思テ知
れ

第二項 同品定有性(因ト同品ノ關係論)

因ト宗ノ關係論ハ前項ノ如シ然ルニ第一相ノ關係論タルヤ只因ハ別
宗中ノ前陳ニ普有セルモノナリト云フヲ顯ハスニアリテ未々別宗中
ノ後陳ニ望メテノ關係ハ論セサルナリ換言スレハ丙ハ甲ノ中ニ普有
セリト云フヲ示スノミニテ未々丙アレハ必ス乙アリト云フノ論ニハ
及ハサル也然ルニ丙ハ甲ノ中ニ普有セリト云フヲ確カメルガ能立ノ

本旨ニアラサルナリ能立ノ本旨即チ目的ハ丙アレハ必ス乙アリト云
フヲ確カメルニアリ其丙アレハ必ス乙アリト云フヲ確カメル爲メニ
ハ先ツ甲ニハ丙ヲ有スル乎否乎ヲ吟味セシテ要ス之ニ由テ第一相
ノ關係論ハ只丙ハ甲ノ中ニ普有セル乎否乎ヲ吟味スル方法ナリ既ニ
之ヲ吟味シ終レハ方ニ丙アレハ必ス乙モ附着セサルヘカラスト云能
立ノ目的ヲ達セシテ取リ掛ラサルヘカラス其目的ヲ達セントスル
ニハ他ノ事實ニ就テ凡ソ丙アル者ニハ皆必ス乙アリテ暫クモ離レス
トイフ事實ノ證明アラシテ要ス爰ニ於テ第二相ノ關係論即チ因ト
同品トノ關係論ヲ要スルニ至レリ
抑モ第二相ノ關係論ハ甲ニ具ヘタル乙ヲ除キテ其外ナル乙ノ範圍中
ニ丙ノ關係アルカ如何ヲ吟味スルニアリ之ヲ吟味シ甲ノ外ナル物ニ
具ヘタル乙中ニ丙ノ關係アルヲ見出シ又非乙ノ部分ニハ丙ノ關係

論理學明因

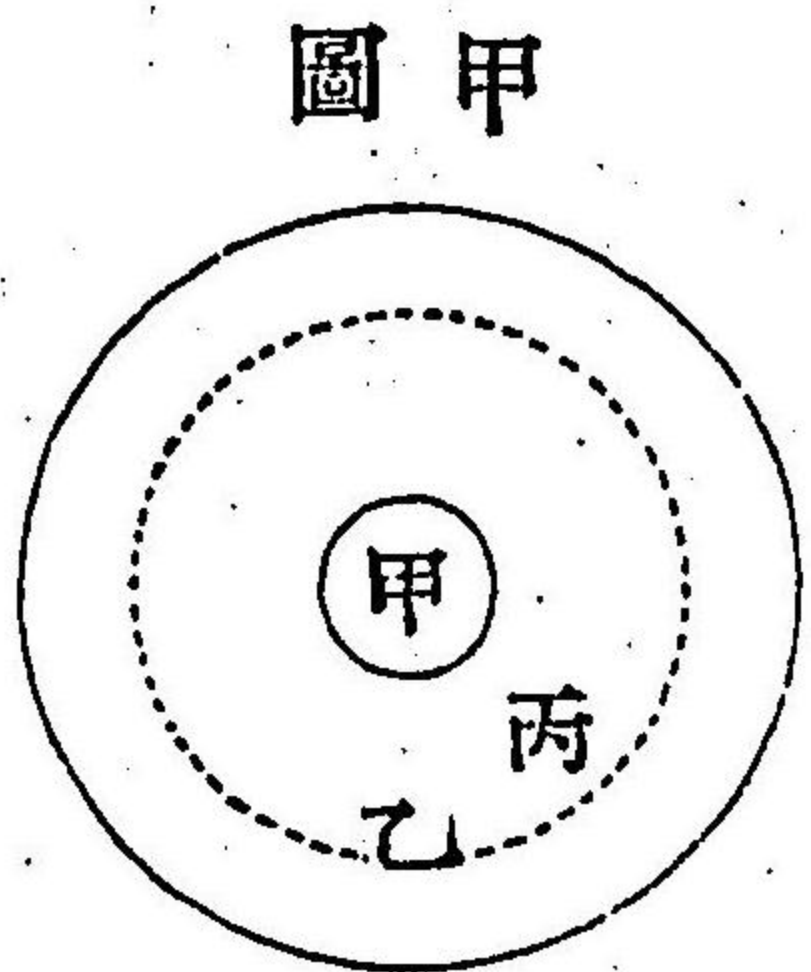
少シモナシト云フ確カナレハ味此ハ第三相ニテ吟凡ソ天地萬有中若シ
 丙ノ條件アラシカ然ラハ何等ノ上ニモ亦必ス乙ノ條件ナカルヘカラ
 スト云フヲ得ル若シ丙ノ條件アルモノニハ皆乙ノ條件ヲ具ヘタル
 確カナレハ爰ニ於テ凡て丙なる者は皆乙なりト云命題ヲ下スニ差支
 ナシ既ニ此命題ヲ下スニ差支ナキ場合ニ至レハ因ハ方ニ能立ノ目的
 ヲ達シ得テ甲ハ丙ナルカ故ニ乙ナリトノ決斷ヲ下シ得ルナリ
 論理學者ノ茲ニ注意スヘキハ凡て丙なる者は皆乙ありト云命題サヘ
 モ下スフヲ得レハ凡て乙なる者は皆丙なりトノ命題ヲ下シ得サルモ
 推理ノ法則ニ差支ナシト云フ是ナリ凡ソ推理ノ法則ハ前者ノ命題サ
 ヘモ確實ナレハ既ニ丙アレハ必ス乙アリト云フヲ立派ニ確定シ終ル
 故ニ之ヲ顛倒シタル後者ノ命題ノ確否如何ヲ顧ミル必要ハナキナリ
 之ニ由テ足目ハ九句中ニ第八句ヲ第二句ト同様ニ正因ト定メタリ明因

立能眞

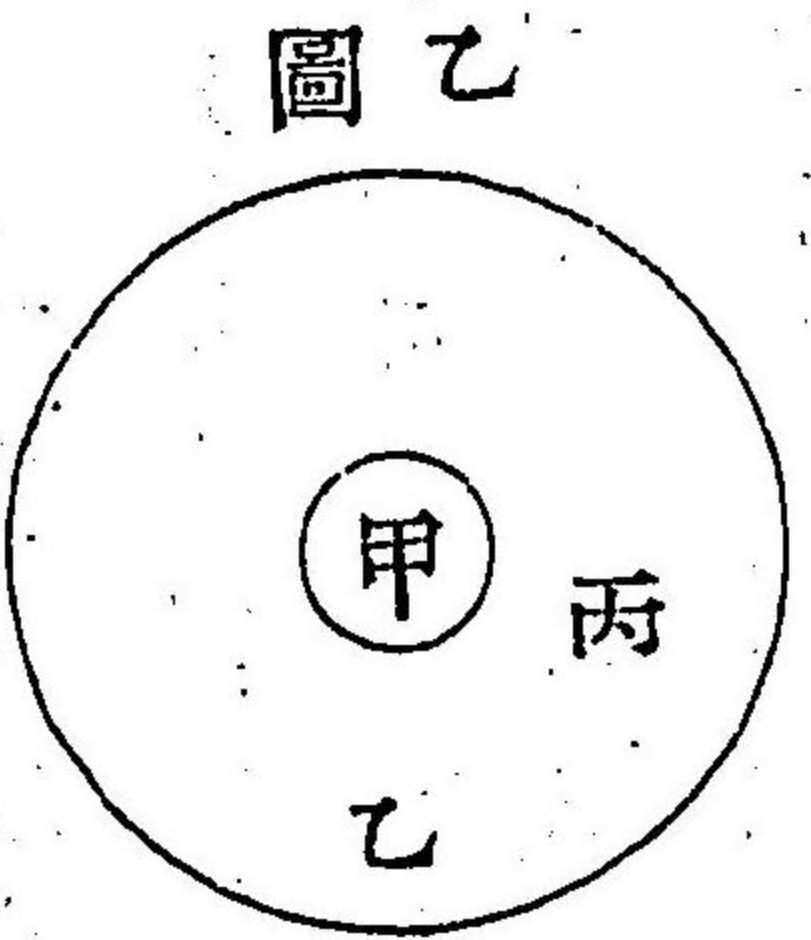
史ヲ對陳那ハ之ヲ稟テ第二相ニ同品定有性ノ名ヲ命シタリ同品定有
 ト云ハ同品ハ別宗中ノ後名辭ト類同的ナル物品ヲ指ス即チ乙ト云名
 稱ノ係ルモノ一般ヲ呼フ語ナリ定有トハ因ハ其同品ノ全部ニ普有セ
 サルモ其一分ニサヘ關係シテ居レハ夫レニテ能立ノ用ヲナスニハ失
 ナキナリ但シ全部ニハ通通セサルモ一部分ニハ定有テ有シテ居ル事
 柄ナラソフヲ要スト云意味ナリ陳那カ第一相ト第三相ニハ遍ノ字ヲ
 用ヒテ第二相ニハ遍トイハス定有ノ語ヲ用ヒタル所以ハ一部分ノ關係
 ヲ無過ト許スニアリトス蓋シ足目ノ九句中ニ第二ト第八ヲ共ニ正因
 トシタルニ原由スルモノ也
 之ヲ要スルニ因ハ是レ宗ト喩ノ媒介者ナリ故ニ其宗ニ關係スルト共
 ニ亦其同品ニ關係セサルヘカラス若シ同品ノ方ニ無關係ナラソカ其
 因ハ媒介者ノ資格ハナキモノトナル然リ因ハ本ト宗喩ノ媒介者ナル

論理學明因

カ故ニ必ス同品ノ方ニ關係アラフヲ要スレトモ論法ノ本意ハ丙ノ
因ヲ以テ乙ノ宗ヲ立セントスルニアリテ乙ノ宗ヲ以テ丙ノ因ヲ立セ
ントスルニアラス故ニ丙ノ因ニハ必ス乙ノ宗アルヲサヘ明瞭ナレハ
乙ノ全部ニ丙ノ因ナクトモ差支ナシト云フヲ論究スルカ第二條ナ
リ理門論ニ之ヲ説テ説因宗所隨トイヘリ請フ之ヲ圖ニ表セシ



圖甲



圖乙

此中甲圖ニハ因ガ同品ノ一部分ニ關係セル論法ヲ表シ九句因ノ第
二圖ニハ因ガ同品ノ全部ニ遍通セル論法ヲ表ス九句因ノ第二圖何レニ

立能眞

シテモ凡テ丙ナル者ハ皆乙ナリト云フハ一致ナリ故ニ兩方共ニ正
因ト成ル
而ノ復茲ニ論理學者ノ注意スヘキハ言ノ三支門ニ依レハ宗因喻ノ三
分各立スレトモ義ノ三相門ニ依レハ喻即チ因ナリ因即チ喻ナリト云
フ是ナリ抑モ因明ハ悟他主義ノ論法ナルカ故ニ其言ノ上ハ因ノ外ニ
喻ヲ別説セフヲ要スレトモ其義脈ヲ討ヌレハ因ノ外ニ喻ナク又喻
ノ外ニ因ナシ同異ノ二喻ヲ合シテ方ニ因ト名クルヲ得ルナリ同異
ノ二喻ヲ合シテ方ニ因ト名クルヲ得ル所以ハ因ハモト宗ヲ説明シタ
ルモノニ相違ナシ換言スレハ甲其者ニ具ヘタル丙ヲ擧ゲモノニ違ヒ
ナシ然ルニ第三段ニ來リテ喻ヲ擧テ見レハ宗其者ニ限リ丙ノ因アル
ノミナラス喻其者ニモ丙ノ因アルヲ見ル爰ニ於テ丙ノ因ハ宗因二者
ニ通スルヲトナル丙ノ因ガ宗因二者ニ貫通スルト共ニ其丙ニハ乙ノ

附テ離レサルヲ見ル同既ニ凡テノ丙ニハ乙ハ附テ離レスト云フヲ見ルト同時ニ又反ノ凡テノ非乙ハ丙ニ非スト云フヲ見付ル異斯ノ如ク凡テノ丙ニ乙ノ附テ離レサルト同時ニ凡テノ非乙ハ亦非丙ナリト辨明スル同異二喩ハ甲ノ乙ナルハ丙ナルカ故ナリト説テ第二段ノ因ヲ確カニスル爲ノ證明ニ過キサルナリ既ニ第三段ノ喩ハ第二段ノ因ノ義意ヲ確カメル爲ノ説明ナレハ喩ノ躰即チ宗ヲ説明スル爲メノ因ナリト云フヲ得ル是ヲ以テ大疏紙三陳那已後説因三三相即攝二喩々々即因俱顯宗故トイヘリ請フ更ニ第三相ノ意ヲ得テ之ヲ思ヘ

第二相ノ因ト同喩ノ關係ハ其要凡て丙なる者は皆乙なりトノ命題ヲ下シ得ヘキ所以ヲ示シ以テ丙ニハ必ス乙ノ附着シテ離レサルヲ證明スルニアリト云フハ前項ニ陳ル如シ然ルニ凡て丙ある者は皆乙なりトノ命題ヲ確カニセントスルニハ非乙ニノ而モ丙ナルモノナキ乎如何ヲ討ルヲ必要ナリ故ニ第三相ハ第二相ノ裏面ニ回リテ非乙ナル者ニ丙ナルモノナキカ如何ヲ吟味スル方法ナリ約言スルニ第二相ヲ更ニ裏面ヨリ確カメルモノカ第三相ナリ第三相ハ裏面即チ反面的ニ因ヲ異品ニ望メタル關係論ナルカ故ニ前ノ二大關係論ニ於ル如ク彼此ノ有關係ヲ示スモノニアラス此ハ彼此ノ無關係ヲ示スニアリ故ニ名クテ異品遍無性ト云フ異品トハ別宗中ノ後名辭アル範圍外ヲ指ス即チ非乙ノ部分ヲ指ス語ナリ遍無性トハ因ハ其異品ノ方ニハ少シモ關係ナキ事件ヲラフヲ要ス異品ノ方ニ寸毫ノ關係アリテモ真正ノ因ニハアラスト云フヲ意味スル語ナリ

凡ソ因ト云モノハ別宗中ノ後名辭之ナキ場處ニハ少シモ關係スヘカラス若シ少分タリトモ宗ノ異品トイハル、場處ニ關係スルヲアラン

第三項 異品遍無性(因ト異喩ノ關係論)

第三項 (異品遍無性)

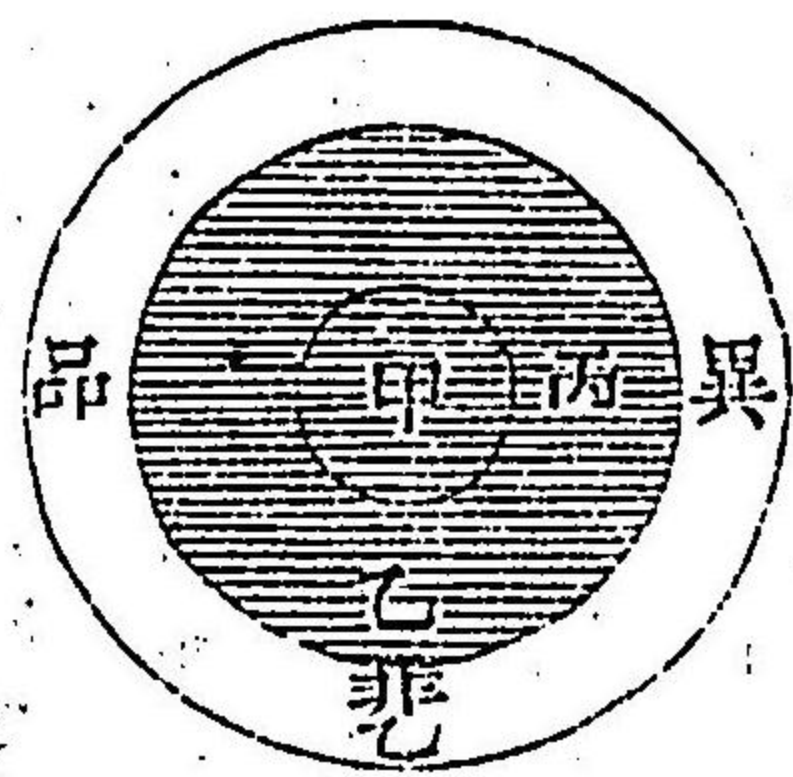
二百四十五

カ然ラハ不定或ハ相違ノ過ヲ招クトナリテ能立ノ効ヲ呈スルコト萬能ハサルナリ故ニ因ノ正不ヲ吟味セントスルニハ先ツ正面的ニ凡て丙ある者は皆乙なりト云フ命題ヲ下シテモ事實ニ違セザルカ否カヲ考ルト共ニ又反面的ニ凡て非乙なる者は皆非丙なりト云命題ヲ用ヒテモ差支ナキカ否カヲ吟味セザル可ラス此反面的ノ調ベナキハ假令正面的ノ前命題ヲ下スルニ丙ナル者ハ皆乙ナルニ限ラス或ハ丙ニシテ非乙ナル者アルカモ測リ難キナリ若シ丙ニシテ非乙ナル者アルトキハ凡て丙なる者は皆乙なりトノ命題ハ事實相違ノ偽命題トナリテ能立ノ効ヲ奏スルコト能ハサルナリ故ニ因明ニハ正面的ノ外ニ反面的ニ因ノ正不ヲ見分ル方法ヲ設ケタリ之ヲ言ハ三支門ヲハ異喩ト名ケ義ノ三相門ヲハ異品遍無性トイヘリ

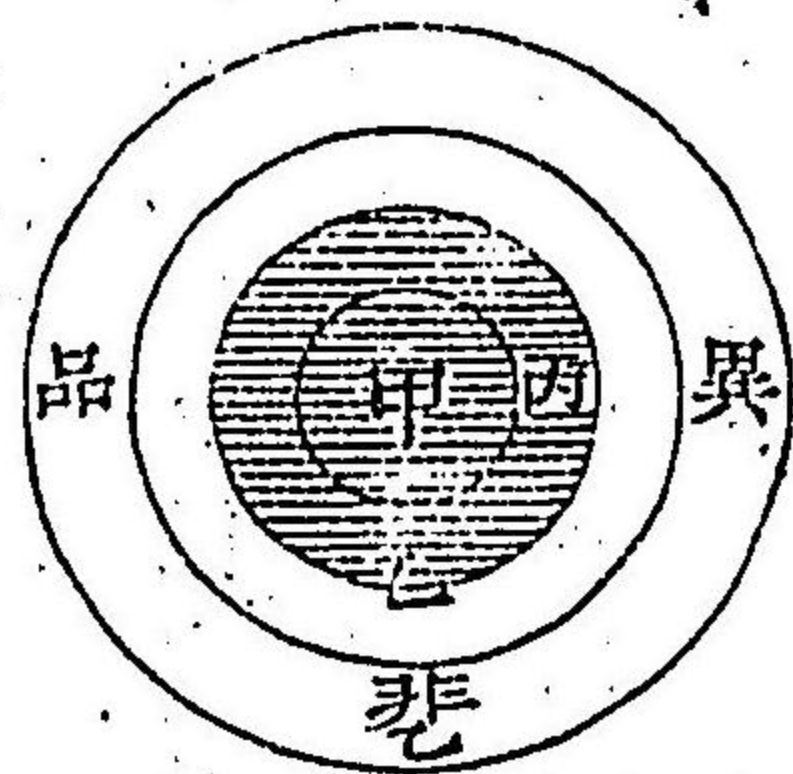
之ヲ要スルニ因ハ本ト宗ノ義ヲ乙トカ非乙トカノ一方ニ決擇スルヲ

目的トナセリ而シテ乙ト極メシカ爲メニ丙ナリト云因ヲ用ヒタレハ先ツ正面的ニ凡て丙なる者は皆乙なりトイハルカ否カヲ調ヘサル可ラス是ニ相而シテ丙なる者は皆乙なりト云命題ノ確否ヲ正ス爲メニハ其裏面ニ回リテ凡て非乙なる者は皆非丙なりト云コト得ルカ否カヲ吟味セザルヘカラス此裏面的命題ノ吟味ヲナスモノ是レ第三相ノ職掌ナリ理門論ニ之ヲ説テ宗無因不有トイヘリ請フ之ヲ圖ニ表示セシ

第一圖



第二圖



余第二相ノ下ニテ陳ル如ク因ハ同品ノ全部ニ遍通スルヲニ定ラス或
 ハ一部分ニノミ關係スルヲアリ故ニ茲ニ二圖ヲ設ケタリ第二相ノ圖
 而ノ圖ニ暗黒ヲ示セルハ因ノ有關係ヲ表シ白色ヲ示セルハ因ノ無關
 係ヲ表ス之ニ由テ第一圖ニ就ケハ丙ハ乙ノ全部ニ關係シ第二圖ニ依
 レハ丙ハ乙ノ半部ニ關係セリ乙ニ望メテ全部半部ノ殊アリト雖モ乙
 ノ範圍外タル非乙ノ部分ニ關係セサルヲハ兩方一致ナリ此趣キヲ題
 名シテ異品遍無性トイヘリ

茲ニ論理學者ノ注意ヲ請フコト二件アリ曰ク(一)言ノ三支門ナレハ異喩
 又義ノ三相門ナレハ第三ノ異品遍無性ハ西洋論理家ノ未^タ攻究セサル
 因明特色ノ方式ナリト云フト(二)言ノ三支門テハ宗因ニ別ナル異喩ガ
 義ノ三相門テハ異喩ノ躰即チ因トナルト云コト、ノ二件是ナリ第一
 件ノ如キ西洋ノ論理學ニモ其意味ヲ含藏スルコトハ論ナクレトモ未^タ

之レテ吟味スル方法ヲ設ケサルナリ因明學獨リ此方法ヲ設ケタリ故
 ニ此ハ因明ノ特色トイハサルヲ得ス又第二件ノ如キ異喩異品トイヘ
 ハ宗ニ無關係ノ事柄ナルカユエ能立ニハ其効ナキカ如シ能立ニ其効
 ナキカ如クナルユエ之ヲ因ト云ヘキ筈ナキカ如ク見ユル然レトモ無
 關係ヲ無關係ト知ラシムルトコロカ即チ能立ニ効アル所ナリ若シ宗
 ノ無關係ナル方ニモ關係アル因ナラシカ然ラハ其因ハ能立ノ効アル
 ヘカラス然ルニ宗ノ無關係ナル部分ニハ隨テ其因モ亦無關係ナルカ
 故ニ其因ニ能立ノ効アルナリ而シテ異喩ノ職分タルヤ只是レ宗ノ無關
 係ナル方ニハ隨テ其因モ亦無關係ナリト云フヲ顯ハスニアリ既ニ然
 ラハ異喩ト云ヘキ本躰ガ因ノ外ニ存在スルニアラス只裏面ヨリ因ヲ
 正シ見ルトコロ是レ異喩ノ本躰ナリ故ニ裏面ヨリイヘハ異喩ト名ク
 レトモ之ヲ表面ヨリイヘハ因ト名クサルヲ得ス是ヲ以テ義ノ三相門

アハ異喩即チ因ナリト論定スルナリ

第四項 三相ノ結論

前來縷述スルカ如ク因ノ三相ト云ハ中間ノ因ヲ以テ宗ト同品ト異品ノ三方ニ望メテ關係ノ有無ヲ論スルニアリ説テ爰ニ來レハ讀者ハ余カ第九節ノ中ニ出セル乙圖ノ意味ヲ悟了アリシナラン抑モ彼圖ニ横線ヲ引ケルハ別宗中ノ後陳ニ位スル乙ト云點カ普及スル範圍ヲ表シタ者ナリ而シテ更ニ堅線ヲ引ク中先ツ宗ノ範圍ニ屬スル堅線ハ丙ト云ヘキ中間ノ因カ別宗中ノ前陳ニ位スル甲ノ全部ニ周布遍通スト云第一相ノ遍是宗法性ヲ表シタルモノナリ次ニ同品ノ範圍ニ屬スル堅線ハ宗ノ方ニ遍通セル因ヲ又同喩ノ方ニ望メテ見レハ同品ノ全部カ或ハ半部ニハ必ス關係セリトイフ第二相ノ同品定有性ヲ表シタルモノナリ但シ同品ノ範圍中ノ堅線ヲ中間ニシテ止メタル所以ハ因ハ同品

ノ全部ニ遍通セサルモ亦失ナシト云フヲ表示セシカ爲ナリ然リ而シテ異品ノ範圍ヲ白色ニシテ一線モ引クコトナキハ即チ別宗中ノ後陳ニ位スル乙ニ非ルモノ是レ異品ナリ而シテ乙ニ非ルモノハ隨テ亦丙ニモ非サルナリ斯ノ如ク宗ノ關係モナク又因ノ關係モナキカ異喩ノ性質ナルカ故ニ横線堅線共ニ止メテ三相ノ異品遍無性ヲ形容セシナリ爰ニ於テ裏面的ニ乙ニ非ル者ハ丙ニ非スト云フヲ得レハ表面的ニテ之ヲ反セハ凡て丙なる者は皆乙なりト云フヲ得ル既ニ凡て丙ある者は皆乙なりト云命題ヲ下シ得レハ此ト同時ニ甲ハ丙ナルカ故ニ乙ナルヘシト云フ斷定ヲ下シ得ル然ラハ開ケハ因ノ外ニ同異二喩各立スルカ如クナントモ其論脈ヲ看破シ來レハ同異ノ二喩ハ總合シテ其結局丙ナルカ故ニ乙ナルヘシトノ推斷ヲ出テサルニ至ル斯ノ如ク同異ノ二喩ヲ因ノ中ニ取り込テ一ノ因能ク宗ヲ立シ得ル論脈ヲ攷究スル

モノ之ヲ義ノ三相ト名ク之ヲ除キテ亦真能立ナルモノアルコトナキナリ
已上三相ノ中第一相ヲ缺タル因ハ四不成過ヲ犯スト云フハ第一相ノ下ニテ辨スル如シ第二相第三相ヲ缺タル因ハ如何ナル過ヲ犯ス乎ト云ニ後二相共ニ缺タルモノハ相違ノ過トナリ後二相中孰レカ其一ヲ缺タルモノハ不定ノ過トナル請フ第二部似能立下ニ至リテ之レヲ知

第三章 喩ノ引用方

第十一節 譬喩ノ定義

譬喩ト云ハ通俗ニアリテ用ルトコロモ因明ニテ論スルトコロモ殊異アルヘキ筈ナシ然レトモ通俗ニ用ルトコロハ至極簡單ナル意味ニテ用ヒ來レリ只甲ニハアルハ乙丙ニハアルカ如シト云ニ止ルガ通俗慣

用ノ譬喩トナレリ斯ノ如キハ只其同類ヲ舉示シタルニ止リテ未ダ甲ニハ必スハアリト云フヲ證明シタルニハアラサルナリ何トナレハ乙丙ニハアルハ甲ニモ屹度ハナカルヘカラスト云理由ヲ説明セサルカ故ナリ既ニ甲ニハ屹度ハアリト云フヲ説明セサルユニ假令譬喩ヲ示スモ其効能ハナキモ同然ナリ
管ニ通俗ニ用ユル譬喩ノミナラス因明ニアリテモ陳那已前ノ古因明中ニハ譬喩ヲ論スルコト多クハ今云如キ簡單ナル考ヘテ懐キシナリ爰ニ陳那出テ、喩ノ引用方ヲ詳カニ攷究シタリ蓋シ陳那ノ攷究ハ本ト雜集論ニ根據セルト疑ヒナシ故ニ余ハ先ツ雜集論ニ依テ譬喩ノ定義ヲ陳ヘ次ニ陳那ノ攷究セシトコロヲ述セントス
雜集論ニ無着ノ曰ク立喩者謂以所見邊喩與未所見邊和合正說ト師子覺之ヲ釋ノ所見邊者謂已顯了分未所見邊者謂未顯了分以顯了分顯未

顯了分令義平等所有正說是名立喻トイヘリ又慈恩ハ梵語ニ達利瑟致
(見按多邊)ト云テ直譯スレハ見邊トイフ義翻スレハ喻ト云ヘシト云々
此ニ着眼スヘキハ邊ノ字是ナリ邊ハ邊際ノ義即チ物ノ際涯ヲ極メ盡
シテ少シモ餘ストコロナキヲ意味スル語ナリ然ラハ所見邊トハ師子
覺ノ釋ニ已顯了分トアル如ク既知界ノ全般ヲ指ス言ナリ又々未所見
邊トハ師子覺ノ釋ニ未顯了分トアル如ク未知界ノ全部ヲ指ス言ナリ
而ノ喻ノ喻タルトコロハ既知界ノ全般ヲ以テ未知界ノ全部ニ和合セ
シメ未知モ既知ト一致ナリト推斷スルトコロ是ナリ故ニ無着ハ和合
正說トイヒ師子覺ハ令義平等トイヘリ此ニ由テ之ヲ觀ルニ陳那已前
ト雖モ正義ノ因明家ハ喻ヲ論スルト頗ル至レルモノ、如シ甲ヲ説明
スル時ニ只乙ノ如シ丙ノ如シト同類ノ事物ヲ取テ喻ノ本躰トシタル
モノニアラサルニ相違ナシ故ニ陳那出テ、此事ヲ一層深ク研究シ諸

々ノ甲なる者は皆乙ありト云カ如ク諸皆ノ語ヲ用ヒテ既知界ノ全般
ト未知界ノ全部ヲ合併スルトコロ之ヲ名テ譬喩トス而ノ其喩ノ効能
タルヤ既知界ト未知界トチ一致ナラシメ少シモ餘ストコロ之ヲキ結
果ヲ見ルトコロニアルモノトス
之ニ由テ喩ノ定義如何トナラハ余ハ凡て甲ある者は(既知界ノ全般)皆
乙なり(既知界ト未知界ヲ盡ス)ト既知未知ヲ和合ノ雙方一致ヲ令ル
爲メノ推斷是ナリトイハントスル者ナリ此ニ就キ論者ノ難問ヲ說破
スヘキ事件數條アリ請フ第十六節ヲ對見セヨ
第十二節 同喩ノ二大條件(附リ合作法ノ事)
余屢々陳ル如ク因明ハ喩ニ就テ同喩ト異喩ト二部ヲ分ツ者ナリ而メ
其同喩ト云ハ正面的ニ表門ヨリ宗ヲ推斷スル者是ナリ其異喩ト云ハ
反面的ニ裏門ヨリ同喩ノ推斷ヲ慥カムル者是ナリ中ニ於テ先ツ同喩

論理學明因

ノ方ヨリ説明セシ
 凡ソ同喩ニハ宗同品、因同品トイヘルニ大條件ヲ具ヘサルヘカラス甲
 ヲ除キテ外ニ此ニ大條件ヲ併有スルトニヨリ是レ同喩ノ本躰ナリ故ニ
 假令喩ヲ引用シテモ此ニ大條件ヲ缺タルモノハ似ノ同喩トハ云ヘク
 眞ノ同喩ト云ヘキモノニハ非ルナリ然ラハ如何ナル件ヲ宗同品ト名
 ケ又々因同品ト名ケル乎曰ク姑ク甲は乙なり丙なるが故にト説ク論
 法ナレハ甲其者ヲ除キテ餘他ノ万有中ニ具ヘタル乙條件ハ皆宗同品
 ナリ丙條件ハ皆因同品ナリ何トナレハ乙ハ皆宗ノ同類ナルカ故ナリ
 丙ハ皆因ノ同品ナルカ故ナリ斯ノ如ク一物中ニ乙條件ト丙條件トノ
 兩件ヲ含有シタルモノヲ擧テ同喩トナシ彼等ヲ見ルニ丙アルト共ニ
 乙附着シテ離レズ然ラハ此モ既ニ丙アルカ故ニ亦乙ノ附着シテ離レ
 サルト推メ知ヘシト推釋スルモノ是レ同喩ナリ例ヘハ

立能眞

宗 大臣も日本の法律を守るへし
 因 日本帝國の臣民あるが故に
 喩 譬へは餘の庶民の如し
 トイフカ如シ是レ餘ノ庶民モ日本帝國ノ臣民ナリト云條件即チ因同
 品アルカ故ニ日本ノ法律ヲ守ルヘキ責任即チ宗同品ヲ有セリ故ニ之
 ヲ同喩トナスキハ大臣モ等シク日本帝國ノ臣民ナルカ故ニ日本ノ法
 律ハ守ラサルヘカラスト推斷ヲ下シ得ル然ルニ引用シタル同喩ニシ
 テ宗同品ナカラシカ即チ所立不成ノ過アリ又々因同品ナカラシカ即
 チ能立不成ノ過アリ又々宗同品因同品共ニ缺乏セシカ然ラハ俱不成
 ノ過アリトス請フ第二部似能立ノ下ニテ之ヲ知レ
 然リ而シテ陳那ハ此ニ大條件ヲ利用シテ之ヲ因ニ合シ以テ宗ヲ立スル
 ノ方術トシテ一ノ命題ヲ呈出スヘキト考ヘタリ名ヲ之ヲ合作法ト

云抑モ合作法ト云ハ凡て丙なる者は皆乙ありト云一命題ヲ呈出スルニアリ 古來慣用ノ造語ナレハ諸々丙なる 陳那ハ第三段ニ喩ヲ引用セシトスルニ先立テ此命題ヲ呈出セシトテ要スルトナセリ而シテ陳那ガ喩ヲ引ク前ニ立テ此命題ヲ呈出セシトテ要スル所以ヲ考ルニ三意アリ一ニ引用スル所ノ同喩ハ宗同因同ノ二大條件ヲ含有セルカ否カヲ見ル爲ノ方法ニ供センカ爲ナリ先ツ此命題ヲ掲ゲテ次ニ何々ノ如シトイヘハ次ニ指示スル事物ハ此二大條件ヲ含有スルカ然ラハ眞ノ同喩ナリ此二大條件ヲ缺乏スルカ然ラハ眞ノ同喩ニアラスト云トガ見分ケラル、ナリ第二ニ能同ノ喩ト所同ノ宗因ト合一ナラシムル爲メニ此命題ヲ呈出スルトナセリ即チ凡テ諸ノ言ヲ以テハ甲其者ニ屬スル丙ト餘他ノ方有ニ屬スル丙トヲ悉ク合同シ又皆ノ語ヲ以テハ甲其者ニ屬スル乙ト餘他ノ方有ニ屬スル乙トヲ悉ク合併セリ余ハ之

ヲ横ノ和合法トイハントス第三ニ能立ノ因ト所立ノ宗トヲ和合セシメ凡テ丙ノ因アレハ必ス乙ノ宗アリテ附着シ暫クモ離ル、トナク乙ハ常ニ丙ニ附着セルモノナリト云トテ證明スル爲メニ此命題ヲ呈出スルトナセリ余ハ之ヲ堅ノ和合法トイハントス 余陳那カ合作法ノ命題設立ヲ考ヘ出シタル意趣ヲ攷究スルニ前述ノ如ク三ノ目的アリト信ス然レトモ中ニ於テ第三ノ目的其重キヲ占ルト論ヲ待マス故ニ陳那ハ異喩ノ離作法ハ先宗後因ヲ規則トシ下ニ辨同喩ノ合作法ハ先因後宗ヲ規則トスト定メテ同喩ノ合作法ハ先因後宗ト定メテ先キニ因トナシタル丙ヲ擧ケ宗トナシタル乙ヲ後ニ示スヲ以テ合作法ノ制規トシタハ命題設立ノ主意偏ヘニ第三ニアルカ故ヘナリ凡ソ論法ノ本意ハ因ヲ以テ宗ヲ立セントスルニアリテ宗ヲ以テ因ヲ立セントスルニアラス故ニ推斷ノ命題ハ既知ヨリ未知ニ

移ル思想ノ順序トノ能立ノ因ヲ先キニシ所立ノ宗ヲ後ニセサルヘカ
ラサル約束アリ故ニ凡て丙ある者は皆乙なりト説テ因ヲ宗ニ合スル
推斷法ト定メ此合作法ヲ爲シ得サルモノヲ無合ノ過トナシ又之ヲ顛
倒ノ凡て乙なる者は皆丙なりト云カ如キヲ倒合ノ過トナセリ請フ第
二部似能立ノ下ニテ之ヲ知レ

第十三節 喻依喻躰ノ辨別(事喻理喻ノ分界)

前節ノ如ク説キ來レハ喻ト云ハ二大條件ヲ合シ一個ノ命題ヲ呈出ス
ルニアルモノ、如ク其譬ヘハ何々ノ如シト舉示スル所ノ事物ニハ少
シモ關係ナキモノ、如キ觀アリ之ニ依テ茲ニ喻依喻躰ヲ辨別スル
ヲ要スル場合トナレリ

喻依喻躰ノ造語ハ大疏ノ中ニ多ク出タリ之ニ由テ喻依喻躰ハ古來因
明家ノ慣用語トナレリ然ルニ余ハ其語ノ普通ニ聽エ難キヲ恐レ之ヲ

改メテ事喻理喻トイハントスル者ナリ抑モ慈恩カ喻依ト名ケタルハ
宗同ト因同ノ兩事件ガ依屬セル事物即チ何々ノ如シト指示スル物躰
ニ名ケタル語ナリ余ハ之ヲ事[○]喻ト云ハントス又慈恩カ喻躰ト名ケタ
ルハ指示シタル事物中ニ含有スル宗同ト因同ノ二大條件ニ名ケタル
語ナリ凡ソ指示スル事物全體ニハ夥多ノ條件アル中唯此二大條件ノ
ミ丙ノ因アレハ必ス乙ノ宗アリト云フヲ推斷スル事件ナルカ故ニ慈
恩ハ之ヲ喻躰ト名ケタリ余ハ之ヲ理[○]喻トイハントス何トナレハ推斷
ノ道理ヲ呼テ喻躰トスルカ故ナリ然ラハ事喻理喻ノ改名ハ頗ル當ヲ
得タリト謂ヘキ歟

陳那ハ喻ニ就テ事喻理喻ノ區別ヲ見ルカ故ニ前節ノ如ク宗同ト因同
ノ二大條件是レ喻ナリト云ハ即チ理喻ノ方ニ就テ論ヲナスモノナリ
然ルニ因明ハ悟他主義ノ論法ナルカ故ニ理喻即チ比較推續ノ道理ヲ

他ニ知ラシメントスルニハ丙アルト共ニ乙ノ隨逐セル事物ヲ舉示セ
 サル可ラス敵者曾テ丙アルト共ニ亦乙アリト承諾セル事物ヲ舉示ス
 ルトキハ悟他ニ就キ大ナル便ヲ得テ彼レ忽チニ立論ヲ悟了スルニ至
 ル之ニ由テ合作法ノ命題ヲ作ルト共ニ其命題ノ符合セル事物ヲ指示
 センテ要ス之ヲ名テ事諭ト云フ既ニ事諭ハ唯悟他ニ必要アリテ舉
 示スルモノナルカ故ニ敵者ノ丙アルト共ニ亦乙アリト許容セル事物
 ナラサルヘカラス若シ敵者ノ許容セサル事物ヲ舉ノカ然ラハ他隨一
 ノ能立不成カ所立不成カ俱不成カノ過ヲ犯ストナルト云カ規則ト
 ナレリ請フ似能立ノ下ニ至リテ之ヲ知レ
 然リ而ノ余ハ陳那カ諭ニ就テ事諭ト理諭ノ區別ヲ見ルハ即チ言ノ三
 支義ノ三相ノ辨別ヨリ起ルモノト信ス言ノ三支門ニ依レハ諭ノ資格
 ナ有スル者ハ譬へは何々の如しト云事諭ノ方ニアリトイハサルヘカ

ラス是レ即チ三分各立シテ宗因ノ外ニ諭ノ獨立ヲ見ルトコロ也然ル
 ニ義ノ三相門ニ依レハ諭ノ資格ヲ有スルモノハ凡て丙ある者は皆乙
 なりトノ命題ヲ呈出スルヲ得ル理諭ノ方ニアリト云ハサルヘカ
 ス此ニ就キ義ノ三相門ヲハ諭即チ因ニシテ因ノ外ニ諭ノ躰ハナシト
 スルニアラスヤ然ラハ理諭ノ如キハ即チ因ト名クヘシ諭トハ名クヘ
 カラスト云疑問起レリ余之ニ答テ云ク然リ理諭ハ因ナルニ相違ナシ
 然レモ三相門ニテ云フ因ハ三支門ニテ語ル因ニ異ナレリ三支門ニテ
 語ル因ハ諭外ノ因ナリ三相門ニテ語ル因ハ三支門ノ諭ヲ因ニ合併シ
 タルトコロニ因ノ名ヲ命シタモノナリ之ニ由テ三相門ノ因ヲ三支門
 ヨリ見ルキハ其一部分ハ諭ト名クルニ聊カ差支ナキナリ元來因明
 ニテ諭ト云詞ハ凡テ三支門ニ依テ附タルモノト思ヘ之ニ依テ三支門
 ナ三相門ノ方ニ奪テ見レハ諭ノ稱號方ニ亡スト云ヘキナリ已上事諭

ハ三支門ニ就キ理喻ハ三相門ニ就クト云余ノ見解ハ理門論紙七ニ同ト
 異ノ理喻ヲ陳ヘ終リテ由如是說能顯示因同品定有異品遍無トアリ又
 同紙八ニ至リテ因ノ外ニ喻ヲ別說スル所以ヲ問答釋顯セルニ據ル余豈
 自己ノ臆度論ヲ好ム者ナランヤ
 上來同喻ノ說明ニ就キ學者其本ヲ正サントナラハ大疏三紙ニ至ル迄
 ナ披キ驗セヨ

第十四節 異喻ノ一大條件(附リ離作法ノ事)

余屢々陳ル如ク因明ノ特色トシテ同喻ノ外ニ異喻ヲ利用スルカ足目已
 來ノ規則トナレリ而シテ其異喻ト云ハ反面的ニ裏門ヨリ同喻(即理喻)ノ
 正否ヲ見分ル方術ナリ之ニ由テ同喻ニ宗同因同ノ一大條件アルカ如
 ク異喻ニモ宗異品因異品ノ二大條件ナルヘカラス否此二大條件是
 レ異喻ノ本體ナルモノトス然ラハ如何ナル事件ヲ宗異品ト名ク又因

異品ト名クル乎曰ク甲は乙なり丙なるが故にト説ク論法ナレハ非乙
 ハ部分ハ皆宗異品ナリ(異ノ言ヲ別異ノ義或ハ異無ノ義ト解釋ノ唯宗
 ト反對スル事件ノミナラスニ點ノ中容品ナルモノモ亦異品ノ中ニ屬
 ス例ヘハ某甲某は善人なりトイヘハ皆ニ惡人ノミカ異品ナルニアラス
 非善非惡ノモノモ亦異品ノ中ニ屬スルカ如シ非丙ハ皆因異品ナリ何
 トナレハ非乙トイヘハ宗ノ乙ニ異ナリ非丙トイヘハ因ノ丙ニ異ナル
 カ故ナリ他語以テイヘハ宗ノ關係ナキ事件ト亦因ノ關係ナキ事件ト
 ノ二大條件之ヲ名クテ異喻ト云フ之ヲ同喻ノ下第十節ニ舉タル例ニテ
 辨スレハ外國人ノ如キ是レ眞ノ異喻ナルモノナリ眞ハ動物植物ノ如
 何トナレハ彼等ハ日本國內治ノ法律ヲ守ルヘキ責任ヲ有セサルト共
 ニ亦日本帝國ノ臣民ト云區域外ノ人間ナルカ故ナリ此ノ如キ二大條
 件ヲ含有セルモノヲ眞ノ異喻トナス若シ宗異品ノ一方ヲ缺クタルハ

即チ所立不遺ノ過アリ若シ因異品ノ一方ヲ缺クヌレハ即チ能立不遺ノ過アリ若シ兩方共ニ缺クヌレハ俱不遺ノ過アリトス請フ第二部似能立ノ下ヲ見ヨ

然リ而ノ陳那ハ此ニモ同喩ト等シク一種ノ命題ヲ呈出スルトナセリ其命題ヲ名クテ離作法ト云フ其離作法ノ命題式ハ凡て非乙なる者は皆非丙なりト云ニアリ古來慣用ノ造語ナレハ諸々非乙なる者ハ皆非丙なりト見よト云モノ是ナリ陳那カ此命題ヲ作ルトテ要セシ意趣他ニアラス只丙ノ因ハ乙已外ニ關係セサルカ否カテ吟味スル爲ノ方術ニ供スト云一點ニアルモノ、如シ故ニ同喩ノ合作法ニ殊ナリテ異喩ノ離作法ハ先宗後因ト云テ命題呈出ノ規則トハナセリ即チ宗異品トナル非乙ヲ先キニ標シテ次ニ因異品ノ非丙ヲ陳ルテ規則トナセリ其之ヲ先宗後因トセル所以ハ異喩ハ同喩ニ殊ナリテ非乙ト云コトヲ立セントスルニモアラス又非丙ト云

トテ立セントスルニモアラス只是ニ裏面ニ回リテ宗ノ義之ヲキ部分ニハ此因ハ少シモ關係ナシト云テ明ラメ翻リテ此因アレハ屹度此宗アリト云テ顯ハサンカ爲メナルカ故ナリ大疏三九同成宗故先因後宗異喩離前先宗後因トアルハ此意ナリ請フ三相ノ下ニ出セル圖解ヲ對照シテ此意ヲ悟レ

然ルニ若シ此離作法ヲ爲シ得サルモノアラノカ然ラハ不離ノ過誤ナリトシ又之ヲ顛倒シ先因後宗トナサンカ然ラハ倒離ノ過誤ナリトス請フ第二部似能立ノ下ニテ之ヲ知レ

第十五節 喩依喩躰ノ辨別(事喩理喩ノ分界)

喩依喩躰ノ辨別即チ事喩ト理喩ヲ區分スルトハ余總テ之ヲ同喩ノ下第三節ニ讓リテ茲ニハ略シテ通過セントス何トナレハ茲ニ之ヲ辨スルトキハ再辨ノ贅論トナルト多キカ故ナリ然ラハ讀者本題ハ先キノ第

因明學理論

十三節ニ準シテ知レ但シ余カ茲ニ辨セサルヲ得サルコトハ同喩ト異喩ノ區別ニアリ請フ之ヲ辨セシ

抑モ同喩ト異喩ヲ對望スルニ凡ソ三條ノ區別アリトス曰ク

(一) 同喩ノ合作法ハ先因後宗ヲ以テ規則トシ異喩ノ離作法ハ先宗後因ヲ以テ規則トス

(二) 同喩ハ因同品ヲ主トシ宗同品ヲ伴トス異喩ハ宗異品ヲ主トシ因異品ヲ伴トス

(三) 事喩ニ就キ同喩ハ有躰ノ論法ナレハ事喩ノ物躰必スアルヘキモノトス異喩ハ有躰ノ論法トイヘトモ理喩アレハ事喩ハナキモ妨ケナシトス

第一條ハ前辨ノ如シ第二條ノ意ヲ辨明センカ抑モ同喩異喩共ニ二大條件アリト雖モ同喩ノ方ハ其重キヲ因同品ノ方ニオキ異喩ノ方ハ其

眞能立

重キヲ宗異品ノ方ニオイテ見ルヘキモノトス同喩ノ方ハ重キヲ因同品ノ方ニ置テ見ル所以ハ同喩ノ擔當スル職分ハ因ト共ニ力ヲ協ハシテ宗ヲ成立スルニアレハナリ換言スレハ喩ノ方ニ屬スル丙ハ宗ノ方ニ屬スル丙ト合併シ雙方一致ノ力ヲ以テ若シ丙ナクソハ止ミナシニ丙アレハ必ス乙ハ此ニ附着セサル可ラスト立スルモノ是レ同喩ナリ故ニ同喩ハ其重キヲ因同品ノ方ニ置テ見テハナラヌ之ニ反シ異喩ノ方ハ其重キヲ宗異品ノ方ニ置ク所以ハ異品ハ直接ニ宗ヲ立スル者ニ非ス異喩ノ擔當スル職分ハ因ノ濫用ヲ正スニアレハナリ因ノ濫用トハ非乙ノ部分ニモ關係スル事件ヲ取テ乙ノ因トスルモノ是ナリ異喩ハ斯ノ如キ濫用ヲ正スヘキ職掌ナルカ故ニ其重キヲ宗異品ノ方ニ置キテ先キニ凡テ非乙なる者はト宗ヲ離レ後ニ丙にあらすと因ノ無關係ヲ顯ハスニ止マル故ニ異喩ハ其重キヲ宗異品ノ方ニ置テ見テハ

ナラヌ是ヲ以テ大疏三紙同成宗故因爲正同宗爲助同異品離故宗爲正
 異因爲助異トイヘリ
 次ニ第三條ノ意ヲ辨明セシカ余先キニ云如ク同喩異喩共ニ事喩ト理
 喩トテ分界シテ見ルコトハ陳那ノ發明ナリ然レトモ論法ノ性質ニ依テ
 事喩ノ有無一定セサルナリ凡ソ同喩ト云モノハ無昧ノ宗ナレハ其理
 喩ノミ確實ナレハ事喩ノ物昧ハ却テナキ方テ是トス又々有昧ノ宗ナ
 レハ理喩事喩共ニ具足セテハナラヌ者トス假令凡テ丙ナル者ハ皆乙
 ナリト合作法ノ理喩ヲ陳テ見テモ若シ其命題ノ適合スル事實ナク
 ハ其論ハ立セサルナリ入正理論ニ同喩ニ限リ有ノ俱不成ト無ノ俱不
 成トノ二種ヲ開キタル所以此ニアリ然ルニ異喩ト云モノハ無昧ノ宗
 ノ時モ又々有昧ノ宗ノ時モ其理喩ノナカルヘカラサルコトハ論ヲ俟マ
 サレトモ其事喩ニ於テハ雙方共ニアリテモ妨ケナク又ナクテモ失ナ

シトス大疏三紙十因明之法以無爲宗無能成立有無皆異喩トイヘル文意
 此ニアルモノナリ余試ミニ其例ヲ擧シカ佛敎徒ヨリ耶蘇敎徒ニ對シ
 宗 獨一神は存在するに非るへし
 因 論理と實驗の證明なきが故に
 喩 譬へは蠻民の信仰する多神の如し同物質の如し異
 トイフカ如キハ無昧ノ宗ナリ故ニ同喩ハ只理喩ノミアリテ事喩ノ物
 昧ハナキナリ何トナレハ野蠻人ノ信仰スル火ノ神水ノ神ノ如キハ實
 在者ニアラザレハナリ然ルニ異喩ノ方ハ理喩事喩共ニ完全スルコト
 成ル又茲ニ物理學者アリテ
 宗 甲物質には引力あるへし
 因 事物の範圍に屬するが故に
 喩 譬へは乙丙等の物質の如し

トイハソカスノ如キ論法ハ有躰ノ宗ナリ故ニ其同喩ノ方ハ理喩事喩
共ニ具足スルトナル何トナレハ凡テ事物の範圍内に屬する者は皆
引カありト云ヘキ理喩ノ存在ヲ見ルト共ニ又乙丙等ノ事物モ現實ナ
レハ也然ルニ異喩ノ方ハ凡テ引カなき者は事物の範圍内にあらずト
云ヘキ理喩ノ存在ヲ見ルノミニテ萬物中ニ其物躰ヲ尋ルモ亦アルト
ナキナリ故ニ此ハ理喩ノミ存在シテ事喩ハナシトイハサルヲ得ス
之ヲ要スルニ理喩ノ方ハ如何ナル論法ニテモ同品異品共ニ完全セサ
ルヘカラス只事喩ノ一方ノミ論法ノ性質ニ依テ一定セスト云フニア
リ
而ノ其事喩ノ點ニ就キ同喩ハ宗有躰ナレハ喩モ有躰ヲ要シ宗無躰ナ
レハ喩モ無躰ヲ要スル所以ハ同喩ノ性質ハ因ニ順ノ宗ヲ立スルニア
ルモノナルカ故ナリ又異喩ハ宗有躰ノ時モ無躰ニテ失ナク宗無躰ノ

時モ有躰ニテ妨ケナシトスル所以ハ異喩ノ性質ハ因ニ順ノ宗ヲ立セ
ントスルモノニアラス只因ノ濫用ヲ調フル一點ヲ擔當スル者ナルカ
故ナリ古來因ヲ正能立トシ同喩ヲ助能立トシ異喩ヲ止濫トスルモ其
意此ニアルト也

第四章 眞能立ノ餘論

西洋ノ論理學ヲ修メタル者ハ因明學ノ一隅ヲ見テ忽チニ批評ヲ試ミ
因明ニ喩ヲ用ヒ且ツ同喩ノ外ニ異喩ナルモノヲ論スルハ畢竟無益ノ
贅論ニ過キストイハントスル者之アルヤニ聞ク然ルニ上陳ノ講述ヲ
見ノ者ハ恐クハ其批評ノ不當ナルヲ知ルナラン
抑モ因明ニハ言ノ三支門ト義ノ三相門ヲ分テ論ス故ニ言ノ三支門ニ
依ラス義ノ三相門ニ就カハ事喩ナク只理喩アルノミ而シテ其理喩トハ
何者ノ曰ク他ナシ余已ニ序論ニ於テ論セシ如ク西洋論理學ノ大前提

ト一致セル合作法ノ命題是ナリ但シ因明ハ過誤ノ有無ヲ調フルト特ニ緻密ナルユエ表面的ノ命題ヲ更ニ裏面ヨリ儘メシカ爲メニ異喩ヲ用ユントモ之ヲ表裏合併スルトキハ合作法ノ一命題ト成ル然ラハ豈奚ソ之ヲ贅論ト云ヘケンヤ只是レ論理方ノ精密ヲ究ムルノミ然リ面ソ因明ニハ理喩ノ外尙事喩ヲ利用スル所以他ニアラス因明學ノ性質ハ問答ノ規則トシテ自悟的思想ノ運用ヲハ悟他説明ノ方術ニ應用セルモノナルカ故ナリ凡ソ自悟ノ推斷ニハ理喩ニテ事足ヌレハ敢テ事喩ヲ引用スルコトノ必用ヲ見サントモ他人ニ之ヲ悟了セシムル場合ニハ事喩ヲ引用スルコトノ便益頗ル大ナルヲ見ル故ニ因明ニハ事喩ノ利用方アルナリ然ントモ悟他ニ關係セス只自喩ノ推斷ヲナスニハ因明トイヘトモ理喩ヲ見付メルノミニテ事喩ノ引用ハナキモ差支ナキナリ且ツ夫レ論理學ハ飯納ハ續釋ニ由テ成リ續釋ハ亦飯納ニ由テ成ル

ヘキ關係ヲ有スルコトハ論理學者ノ一般ニ唱導スル所ナリ而シテ因明ノ三支作法ハ續釋法ニ違ヒナシ三支作法ハ續釋論理ノ組立ナントモ此續釋ハ飯納的實驗ニ徴シテ成ルモノナリ故ニ理喩ノ外ニ事喩ノ引用方ヲ設ケテ三支ノ續釋方ハ飯納的實驗ニ由ルト云意味ヲ茲ニ知ラセタモノ也豈奚ソ事喩ヲ無益ノ贅論トナスヘケンヤ又論者アリテ曰ク因明ハ既知ヲ以テ未知ヲ量ル論法ニハアラス只既知ヲ儘ムル爲メノ論法ニ過キスト哲學會雜誌第四號ヲ見ヨ余之ニ答ヘテ云ク抑モ因明ハ既知ヨリ未知ニ移ル論法ナリト云ハ自悟門ニ就テ云フニアラス悟他門ニ就テ云フナリ悟他門ニ就テ之ヲ論センカ總宗ハ立者ニアリテハ既知界ニ屬スレハ敵者ニアリテハ尙未知界ニ屬スル者ナリ彼レ敵者ニアリテハ未知ニ屬スル總宗ヲハ彼ニ悟了セシメンカ爲メニ彼モ既知界ニ屬スル喩並ニ喩ノ證明ヲ得テ舊來彼レノ未知ナル

因明學理論

事件ヲ轉メ彼レニアリテモ既知ノ區域トナサシムル方術是ソ悟他主義ノ因明ナル者ナリ然ラハ因明ハ既知ヲ體ムルニ止ル者ナリ未知ニ及ホス者ニハアラストノ批評ハ西洋論理學ノ眼ヲ以テ見タル皮相ノ見解ナルノミ抑モ合作法ニ諸或ハ凡てト云語ヲ冠セルトコロハ一般ノ既知界ヲ概括スル語ニ相違ナシ立敵共ニ既知界ニ屬スル凡テノ丙ヲ概括シ以テ敵者ノ方ニハ未知モ其中ニ籠レル乙ヲ立シテ最早ヤ丙ノ關係アル乙中ニハ未知ノ部分ナキトスルカ悟他的論法ノ目的ナリ豈未知ヲ推知スルノ論法ニハアラスト云ヘケンヤ第六節ヲ對見セヨ

又論者アリテ曰ク新因明ノ論式ハ第三段ニ凡て丙なる者は皆乙なり(前半)譬へは何々の如し(後半)ト云フ語ノ中ニ其重キヲ前半ニ於テ見ル者ナリ之ニ由テ新因明ノ第三段ハ最早ヤ喩ト云性質ヲ脱化セリ故ニ之ヲ喩ト名ケノヨリハ聲ノ別ナル語ヲ利用セサルヘカラス哲學會雜誌第九

眞能立

見ヨト云々余之ニ答ヘテ云ク抑モ論者ノ攷究スル喩ノ性質トハ如何ナルモノ乎何々の如しト指示スル事物ノ全躰是レ喩ノ性質ナリト想ヘル乎斯ノ如キハ亦愚モ甚シキ妄論トイハサルヘカラス若シ指示スル事物全躰是レ喩ナリトセハ天地萬有中ニ何者乎同喩トスヘキ者アラソ既ニ彼此ト分レタル已上ハ必ス彼此ノ間ニハ多少ノ異點アルモノナリ豈其異點マデテ取テ同喩トスヘケンヤ又々天地萬有中ニ何者乎異喩トスヘキ者アラソ萬有ハ彼此殊ナル中ニ亦必ス多少ノ同點アルモノナリ豈其同點マデテ取テ異喩トスヘケンヤ故ニ陳那之ヲ攷究シテ云ク事物全躰是レ喩ナルニアラス純粹ナル同喩ノ性質ハ只宗ニ同スル條件ト因ニ同スル條件トノ二大條件是ナリ又之ニ反シ只宗ニ異ナル條件ト因ニ異ナル條件トノ二大條件ノミ是レ異喩ノ性質ナリ此ノ同ト異ノ二大條件ノ外ニ亦喩ノ性質トスヘキ者アルコトナシト

ス豈精密ノ攻究ナラスヤ豈此外ニ喩ノ性質ヲ見出スヘクンヤ余ハ漸
因明出テ、喩ノ性質ヲ究メ得タリトイハサルヲ得ス然ルニ論者ハ之
ヲ評ノ喩ノ性質ヲ已ニ脱却シ去ルトハ論者ノ妄評奚ソ夫レ斯ノ如ク
甚シキ歟

然リ而シテ陳那出テ、合作法ノ命題ヲ呈出スルコトニ定メタル所以ハ余
前ニ陳ル如ク喩ノ定義ハ見邊ニアリ即チ一部分ヲ説明スルニアラス
既知界ノ全部ヲ以テ未知ノ全部凡テヲ比知スルニアリ故ニ諸皆ノ言
ヲ應用シ凡テノ既知界ヲ以テ未知ノ全部ヲ推斷スルノ方術ニ供シタ
ルモノナリ換言スレバ喩ニ由テ宗ヲ立スルノ論脈ヲ顯ハシタルモノ
ナリ既ニ喩ノ性質並ニ其論脈ヲ開陳スルコトハ第三段ノ前半ニアルカ
故ニ亦其重キヲ前半ニ於テ見ルヘキハ至當ノコトナリトイハサルヘカ
ラス然レニ敵者ニ此事ヲ速了セシムルニハ彼レノ豫知スル物牀ヲ提

示スルコト最トモ便利ナリトス故ニ後ニ喩ノ性質ノ依屬スル物牀ヲ
舉示スヘキ規則トハナセリ豈ニ之ヲ評シテ後半ハ喩ナリ前半ハ喩ニ
アラスト云ヘクンヤ請フ論者深ク之ヲ考ヘヨ蓋シ余第三段ノ前半ヲ
イゾク迄モ喩ナリト主張スルハ言ノ三支門ニ依ル若シ義ノ三相門ニ
依レハ即チ之ヲ能立ノ因ト云テ然ルヘキコトハ余先キニ辨スルカ如
シ

第五章 眞能立ノ結論

余ハ前來因明學ニ就テ論法ノ組織方ヲ講述シタリ故ニ爰ニ來テ一種
眞能立ノ論法ヲ示シ以テ前陳ノ組織方ヲ知ルノ便用ニ供セシトス而
ノ古來ノ因明家ガ眞能立ノ例トシテ應用スル論法ハ左ノ如シ

宗 聲は無常なるヘシ
因 所作性なるガ故ニ

喩

諸々所作性なる者は皆無常なりと見よ理譬へは瓦器等の如し事 (正面的同喩)

諸々無常に非る者は皆所作に非すと見よ理譬へは虚空等の如し事 (反面的異喩)

此ハ聲生派ニ對シテ勝論派或ハ佛教徒ヨリ立ル論法ナリトス然ラハ別宗ノ聲ト無常トハ立敵同許ニシテ而モ之ヲ合シタル總宗ハ立者許ルノ敵者許サ、ル故一許一不許ノ真正ナル不顧論宗トナルヲ知ルヘシ又所作性ト云ハ因縁力ニ由テ發生セル性質ト云ヘル意味ナリ而シテ立敵共ニ凡ク聲ハ因縁力ニ由テ發生セルモノト許スカ故ニ因ノ第一相ヲ具ヘタリ又瓦器等ノ如キ別宗ノ後陳ニ類同スル無常即チ滅ノ終リアル者ハ皆因縁ニ由テ發生スル生ノ始メアリトスルカ故ニ因ノ第二相ヲ具ヘタリ又虚空ノ如キ無常ニ非ル者即チ滅ノ終リナキ者ハ皆因

縁力ニ由テ生スル生ノ始メモノナシトスルカ故ニ因ノ第三相ヲ具ヘタリ因ニ三相完全スルト共ニ同喩異喩モ因明論法ノ制規ニ於テ一モ缺典アルヲナシ故ニ此例ヲ古來眞能立ノ說明ニ應用シ來ルヲナリ余更ニ新工夫ノ論法ヲ示サソカ茲ニ佛教徒ヨリ耶蘇教者ニ對シテ宗 汝の奉ずる眞神は全能者に非るへし 因 魔鬼を降伏すると能はざるが故に 諸々不能の事ある者は全能者に非すと見よ理譬へは吾人の如し事 諸々全能者ある者は不能の事なしと見よ事 (前ニ陳ル如シ) 又曰ク 宗 汝の靈魂は無に歸する終りあるへし 因 新生の始めありと許すが故に

因明學理論

喻

諸々新生の始めある者は皆無に歸する終りありと見よ譬へは電光の如し
諸々無に歸する終りなき者は皆新生の始めもなきと見よ譬へは汝の奉する神の如し

此は他比量ナリ他比量トスレハ余カ新按ニ係ル二種ノ論法共ニ無過ノ真能立トナルヘキト前ノ講述ニ照シテ知レ
然リ而シテ茲ニ尙陳ヘ置クヘキ要件ハ論法ニ就キ略陳ト具陳ノ二種アリテ宗因喻ハ三段一定セサルト是ナリ他語以テ之ヲイヘハ論法ハ必ス今示スカ如ク陳ルトトハ定マラサルト是ナリ
凡ソ立論ノ組織ハ其論脈マテヲ具陳スルトキハ前表ノ如ク陳述スヘキハ論ヲ俟マス然レトモ同喻異喻ノ前半ニ位スル合作法離作法二種命題ハ略ヲ欲シ簡ヲ好ムトキハ其意味サヘモ含藏スレハ敢テ之ヲ陳

眞能立

ヘサルモ妨ケナキナリ故ニ古今因明書ニ出タル論法ヲ見ルニ多クハ合作離作法ノ命題ヲ略シ只譬へは何々の如しト云テアリ故ニ余モ此例ニ倣フテ前來論式ヲ示シ來レリ管ニ合作法ノ命題ヲ省略スルノミナラス事喻モ必ス二種ヲ具陳セテハナラヌト云ニアラス時ニ依テハ異喻ヲ略スヘク或ハ同喻ヲ略スヘキナリ之ヲ要スルニ因明ノ論式ハ悟他ヲ目的トス故ニ立者ノ論意ヲ敵者悟了シ終レハ立論ハ既ニ其結果ヲ得タルモノナリ故ニ敵者ノ悟了遅ケレハ具サニ同異ノ二喻ニツキ理喻事喻共ニ具陳セサルヘカラス敵者ノ悟了速カニノ因ヲ陳レハ則チ宗ノ義ヲ悟了センカ然ラハ同異ノ二喻共ニ省略スルモ妨ケナキナリ故ニ論場ニ於ケル立者ノ言論ハ具陳略說一定セサルトト思ヘ余斯ノ如ク論スルモノハ理門論^{七紙}爲要具^ニ譬喻^{言詞}方成^{能立}爲如^{其因}但隨說^一以^上文若就正理應具說^二由是具足顯示^{所立}不離其因^{以具}

顯示同品定有異品遍無能正對治相違不定第一答文若有於此一分已成隨說一分亦成能立第二答文若如其聲兩義同許俱不須說第三答文ト說々慈恩之ヲ釋シテ此上意說二俱不說或隨一或二具說隨對時機一切皆得ト言ヘルニ據ル請フ大疏三十四紙ヲ披テ之ヲ詳カニセヨ

第二部門 似能立(顯正的論法、過誤)

第一章 總論

第一節 過誤ノ分類方

余先キニ云如ク似能立ト云ハ真能立ニ似テ非ナルモノ是ナリ其似テ非ナルト云ハ敵黨ニ對シテ立セントスル所ノ論法ニ種々ノ過誤アルモノ是ナリ其種々ノ過誤ト云ハ大ニノ分類スレハ缺過支過ト分レ而シテ其缺過ノ中ニ無牒缺ト有牒缺ノ二類分レ支過ノ中ニ三十三種ト分レ來ルト云ガ過誤ヲ分類スル大判ナリ請フ之ヲ圖ニ表セシ

無牒缺……古因明家據レ之

缺過

少相缺……新因明家據レ之

有牒缺

義少缺……

新

因明學理論

似宗九過……
 支過似因十四過……合計三十三種過誤……
 似喻十過……
 論述古

此中マツ缺過ト支過ト大ニシテ二類ニ分ツ所以ハ之ヲ古因明世親ニ就テ論スルニ其陳フヘキ言論ニ缺乏アルカ爲メ悟他ノ結果ヲ見ルヲ能ハサルモノ之ヲ缺過ト云フ(無牒缺)例ヘハ宗ハ告白シタントモ因ヲ陳ルトナク或ハ因ハ陳ヘタルモ喻ヲ引テ敵者ニ因ノ意味ヲ悟了サセルトナキカ如キモノ是ナリ又タ陳フヘキ言語ニ少シモ缺乏ハナクセントモ其言語タルヤ荒唐無稽種々ノ過語アリテ自論ヲ立スルト能ハサルモノ之ヲ支過ト名ク例ヘハ宗ヲ陳レハ其宗ノ言ニ過失アリ因ヲ陳レハ其因ノ言ニ過失アリ喻ヲ舉レハ其喻ニ過失アリト云様ニ宗因喻ノ三支ニ種々ノ過誤アルトテ敵者ニ見付ラル、モノ是ナリ

似能立

又之ヲ新因明陳那ニ就テ論セシカ抑モ因明學ハ言論ノ穿鑿ナリ故ニ有過無過ノ論ハ言論ヲ發シタル上ニテ論スヘシ未タ言論ノ發表モナキモノニ付テ有過無過ノ論ヲナストハ無用ナリト極メ已上陳那カ無リ只發言已後ニ就テ缺過支過共ニ論セントスルモノハ新因明ナリ故ニ新因明ノ缺過ヲ有牒缺ト名ク蓋シ古因明ノ缺過ヲ簡フ爲メナリ然ラハ新因明ハ如何ナル點ニ就キ缺過ヲ論スル乎曰ク新因明ノ缺過ハ論法ヲ所立ト能立トニ分ケテ其能立ノ一方ニ就テ缺點アルトテ論スルモノ之ヲ缺過ト名ク然リ而シテ其能立ノ一方ニ就キ缺點ヲ論スルニ言ノ三支門ニ就テ論スルト義ノ三相門ニ就テ論スルトノ兩様アリ乃チ言ノ三支門ニ就テ論スルヲ名ケテ義少缺トイヒ其義ノ三相門ニ就テ論スルヲ名ケテ少相缺トイフ大疏二十紙有牒闕者復有二種一者以因三相而爲能立雖說因三相少相名闕二者因一喻二三爲能立雖說其

論理學明因

牀義少名闕トイヘルモノ是ナリ此中先ツ義ノ三相門ニ就テ論スルヲ
 少相闕ト名クル所以ハ既ニ真正ノ能立ハ三相完全セサルヘカラスト
 云テ規則トス然ルニ其完全セサルヘカラサル三相中或ハ一相ヲ缺少
 シ或ハ二相ヲ缺少シ或ハ三相凡テヲ缺少スルモノアリ故ニ之ヲ名テ
 少相闕トイフ又言ノ三支門ニ就テ論スルヲ義少闕ト名クル所以ハ凡
 ソ因ニ陳フヘキ事件ハ別宗中ノ前陳其者ニ固有セル事件ナラサルヘ
 カラスト云テ規則トス然ルニ因ノ言ニ此義ヲ缺少スルヲアリ又同喩
 ハ因ニ類スルト別宗中ノ後陳ニ類同スルトノ二大條件ヲ併有セル事
 柄ナラサルヘカラスト云テ規則トス然ルニ陳ル所ノ同喩ニ此義ヲ缺
 少スルヲアリ又異喩ハ宗ニ別異ナルト因ニ別異ナルトノ二大條件ヲ
 併有セサルヘカラスト云テ規則トナス然ルニ陳ル所ノ喩ニ此義ヲ缺
 少スルヲアリ斯様ニ同異ノ二喩ヲ總合シテ二喩ノ牀ハ即チ因ナリト

立能似

視ナシテ三相ノ具缺ヲ論スルデナク能立ニハ因ト同喩ト異喩ノ三類
 アリトシテ此ガ義理ノ具缺ヲ論スルモノ之ヲ義少闕ト名ツク(已上缺
 過ノ論ヲ詳カニセント欲セハ大疏一紙十二同二紙廿六四紙二十ヲ披ケ)
 然リト雖モ義少闕ハ支過ノ外ナルモノニアラス支過中ノ一部分是レ
 義少闕ナリト見ヨ何トナレハ支過モ言ノ三支門ニ就ク過ナレハ義少
 缺モ亦言ノ三支門ニ就ク過ナルカ故ナリ余前ノ圖ニ義少闕ト支過ノ
 三十三種トノ間タニ虚線ヲ引タルハ蓋シ此旨ヲ表センカ爲メナリ既
 ニ然ラハ義少缺ト支過ト二者ノ間タニ一點ノ區別之ナキ乎答テ云ク
 豈今イハスヤ支過中ノ一部分是レ義少缺ナリト故ニ凡テノ支過皆義
 少缺ニアラサレモ義少缺ハ皆支過ナリト云フヲ得ル抑モ支過ト云ハ
 所立能立ノ隔ヲナク宗因喩ノ三支一般ニ就テ過誤ヲ論スルニアリ又
 義少闕ト云ハ只能立ノ一方ニ就キ因ヲ宗ニ望メタル義理ノ缺典ト同

喻ヲ因ト宗ニ望メタル義理ノ缺典ト異喻ヲ宗ト因ニ望メタル義理ノ缺典トヲ論スルニアリ故ニ二者ニ寬狹ノ區別アリト思ヘ
過誤ノ分類方ハ大旨如此而ノ是ヨリ下モ講述スルトコロハ純ヲ支過ノ方ニアリ故ニ余爰ニ支過三十三種ノ名ヲ表シ置ントス

似宗九過

- 現量相違過
- 比量相違過
- 世間相違過
- 自教相違過
- 自語相違過
- 能別不極成過
- 所別不極成過
- 俱不極成過
- 相符極成過

陳那設立

天主增加

似因十四過

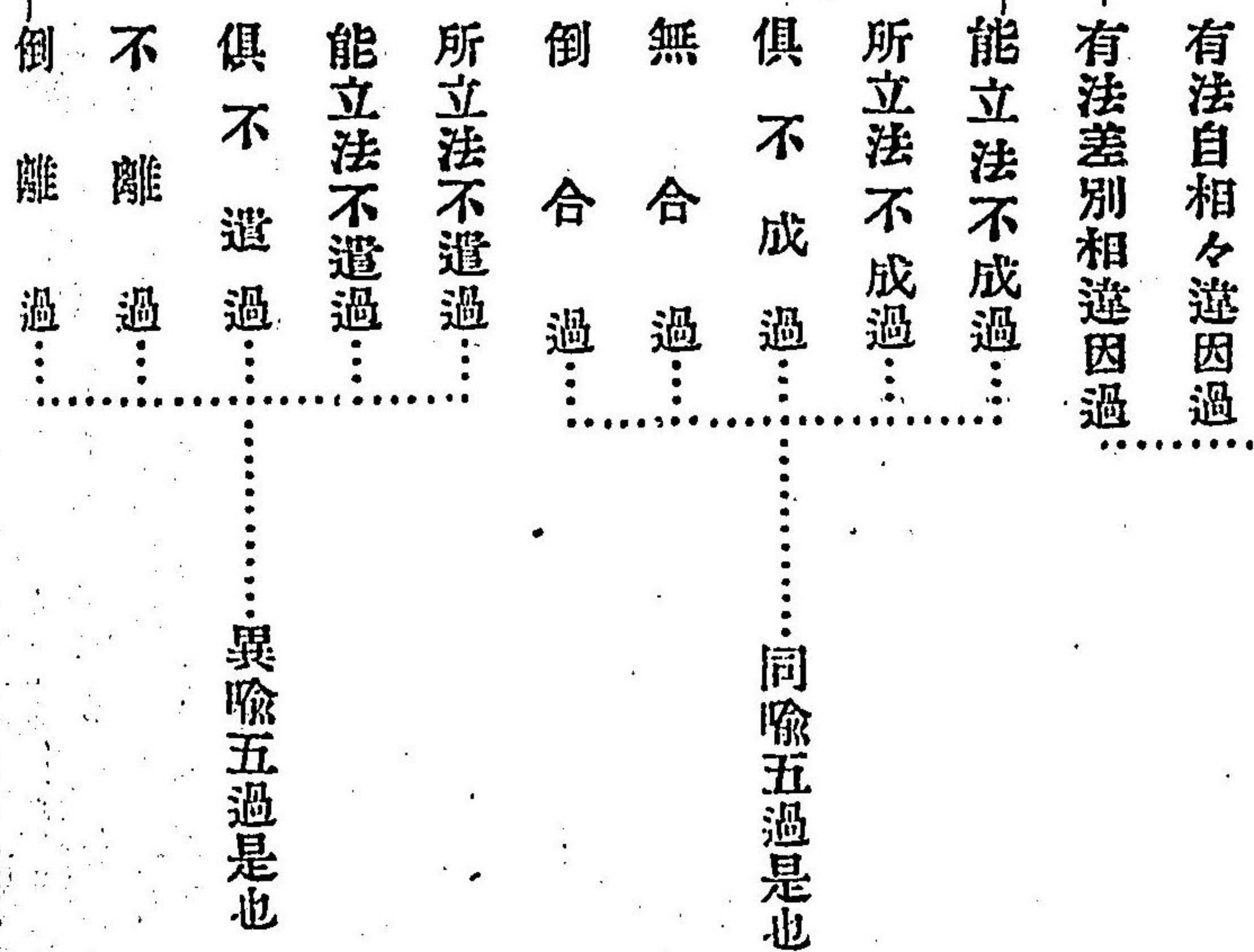
- 兩俱不成過
- 隨一不成過
- 猶豫不成過
- 所依不成過
- 共不定過
- 不共不定過
- 同分異全不定過
- 異分同全不定過
- 俱分不定過
- 相違決定過
- 法自相相違因過
- 法差別相違因過

四不成過是也

六不定過是也

四相違過是也

似喻十過



古來之ヲ名ケテ因明ノ三十三過ト稱シ來ル余輩下ノ講述ハ只此三十過ヲ辨明スルニアリ讀者下去テ之ヲ知レ

第二章 宗過ノ辨明

第二節 現量相違ノ過失(事實相違宗)

宗ニ就ク總牒ノ過失ヲ分類スルニ九種トナル此九種ノ中ニ凡テノ宗過ヲ攝シ盡スト見ルモノハ新因明ナリ蓋シ初メ五種ハ理門論ニ出タル陳那ノ考ヘナリ此ニ後ノ四種ヲ増加シタルハ入正理論ニ出テタル天主ノ考ヘナリ今順序ヲ追テ之ヲ辨明スルニ

第一現量相違ト云ハ換語スレハ事實相違ト謂テ可ナリ凡ソ吾人五官ノ能力ヲ以テ直覺スル現見ノ事實ニ相違シタル事柄ヲ陳ベテ總宗トスルモノ是ナリ入正理論ニハ其例ヲ出シ聲は所聞に非すと云カ如シトイヘリ余更ニ別例ヲ試シカ

宗 蛇には足あるべし
 因 能く歩行するが故に
 喩 人類獸類の如し
 ト説キ或ハ

宗 獸類は凡て兩足あるべし
 因 能く歩行するが故に
 喩 譬へは吾人の如し

ト云カ如シ斯ノ如キ宗ハ現見ノ事實ニ相違セル事柄ナルカ故ニ因喩ノ能立ノ正カ不正カヲ調フルヲ俟タスシテ宗ヲ陳ルト同時ニ之ヲ聽ク者ノ思想ニ於テ宗ニ符順スル知識ハ起ラス反テ宗ノ説ニ相違セル反對的思想ヲ惹起スモノナリ故ニ之ヲ宗ニ屬スヘキ現量相違ノ過失ナルモノトス蓋シ凡テ現見ハ事實ニ違フヲハ語ルヘカラス假令之

ヲ語ルモ其事ハ立スキ等ナシト云テ原理トノ之ヲ一種ノ過失ニ數ヘタルモノナラン

第三節 比量相違ノ過失(論理矛盾宗)

第二比量相違ト云ハ換言スルハ論理矛盾ト謂テ可ナリ第一現量相違ノ如ク直覺的ノ事實ニハ相違セサル所立ノ總宗若シ正當ナル論理思想ノ觀察ニ矛盾スルコアルトキハ其ノ宗ニ比量相違ノ過失アリトス入正理論ニ其例ヲ云ノ瓶瓦器稱ノ等は常住なるべしト云カ如シトイヘリ余更ニ一例ヲ舉フカ

吾父母は死せざるべし(宗)

ト云カ如キモノ是ナリ斯ノ如キ宗ハ現見ノ事實ニ乖クトハ云フヲ得サントモ凡て人なる者は皆死す而して吾父母も人なりトノ正當ナル論理思想ニ矛盾セリ故ニ之ヲ比量相違ノ過アル宗トナス比量ト云ハ

論理學明因

若シ客觀的ノ解釋ヲ用ユレハ能立ノ因喩即チ立論ノ道理是ナリ若シ主觀的ノ解釋ヲ用ユレハ能立ノ因喩即チ立論ノ道理ヲ觀察スル敵者并ニ證義者ノ思想是也此比量ニ乖反スルトコロノ宗之ヲ比量相違ト名ク此ニ就キ比量相違ノ過ハ前ノ宗ガ後ノ因ニ違スルノ過失ナル乎或ハ後ノ宗ガ前ノ因ニ違スルノ過失ナル乎ト云問題ハ頗ル大論トナレリ瑞源記四紙十七古今ノ論決ヲ出ス往ヲ見ヨ

要スルニ真理ハ凡テ直覺的ノ實驗ニ依テ知ルヘキモノニアラス故ニ直覺的實驗ノ及ハサル區域ハ道理即チ論理ノ推演ニ依テ知ラサルヘカラス此ニ由テ若シ推演法ニ契當スルモノナレハ(實驗ノ範圍外)凡テ真理トセサルヘカラス若シ推演ノ法式ニ乖反スルトハ真理トハナスヘカラスト云テ原則トシ之ヲ一種ノ過失ニ數ヘタルモノナラン

第四節 世間相違ノ過失(輿論相違宗)

立能似

第三世間相違ト云ハ換語スレハ輿論相違トイハシカ如シ世間一般ノ人舉リテ然リト信シテ動カサル事件之ヲ名テ世間普通説ト云フ即チ輿論ト謂ヘキモノナリ但シ此ニ二ノ別アリ其一ハ通俗ニハ輿論デナク只學者社會或ハ宗教社會ト云部分ニ限リ輿論ト成ルモノ是ナリ之ヲ名テ學者世間ト云即チ學者ノ輿論學者ノ普通説ナルモノ是ナリ他ノ一ハ通俗一般ノ人ノ信ノ動カサル事件是ナリ(假令妄信にても)之ヲ名テ非學者世間ト云即チ俗人輩ノ輿論一般人ノ思想是ナリ斯ノ如キ輿論ニ乖クトコロノ宗之ヲ名テ世間相違ト名ク入正理論ニハ二種ノ例ヲ出セリ其第一例ハ

宗 懷兔は月に非るへし其意ハ月は死を懐く者に非すト云ニア

意趣アルナレトモ今ハ略シテ辨セズ

因 有跡なるか故に

因明學理論

喩 日星等の如し

ト云式ナリ其第二例ハ

宗 人の體は清淨なるべし

因 衆生身體の一部分なるが故に

喩 螺貝等の如し

ト云式ナリ第一例ハ印度古代ニ俗説アリ月ハ兔ヲ懷ケリ即チ月中ニハ兔居ル者ナリト云フヲ恐人社會一般ニ信仰セリ然ルニ學理上ヨリ懷兔は月にあらずト云テハ世間一般ノ思想ニ乖クト云意ナリ第二例ハ人ノ骸骨ハ穢レタル者ナリトハ世間一般ノ俗情ナリ然ルニ學理上或ハ宗教上ヨリ之ヲ清淨ナル者ト説テハ世間普通ノ思想ニ乖クト云意ナリ然ラハ此二例ハ共ニ非學者世間ニ乖ク方ヲ擧ゲモノナリ余更ニ學者世間ニ相違スル例ヲ擧ノカ茲ニ人アリ

物理化學は空想論なり(宗)

ト云カ如キハ第一學者世間ニ違セル宗ト云ヘキモノナリ又ダ

金貨妻妾は實に厭ひ嫌ふべき者なり(宗)

ト云カ如キハ第二非學者世間ニ相違セル宗ト云ヘキモノナリ

之ヲ要スルニ世間一般ノ人皆信仰セルトニハ眞理多キ者ナリト云フ

ト又社會ノ輿論ト云モノハ輕忽ニ動カスヘカラス因循セサルヘカラ

スト云フトテ原則トノ之ヲ一種ノ過失ニ數ヘタルモノナラン

問テ云ク先キニ論スル如ク別宗ハ自他同許テ規則トスントモ總宗ハ

違他順自ヲ規則トナセリ既ニ然ラハ世間相違ノ如キハ能ク宗ノ組織

方ニ契當セリトイハサルヘカラス然ルニ今曷ソノ之ヲ過誤ノ宗トナ

ス乎 答テ云フ論者ノ云如ク總宗ハ違他順自ヲ規則トナセリ然レト

モ違他順自ナルモノハ凡テ眞正無過ノ宗ナリト云ニハアラサルナリ

似能立

凡ソ別宗ハ自他同許ヲ規則トナシ總宗ハ違他順自ヲ法則トナス故ニ此規則ニ背クモノハ有過ナリ此法則ニ應スルモノハ無過ナリト云ハ宗ノ組織方ニ就テノ論ナルノミ其宗ノ組織方ニ就テ規則ノ如クナラサル過ハ宗ニ九過アル中テハ後ノ四過是ナリ然ルニ宗ノ過豈唯組織方ニ就ク過ノミナランヤ假令之ヲ組織スルコトハ組織ノ法則ヲ過マツコト之ナキモ其宗ノ說ヤ事實ニ相違セシカ然ラハ之ヲ有過ト爲サ、ルヘカラス故ニ現量相違ノ過アリ又其宗ノ說ヤ正當ナル因喻ノ道理ニ相違セシカ然ラハ亦有過ト爲サ、ルヘカラス故ニ比量相違ノ過アリ又其宗ノ說ヤ世間一般ノ輿論ニ乖背スルトセシカ然ラハ亦有過ト爲サ、ルヘカラス故ニ世間相違ヲ過トナセリ凡ソ宗ニハ九過アリトシタル中後ノ四過ヲ除キ前五過ハ皆違他順自ニ組織シ得タルモノト視ナシ其違他順自ノ總宗ニ就テノ過失ヲ吟味シタルモノナリ故ニ組織

方ニ缺典ナケレハトテ必ス無過ナリト想フコト勿レ問テ云ク然ラハ識者アリテ自論ヲ主張シ途ニ社會ノ輿論ヲ一變セシムルコトアルカ如キ又學者アリ學理ヲ標準トナシテ世間ノ俗情ヲ顧リミサル立論ヲナスカ如キ或ハ佛教者アリテ佛教ノ理ヲ說キ耶蘇教者アリテ耶蘇ノ教理ヲ說クカ如キ皆是レ世間相違ノ過トイハサルヘカラス既ニ然ラハ因明ハ是等ノ說ヲ爲シ論ヲ發スルコトヲ制禁スルモノ乎 答テ云ク豈其レ然ランヤ因明ハ固ヨリ是等ノ論ヲ好ムモノナリ否是等ノ論ヲナスニ就キ其制規ヲ作りタルモノナリ然ラハ是等ノ論ヲナスニ就キ如何ナル制規アル乎 答テ云ク自比量他比量ニ汝我ノ言ヲ須ユル如ク宗前陳ノ上ニ適宜ノ語ヲ冠セテ吾レ今通俗已外ノ論ヲ立ントスト云フテ豫シメ表示スレハ世間相違ノ過失ハ之ナシト云ヘルガ其制規ナリ名テ之ヲ簡別語ト云故ニ玄辨印度ニ在リテ時ニ位ス

ル帝王ノ命令ニ依リ五印度中ヨリ小乘佛教徒并ニ外道各種ノ論客來テ一處ニ群居スル時之ヲ戒日王無支辨ハ彼等ニ對シ大乘佛法ノ教理ニ就キ唯心論ヲ主張セシカ爲メ六箇ノ論法ヲ組織セリ名ヲ唯識比量ト云其論法ニ曰ク眞故極成色不離於眼識宗自許初三攝眼所不攝故因猶如眼識喻ト慈恩ハ之ヲ世間相違ノ過ヲ釋スル下ニ擧テ通俗ニ殊ナル事柄ヲ宗トスル時ニハ簡別語ヲ須ルノ例證トナセリ其文ニ曰ク凡因明法能所立中若有簡別便無過失若自比量以許言簡顯自許之無他隨一等過他比量汝執等言簡無違宗等過若共比量等以勝義言簡無違世間自教等失隨其所應各有標簡此比量中有所簡別故無諸過ト云々

讀者此唯識比量ヲ研究セント欲セハ瑞源記四廿六已下ヲ披ク余ハ之ヲ普通人種ノ爲ニ説明スルノ必要ヲ感セサルト共ニ亦頗ル事冗長ニ亘ル恐レアルカ故ニ之ヲ辨明セス余ハ只茲ニ世間相違ノ過ヲ離ルヘ

キ二三ノ簡別語ヲ示シ置ン

茲ニ天文學者アリテ宇宙は天靜地動なりトイハシカ然ラハ非學者世間即チ愚俗社會ノ思想ニ違ストイハサルヘカラス之ニ由テ

學理の成績に依れば簡別宇宙は天靜地動なる（し宗）

ト云ハシカ然ラハ非學者世間相違ノ過失ヲ免ル、トト成ル又茲ニ唯心哲學ノ者アリテ心外に事物なしトイハシカ然ラハ非學者世間ト學者世間トノ兩方ニ違ストイハサル可ラス何トナシハ非學者社會ノミナラス科學ヲ修メタル者モ一般ニ事物ノ存在ヲ信メ疑ハサルカ故ナリ之ニ由テ

哲理に依れば簡別宇宙は唯心無物なる（し宗）

トイハシカ然ラハ世間相違ノ過ナシト云フヲ得ル又耶蘇教徒アリテ日本ノ人民ニ對シテ天照皇太神宮は禮拜すヘからず或ハ陛下を敬

禮するは罪惡なるべしトイハシカ然ラハ世間相違ノ過ヲ招クトイハサルヘカラス此ニ由テ

耶蘇教の意に依れば簡別太神宮は禮拜すヘカラス宗或ハ耶蘇教の意に依れば簡別陛下の眞影に敬拜するは罪なるべし宗

トイハシカ然ラハ世間相違ノ過ハ免ル、トナル余斯様ナリサハ多ク且ツ思シク思ヘトモ近頃間々斯様ノ事蹟ヲ見ルカエエ耶蘇教ノ蔓延要ハ神聖ナル吾國體ヲ汚ストハ之ナキ乎ト杞憂ノ餘リ筆茲ニ至レリ要スルニ簡別ノ語ヲ用ユンハ世情ニ違フトモ立論スルトチ得ルナリ

第五節 自教相違ノ過失自家撞着

第四自教相違ト云ハ換言スシハ自家撞着ト謂テ可ナリ凡ソ孰レノ學派孰レノ宗教トイヘトモ其教系相分レテ既ニ一家ヲ組織シタル已上ハ其家ノ人ニシテ其派ノ事ヲ説ントスルニハ先ツ第一着ニ自家百般ノ教理ヲ標準トシテ論ヲ立テサルヘカラス然ルニ時アリテ自家ノ教理

ニ乖クトチ陳フルトアリトセンカ然ラハ假令敵者ノ攻撃ハナクトモ自家ノ教理ニ乖クトコロテ過失ト爲サルヘカラス否斯ノ如キ宗ヲ陳ヘタルハ敵者モ必ス因喻ヲ正不正ニ係ラス第一着ニ自家撞着ノ點ヲ以テ攻撃ヲ試ミルモノナリ入正理論ニ其例ヲ擧テ勝論學派ノ徒アリテ聲は常住なるべしトイハシカ如シトイヘリ余更ニ一例ヲ擧ンガ茲ニ佛教徒アリテ

因果の法則は確實なるにあらず宗

ト説クカ如キ又耶蘇教徒アリテ

來世の苦樂は神の干涉するものに非るべし宗

ト説クカ如キ是ナリ是等ハ自家ノ教理ニ相違セル立宗ナルカ故ニ是ヲ自教相違ノ過アルトナス

要スルニ凡ソ宗教家ガ宗教ノ事ヲ説クニハ第一着ニ自家ノ教理全般

ニ撞着ナキ様ニ注意シテ説明セサルヘカラス又各派ノ學徒カ其教系ノ學說ヲ論スルニ自家ノ學說全般ニ撞着ナキ様ニ注意シテ説明セサルヘカラスト云フヲ原則トシテ之ノ一種ノ過失ニ數ヘタルモノナラン

第六節 自語相違ノ過失(前後矛盾宗)

第五自語相違ト云ハ換語スレハ前後矛盾ト謂テ可ナリ凡ソ命題ナルモノハ前名辭ト符順センコトヲ要ス然ラスハ後名辭ヲ以テ前名辭ヲ説明スルコトハナラサルナリ然ルニ時アリテ前後ノ兩名辭ノ矛盾シ乖反スルコトアリトセンカ然ラハ假令敵者ノ攻撃ハナクトモ自語ノ前後矛盾スルトコロニ過失アリトイハサルヘカラス否斯ノ如キ宗ヲ陳ヘタルハ敵者モ必ス自語ノ前後矛盾スルトコロニ就テ攻撃ヲ試ミルモノナリ入正理論ニ其例ヲ出シテ人アリ吾母ハ石女なりトイハソカ如

シトイヘリ石女或ハ虛女ト稱ナリ此命題ヲ見ルニ前陳ニハ既ニ吾母トイフ明ケシ吾ンヲ産ミシ女ナルコト然ルニ後陳ニハ石女トイフ明ケシ復タ子ヲ生マスト云フコト斯ノ如キ命題ハ前後矛盾スルカ故ニ因喻ノ正不ニ係ラス又敵者ノ攻撃有無ニ係ラス命題タルノ性質ヲ失ヘルモノナリ何トナレハ凡テ命題ハ其後名辭ヲ以テ前名辭ヲ説明スルヲ性質トスルカ故ナリ此事ハ眞能立中ニ出タル然ラバ既ニ命題タルノ性質ヲ失ヘリ豈奚ソ之ヲ無過ノ宗トナスヘクンヤ余更ニ一例ヲ擧ンカ茲ニ人アリ吾妻ハ女に非すトイヒ或ハ鐵瓶ハ土塊なりトイヒ或ハ熱湯ハ冷かなるものなりト云カ如キ皆其例トナル之ヲ要スルニ凡ソ命題ハ必ス前後ノ兩名辭符順ノ後名辭ハ前名辭ヲ説明スルモノナリト云フ原則トノ之ヲ一種ノ過失ニ數ヘシモノナラン

自教相違ト自語相違トハ濫シ易キモノトスレトモ余ノ如ク辨明ス
レハ余ハ其區別劃然タルコト信ス

第七節 前五過ト後四過トノ辨別附リ極成ノ意義

前來說キ來ル五過ハ陳那ノ考按ナリ是ヨリ陳ントスル四過ハ天主ノ
考按ニ出タリ其ノ陳那ノ立テタル五過ハ宗ノ組織方ニ係ハラス既ニ
組織シ得タル宗ニ就キ事實ニ違スルト論理ニ違スルト輿論ニ違スル
ト自家ノ說ニ違スルト自語ニ違スルトノ五種ノ乖反撞着ヲ以ツテ過
失トナスニ止マル而シテ是レヨリ下ニ陳フル天主ノ四過ハ宗ノ組織
方ニ就キテ過誤ヲ立ルニアリ余屢々陳フル如ク別宗ハ立敵同許ナラ
サルヘカラス總宗ハ立敵不同許ナラサルヘカラスト云フハ因明ニテ
宗ノ一命題ヲ組立ルノ規則ナリ然ルニ此規則ヲ守ラサルモノアルカ
爲メ別宗ニ就テハ能別不極成ト所別不極成ト俱不極成トノ三過ヲ設

因明學理論

ケ總宗ニ就テハ相符極成ノ一過ヲ設クタリ余第二篇因明史ニ於テ論
スル如ク天主論師出テ、陳那ノ因明論ニ一步ヲ進メタルトコロ亦此
ニアルモノ也

似

然リ而ノ入正理論ヲ見ルニ別宗ヲ說テ極成有法極成能別トイヒ又別
宗ノ過失ヲ呼テ能別不極成所別不極成俱不極成ト號ノ共言不共言或
ハ通語不通語ト云如キ詞ヲ用ヒサル所以ハ蓋シ二意ヲ含藏セシメン
カ爲メナリ其二意トハ一ニ言語ノ通不通ニ事件ノ實不實是ナリ凡

能

ソ別宗ト云モノハ其語ノ立敵通用セノコトヲ要スルト共ニ又其事件モ
立敵共ニ實事ト許ス事柄ナランコトヲ要スト云フテ意味スルカ極成有
法前極成能別後ノ二句ナリ既ニ別宗ノ性質ヲ斯ク定メタルカユエ前

立

陳ノ一方ニ此規則ヲ犯スモノハ所別不極成ノ過ナリ後陳ノ一方ニ此
規則ヲ犯セルモノハ能別不極成ノ過ナリ兩方共ニ此規則ヲ犯セルモ

ノハ俱不極成ノ過ナリトセリ然ラハ不極成ト云語ニハ語ノ立敵不通
チ意味スルト共ニ又事件モ立敵共ナルカ或ハ孰レカニ實事トハ許サ
スト云チ意味スル語ト見ヨ是ヲ以テ余ハ不極成ノ過失ニ二種アリト
ス其一ハ唯言語ノ不通是ナリニハ言語ノ不通ト共ニ又々事實ノ不同
許ナルモノ是ナリトイハントス然レトモ入正理論ノ引例并ニ大疏一
五紙ニ出テタル極成ノ解釋ハ余ノ二種ト分々中ノ第二事實不同許ノ
意味ニ依テ解釋シテアリ蓋シ極成ノ語ハ第二ヲ主トスルト又第二ア
レハ必ス第一アルヘキカ故トニ由ルモノナラン

第八節 能別不極成ノ過失(後陳不同許宗)

第六能別不極成ト云ハ換語スレハ後名辭不同許ト謂テ可ナリ抑モ別
宗ハ前後共ニ立敵同許ノ名辭ヲ須ニヘキ筈ナリ然ルニ時アリテ前陳
ノ方ハ立敵同許ノ名辭ナレトモ後名辭ノ方ハ立敵不同許ナルトアリ

トセシカ然ラハ能別不極成ノ過ト云モノナリノ不極成トハ不許入正
理論ニ其例ヲ出シ佛敎徒アリ數論學派ニ對シテ聲は滅壞あるヘシト
説クカ如シトイヘリ万物ノ滅壞スト云テハ佛敎徒ノ説ニシテ彼レ數
論學派ハ万有中ニ滅壞スルモノナシトス彼レ万有中ニ滅壞スルモノ
ナシトスルト同時ニ彼ハ滅壞ノ名辭ヲ許サ、ルナリ故ニ之ヲ能別不
極成ノ過アル例式ト爲セリ蓋シ此ハ事實不同許ノ例ナルモノ也
余更ニ一例ヲ示シカ茲ニ人アリ少シモ洋語ヲ解シ得サル者ニ對シ
人心ヲ支配する者は「れりじよん」(宗教)なるヘシ(宗)

ト云カ如キハ余ガ云フ言語不通ノ能別不極成ナルモノ也又耶蘇敎徒
アリテ佛敎徒ヲ敵手トナシ

万物は獨一眞神の造化なるヘシ(宗)
ト云カ如キハ余カ云フ事實不同許ノ能別不極成ナルモノ也何トナレ

ハ万物ト云前陳ハ名モ實モ共ニ佛教徒ノ許ス名辭ナントモ後陳ニ獨
一眞神の造化トイヘルハ名モ實モ共ニ佛教ノ方ニテ許サ、ルカ故ナ
リ

第九節 所別不極成ノ過失(前陳不同許宗)

第七所別不極成ト云ハ換語スレハ前陳不同許ノ過失ト謂テ可ナリ若
シ時アリテ別宗ノ後陳ハ立敵同許ノ名辭ナルモ別宗ノ前陳ハ立敵不
同許ノ名辭ヲ用ルコトアリトセンカ然ラハ是レ所別不極成ノ過失ナル
モノナリ入正理論ニ其例ヲ出ノ數論學派ノ徒ヨリ佛教徒ニ向ヒテ我
の軀は是れ思なるへしトイハシカ如シトイヘリ是レ後陳ニ思トイフ
名辭ハ佛教徒モ許ス名辭ナントモ前陳ニ出セル我ノ名辭ハ佛教徒ノ
許サ、ル名辭ナリ何トナレハ佛教ハ無我ヲ眞理トスルカ故ナリ是ヲ
以テ之ヲ所別不極成ノ過アル例式トナセリ蓋シ亦事實不同許ノ例ナ

ルモノ也

余更ニ一例ヲ示サンカ又前ノ如ク一ノ洋語モ知ラサル者ニ對シ

「ふいろそふい」哲學は諸學の王なるへし(宗)

ト云カ如キハ余ノ云フ言詞不通ノ所別不極成ナルモノ也又耶蘇教徒
アリテ佛教徒ニ對シ

眞神の末日審判は公明正大なるへし(宗)

ト云カ如キハ余ノ云フ事實不同許ノ所別不極成ナルモノ也何トナレ
ハ後陳ニ公明正大トイヘルハ其名其實共ニ佛教徒モ許スコトナレトモ
前陳ニ眞神ノ末日審判トイヘルハ名實共ニ佛教徒ノ許サ、ルコナル
カ故ナリ

第十節 俱不極成ノ過失(前陳後陳不同許宗)

第八俱不極成ト云ハ換語スレハ前陳後陳二者俱ニ不同許ト云フ意味

ナリ若シ時アリ別宗前陳ノ名辭モ後陳ノ名辭モ俱ニ立敵不同許ナル
 チ用ユルトセシカ然ラハ俱不極成ノ過ヲ招クトナル入正理論ニ其
 例ヲ出シ勝論學派ノ者ヨリ佛教徒ニ向ヒテ我は和合因縁なるへしト
 説クカ如シトイヘリ我トイフ前陳ヲ佛教許サ、ルト俱ニ和合因縁ト
 イフ後陳モ佛教徒主唱スル因縁和合ノトニアラス彼レ勝論派ニ限リ
 テ論スル和合句ノ第六義ヲ取リ我ハ其和合句義ノカラ能ク諸德覺、樂、賢、
非、法、ヲ和合スル時ノ因縁トナルモノナリト云意味ナルカ故ニ佛教
 徒ノ許サ、ルトトナル故ニ之ヲ俱不極成ノ過アル例ト爲セリ
 余更ニ一例ヲ擧ケンカ亦マ前ノ如ク一ノ洋語モ知ラサル者ニ對シ
 「ろじく」論理は「ふろそふい」の楷梯なるへし(宗)
 ト云カ如キハ余ノ云フ言詞不通ノ俱不極成ナルモノ也又耶蘇教徒ア
 リテ佛教者ニ對シ

眞神は末日審判の主權者なるへし
 ト云カ如キハ余ノ云フ事實不同許ノ俱不極成ナルモノ也其目前ノ説
 明ニ准シテ知レ

第十一節 相符極成ノ過失(總宗同許宗)

第九相符極成ノ過ト云ハ換語スレハ總宗同許ノ過ト謂テ可ナリ抑モ
 總宗即チ宗ノ本體ハ余屢々陳ル如ク別宗ハ立敵同許ヲ要スルニ反對
 ノ總宗ハ立敵不同許ナラシト要スルモノナリ語ヲ換レハ總宗ハ違
 他順自ヲ規則トナスモノナリ然ルニ組織シ得タル總宗ニシテ立敵同
 許ナルトアリトセシカ然ラハ即チ遍所許宗或ハ先承稟宗ナルモノナ
 リ遍所許宗并ニ先承稟宗ハ立敵相符合スル説ナルカ故ニ之ヲ相符極
 成ノ過アル宗トス第一節 門中ノ第五節 對見セヨ入正理論ニ其例ヲ出シ聲は耳の所
 聞なりト説クカ如シトイヘリ斯ノ如キハ誰アリテ許サ、ル者ナキ遍

所許宗ナルカ故ニ之ヲ相符極成ノ例トナセリ余更ニ一例ヲ擧メカ人アリ

太陽曆八月は温度最も高き時節なるへし
ト云カ如キ是ナリ斯ノ如キ命題ハ既ニ彼此同許ノヲナレハ宗トシ彼此相許フヘキ事柄ニハアラサルナリ相許フヘキ事柄ニアラサルヲ妄リニ陳テ宗トナスモノハ亦過誤トイハサルヲ得ス故ニ之ヲ相符極成ノ過トナセリ

因明學理論

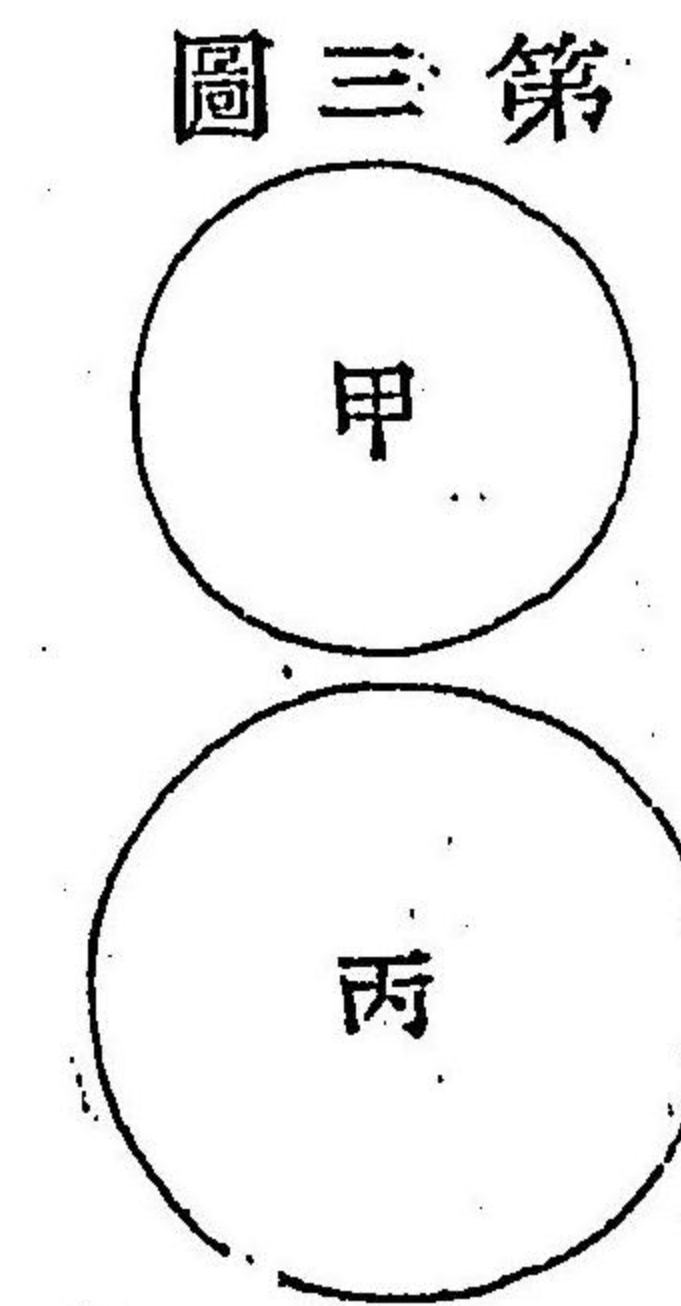
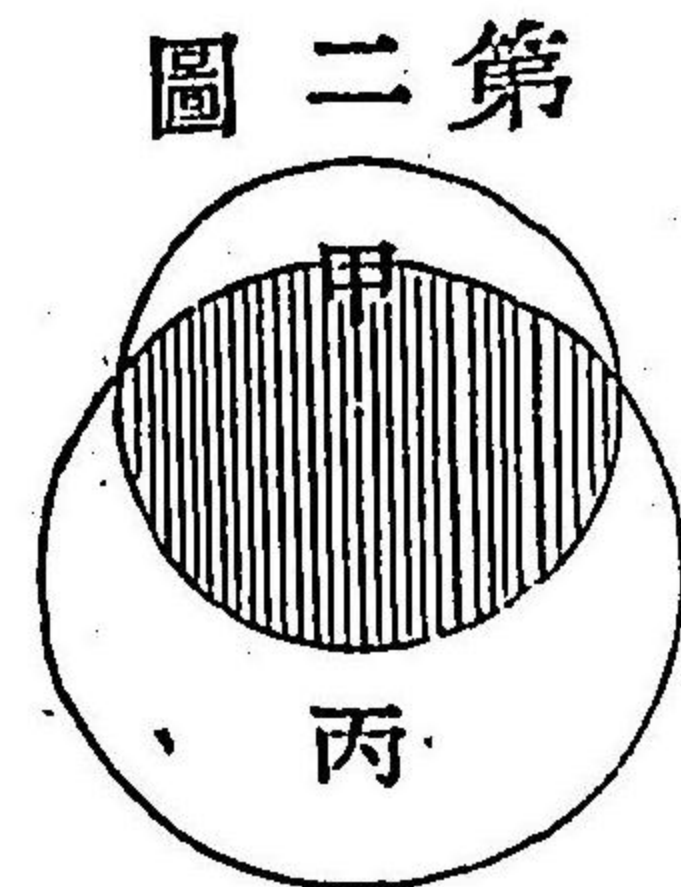
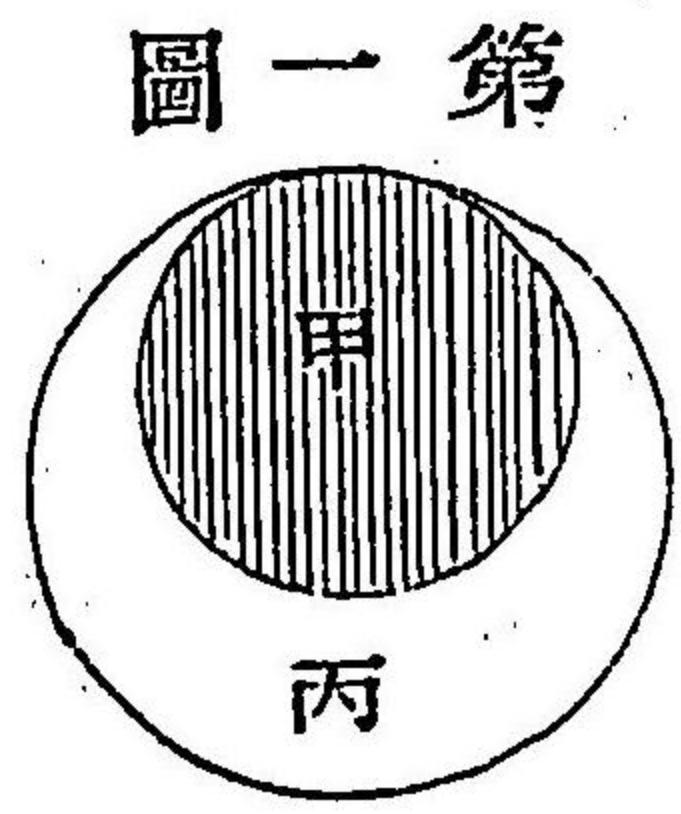
第三章 因過ノ辨明 第十二節 四不成ノ總論

陳那已來因ニ就ク過誤ハ十四種アリト定メタリ而シテ其十四種ヲ三等ニ分チ初メ四種ヲ不成ノ過ト名ケ次ノ六種ヲ不定ノ過ト名ケ後ノ四種ヲ相違ノ過ト名ケタリ之ニ由テ古今四不成六不定四相違是レ因ノ

似能立

十四過ナリト傳ヘ來ル然リ而シテ之ヲ缺過ニ對照スルトキハ因ノ三相中第一相ヲ缺タル缺過ナレハ支過ノ方ヲハ不成ノ過ト成リ又因ノ三相中第二第三孰レカ其一ヲ缺タル缺過ナレハ支過ノ方ヲハ不定ノ過ト成リ又因ノ三相中第二第三共ニ缺タル缺過ナレハ支過ノ方ヲハ相違ノ過ト成ルト云フハ一定セリ
其初メ四種ノ過ヲ不成ト名ケル意ハ第二段ノ語ニシテ若シ第一相ヲ缺乏センカ然ラハ宗ヲ成立スル力ナキト共ニ又元來因ト云名稱ヲ附與スヘキ意義ヲモ成就セサルカ故ニ之ヲ名テ不成ノ過トナス余先キニ陳ル如ク因ノ因ハ甲其者ニ通通スル事件ナラサルヘカラスト云ハ因ヲ説クノ規則ナリ然ルニ立者ノ論法ヲ見ルニ第一段ノ宗ニ次キ第二段ニ因トナルヘキ語ハアントモ其因ニ陳ヘタル事件ヲ宗ニ望メテ吟味スルトコロ別宗中ノ前陳即チ甲ノ中ニ一向無關係ナルカ或ハ關係

シテモ一部分ニ止リテ全部分ニハ周布セサルカノ兩方ナレハ即チ之ヲ不成ノ過アル偽因ナリトス何トナレハ斯ノ如キ甲ニ無關係ナルモノハ元來因トスヘキ事件ニアラス因トスヘキ事件ニアラサルカ故ニ甲其者ヲ論斷シ乙トスルコトモ亦非乙トスルコトモ能ハサレハ也請フ圖ヲ設テ之ヲ説明セン



凡ソ第二段ニ陳ル因ヲ第一段總宗ノ中ナル前陳其者ニ望メテ見レハ此三圖ノ外ニハ出サルモノナリ圖ニ甲ト記ス部分ヲ宗ノ前陳ト視ナシ丙ト記ス部分ヲ因ト視ナシ而シテ暗色ハ其關係ヲ表スルモノト視ナ

シ白色ハ其無關係ヲ表スルモノト視ナシテ考ルニ第一圖ノ如ク丙ノ因ガ甲ノ全部分ニ普遍ナルモノト又第二圖ノ如ク丙ノ因ガ甲ノ一部分ニ關係シテ一部分ニハ關係セサルモノト又第三圖ノ如ク丙ノ因ガ甲ニ一點ノ關係モナキモノトノ三類アルコトナル中ニ於テ第一圖ニ相當スルモノ、ミハ不成ノ過アルコトナシ第二圖ニ相當スルモノニハ一分ノ不成ノ過アリ第三圖ニ相當スルモノニハ全分ノ不成ノ過アリトス而シテ其一分ト全分トニ復テ四類ノ別アリ之ヲ名テ四不成ト云フ又次キ六種ノ過ヲ不定ト名クル意ハ凡ソ第二段ノ語ニノ宗ヲハ乙ト決スルト共ニ亦非乙トモ決スルコトヲ得ルモノアリ之ヲ名テ不定ノ過トス余先キニ云如ク因ハ宗ト同喩ノ媒介者ナルカ故ニ多少宗同品ノ方ニ關係ヲ有スル事柄ナラサル可ラス同喩ノ方ニハ多少關係ナカルヘカラサルト共ニ宗異品ノ方ニハ一點ノ關係モナカラントテ要スル

モノナリ兩方孰レテ缺テモ宗ヲシテ乙ナリ或ハ非乙ナリト一方ニ確定スルヲ能ハス故ニ之ヲ不定ノ過アル偽因ナリトス而シテ此不定ノ過アル偽因ヲ分類スルニ六種アルカユエ之ヲ名テ六不定ト云フ(此モ前ノ如ク圖ヲ設ケテ説明スヘキナレトモ其ハ次ノ別解ノ處ニ讓ル)

又後四種ノ過ヲ相違ノ過ト名クル意ハ凡ソ第二段ノ語ニモ宗ヲ乙ト決セントスル時ナレハ反ノ非乙ナリト決スルヲ得ヘク又宗ヲ非乙ト決セントスル時ナレハ反ノ乙ナリト決スルヲ得ヘキモノ之ヲ名テ相違因ノ過トス夫レ第二段ノ因ハ第一段ニ陳ヘタル宗ヲ其儘確立セシメテ目的トスルモノナリ然ルニ因ニシテ若シ必ス多少ノ關係ヲ要スヘキ同品ノ方ニハ少シモ關係ナク却テ無關係ヲ要スヘキ異品ノ方ニ多少ノ關係アルトキハ其因ハ本ト立セント欲スル總宗ヲ立シ得ス反テ相違ノ宗ヲ立スルヲ得ナル故ニ之ヲ相違ノ過アル偽因ナリト

ス而シテ此相違ノ過アル偽因ヲ分類スルニ四種アルカユエ之ヲ名ケテ四相違ト云フ(此モ前ノ如ク圖ヲ設ケテ説明スヘキナレトモ次別解ノ處ニ讓ル)

第十三節 兩俱不成ノ過失

四不成ノ中第一ノ過失ヲ兩俱不成ト名ク兩俱不成トハ立者ノ方ニテ論スルモ宗ヲ成立スルヲ得ス敵者ノ方ニテ論スルモ宗ヲ成立スルヲ得サル偽因ニ名ケタモノナリ余先ニ云如ク丙ノ因ハ其性質立敵俱ニ甲ノ中ニ周布セリト云フテ曾テ承諾シ居ル事件ナラサルヘカラスト云テ規則トス然ルニ第二段ニ陳フル丙ノ因ハ第一段ノ前陳甲ノ中ニ周布セリト云フテ立敵俱ニ許容シ得サル事件ナリトセンカ然ラハ兩俱不成ノ過アル偽因ト云モノナリ入正理論ニ其例ヲ出シ聲は無常なるヘシトノ宗ニ眼所見性なるが故にト云カ如シトイヘリ余更ニ

一例ヲ舉ンカ

宗 人は萬物の靈長なるへし

因 能く空中を翔るが故に

ト云カ如キハ誰ニ對シテ説クモ全分ノ兩俱不成ナルモノナリ(此ハ前節ニ出セル第三ノ圖ニ當ルヘキ例ナリ)又人アリテ

宗 日本人は皆佛教徒なるへし

因 佛法僧の三寶を恭敬するが故に

ト云カ如キハ一分ノ兩俱不成ト云モノナリ何トナレハ宗ノ前名辭日本入ト云中ニテ其一部分ハ三寶ヲ恭敬シ其一部分ハ三寶ヲ恭敬セサルカ故ナリ(此ハ前節ニ出セシ第二圖ニ當ルヘキ例ナリ)

人或ハイハ一分ノ兩俱不成ハ隨分アルヘキ因ナントモ全分ノ兩俱不成ノ如キハアルヘキモノニアラスト余答テ云ク然リ百中ニ一モア

論理學明因

似能立

ルヘキモノニアラスアルヘキモノニアラサレトモ既ニ丙ノ因ハ甲ノ中ニ周布スヘキヲ規則トシ見レハ之ヲ過誤ノ中ニ數ヘ置キ萬ニ一モ斯様ナ因ヲ陳ルモノアルトキハ之ヲ過失トシテ遮スヘキ規則ヲ設ケ置カサルヘカラス故ニ之ヲ過誤ノ最モ甚シキモノトシ第一ノ數ニ加ヘタリ(大疏ニハ全分ト一分ニ有躰ト無躰トテ分テ都合四種ノ兩俱不成アルトトセリ)

第十四節 隨一不成ノ過失

四不成ノ中第二ノ過失ヲ隨一不成ト名ク隨一不成トハ立敵二者ニ於テ孰レカ一方ニアリテハ宗ヲ成立スルヲ能ハサル偽因ニ名ケタモノ也換言スレハ立者ノ一方ニ限リ丙ノ因ハ甲ノ中ニ周布セリト許サ、ル乎或ハ敵者ノ一方ニ限リ丙ノ因ハ甲ノ中ニ周布セリト許サ、ル乎ノ二類ヲ隨一不成ノ過ナリトス中ニ於テ前者ヲ自隨一不成ト名ク後

論理學明因

者ヲ他隨一不成ト名ク入正理論ニ其例ヲ出ノ勝論學派ノ徒アリ聲顯派ノ徒ニ對シ聲は無常あるヘシ宗所作性なるガ故に因ト説クカ如シトイヘリ聲生派ハ聲は所作性なりト許セトモ聲顯派ハ聲ハ本有ナリ所作性ナル新生物ニハアラストナスカ故ニ此因ニハ他隨一不成ノ過アリト云意ナリ余更ニ一例ヲ舉ンカ佛教徒アリテ耶蘇教徒ニ對シ

宗 惡人は未來苦境に呻吟すヘシ

因 神の嚴罰を被るガ故に

ト説クカ如キハ即チ自隨一不成ノ過ナルモノナリ又耶蘇教徒アリテ佛教徒ニ對シ斯ノ如ク陳ルトキハ此因ガ轉ノ他隨一不成ノ過トナル何トナレハ善人ハ神之ヲ賞メ未來快樂ヲ享受セシメ惡人ハ神之ヲ罰メ未來苦痛ヲ感セシムト云フハ唯耶蘇教徒ノ許ス事ニシテ佛教徒ノ許ス事ニハアラサルカ故ナリ大疏ニハ自隨一ト他隨一ニ各々有牒ト

立能似

無牒ヲ分テ其有牒無牒ニ各々全分ト一分トヲ分ケテ都合八種ノ隨一不成アルトトセリ往テ見ヨ凡ソ因ノ過誤多キ中ニ於テ論者ノ特ニ注意スヘキハ此隨一不成ノ過ニアリ吾人ノ平素論スルトコロヲ見ルニ其多數ハ因ニ他隨一不成ノ過アルカ爲メ其論ヤ立シ得サルナリ見ヨ耶蘇教ノ徒ハ動モスルト佛法は野蠻教なり宗偶像教あるガ故に因トイハントスルヲ又之ヲ思ヘ佛教徒ハ動モスルト耶蘇は國家の罪人なり宗十字架に處せらるゝガ故に因トイハントスルヲ總テ斯ノ如キハ皆他隨一不成ノ過アル因ナリ他隨一不成ノ過アル因ナルカ故ニ是等ノ攻撃ハ徒ラニ辨論ヲ戰ハスノミ敵手ノ方ニ背ハサル因ヲ用ユルカ故ニ其攻撃ハ徒勞ニ屬シ其結果ヲ見ルヲ能ハサルナリ然レトモ凡ソ隨一不成ノ過ナルモノハ共比量ヲ止メテ自比量或ハ他

論理學明因

比量トスレハ其過ヲ避ルヲ得ルナリ例ヘハ今擧タル因ニツキ他隨
 一不成ノ過ヲ避ントスルニハ我許ノ言ヲ加フヘシ自隨一不成ノ過ヲ
 避ントスルニハ汝許ノ語ヲ冠ラシムヘシ然ルトキハ隨一不成ト云過
 名ハ免ル、トナル但シ隨一不成ノ過名ハ免レテモ能破ノ論法ニ自
 比量ノ因ヲ用ルカ如キ又他比量ノ宗ニ自比量ノ因ヲ用ユルカ如キハ
 悟他ノ結果ヲ見ルヲ難キナリ悟他ノ結果ヲ見ルヲ難ケンハ因明ノ法
 則トシ眞正ノ論法トスルヲ能ハサルナリ之ニ由テ凡ソ論法ヲ組織セ
 ノトスルニハ成ルヘク共許ノ因カ亦ハ他許ノ因ヲ應用セソトニ注意
 スヘキナリ

第十五節 猶豫不成ノ過失

四不成ノ中第三ノ過失ヲ猶豫不成ト名ク猶豫不成ト云ハ猶豫ハ疑惑
 ナ意味ス凡ソ陳ルトコロノ因ハ宗ノ前陳中ニ確乎トシ普遍ナリト云

立能似

トテ未タ見留メサルコトアリトセシカ然ラハ猶豫不成ノ過アル偽因ナ
 リトス夫レ因ノ職分ハ宗ヲ決斷スルニアリ然ルニ因其者尙以テ猶豫
 未定ノ位ニ居ス因尙未定ナラハ豈奚ソ宗ヲ決斷スルノ職分ヲ盡ス
 ヘケンヤ故ニ甲ノ中ニ普遍ナルカ或ハ然ラサルカ未タ決定セサル猶
 豫不定ノ事件ヲ取テ丙ノ因トスルモノヲ總テ猶豫不成ノ過トナセリ
 入正理論ニ其例ヲ出シ人アリ遙カニ雲乎霧乎煙乎塵乎何歟ハ知ラテ
 トモ漠然トシ空中ニ上昇スルモノアリ夫ヲ見テ自身ニモ未タ何者ナ
 リト云フテ慥カニ見定メサルニ説ヲナシテ彼の處には火事あるヘシ
 (宗)烟現するが故に(因)ト云フアルカ如シトイヘリ余更ニ一例ヲ擧シカ
 茲ニ人アリ某甲ノ經歷上モ慥カニ調べス且ツ其人ノ著書講義等ヲ詳
 カニ見聞シタルニモアラスシテ大早計ニ出テ

宗 某甲は學者あるヘシ

因 教育經驗に富めるか故に

ト云カ如キ是ナリ立者自身ニ於テ甲某ハ儘カニ教育ニ富ミ經驗モ積ル人ナルカ如何ヲ未タ確カニ見留メサルカ故ニ此因ハ猶豫ノ疑因トイハサルヘカラス

要スルニ凡ソ丙ノ因ハ甲ノ中ニ遍通スト云フヲ儘ニ見留メサルトキハ丙ハ甲ノ一屬性ナリト云フ尙未タ確カナラス丙尙以テ甲ノ屬性ナリト云フ確定セサレハ丙アレハ必ス乙アリト断定スルヲ萬能ハサルモノナリト云フ原則トシテ一種ノ過ニ數ヘタルモノナリ(大疏ニハ此ニ立敵兩俱ノ猶豫ト自隨一ノ猶豫ト他隨一ノ猶豫トノ三類アリトシ其三類ニ各々全分一分ヲ分テ遂ニ六種ノ猶豫不成アルトナセリ)

第十六節 所依不成ノ過失

四不成ノ中第四ノ過失ヲ所依不成ト名ク所依不成ト云ハ所依ハ別宗

似

能

立

中ノ前陳ヲ指ス丙ノ因ハ甲ノ屬性ナルヲ規則トスルカ故ニ因ヲ能依トスレハ前陳ノ甲某ヲ呼テ所依トイフ而ノ其所依即チ別宗中ノ前陳ヲ立者ニ於テ許サ、ル者トセシカ然ラハ其因ハ立者ノ方ニテ所依不成ノ過アルモノトス又別宗中ノ前陳ヲ立敵俱ニ許サ、ルモノトセシカ然ラハ立敵ノ兩方ニ於テ所依不成ノ過アルモノトス要スルニ第一、段ハ宗ニ所別不極成ハ過アレハ隨テ第二段ハ因ニハ所依不成ハ過アルモノトスルニアリ、其意ハ物躰アリテ後屬性アルモノナリ物躰ノナキニ屬性ノアルヘキ筈ナキカ如ク甲其者ノ存在ヲ許サ、レハ丙ノ有無ヲ論スヘキ筈ナシ既ニ丙ノ有無ヲ論スヘキ様モナシトスレハ亦丙ノ故ニ乙ナリトノ断定ヲ下スヘキ様モナシト云フ原則トシテ一種ノ過ニ數ヘタルモノナリ

入正理論ニ其例ヲ出メ虚空ノ存在ヲ許ス勝論學派ノ徒ヨリ虚空ノ存在ヲ許サ、ル經部宗ノ徒ニ對シテ虚空は實有なるヘシ(宗)德所依なるが故に(因)ト説クカ如シトイヘリ余更ニ一例ヲ舉ノカ耶蘇教ノ徒ヨリ佛教徒ニ對シ

(宗) 造物主は畏敬すヘシ

(因) 恒に吾人を照鑒するが故に

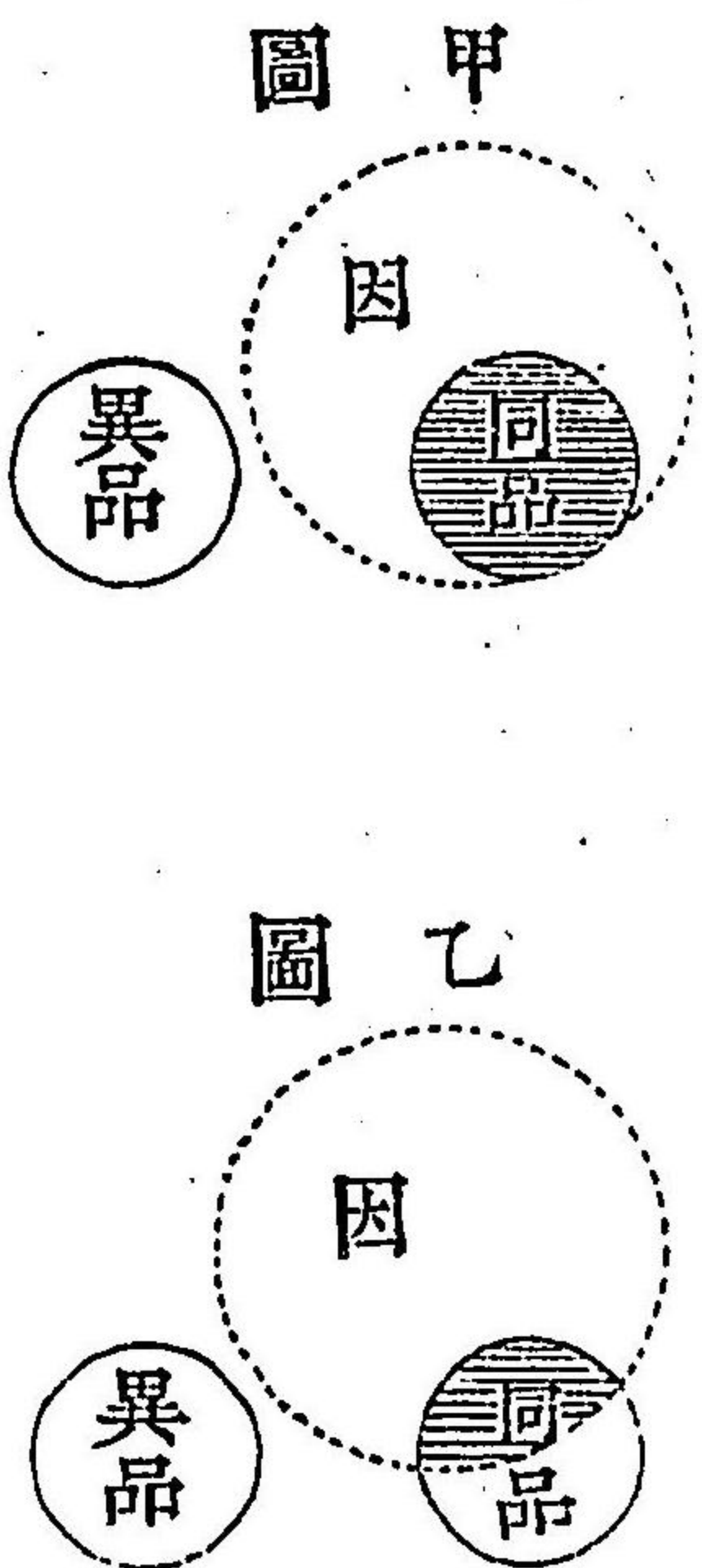
ト云カ如キハ即チ宗ニ他所別不極成ノ過アルト共ニ因ニ他所依不成ノ過アリトイハサルヘカラス(大疏ニハ此ニモ兩俱ト隨一トヲ分ク其ニ有跡無跡全分一分ヲ分テ都合九種ノ所依不成アルトセリ) 已上第二段ノ因ヲ第一段ノ宗ニ望メテ遍是宗法性ノ一義ヲ缺乏スルモノハ大ニ分類スレハ四個ノ過失トナル兩俱不成ニ六種ノ區別アリ隨一不成ニ八種ノ區別アリ猶豫不成ニ六種ノ區別

アリ所依不成ニ九種ノ區別アリ故ニ細カニ分類スレハ合計二十七種ノ過數ト成レリ學者之ヲ詳カニセント欲セハ大疏四紙八瑞源記五紙六已下ヲ披ケ

第十七節 六不定ノ總論

因ニ十四過アル中前ノ四不成ハ因ノ第一相ヲ缺乏スル過失ナリ是ヨリ講セントスル六不定ハ因ノ第二相第三相孰レカ其一ヲ缺乏スル過失ナリ因ノ後二相中孰レカ其一ヲ缺タルモノニ不定ト云過名ヲ與ヘタル所以ハ抑モ第二段ノ因ハ第三段ノ同喩ト第一段ノ宗トチ一致ニ和合スル爲ノ媒介者ナリ故ニ其同品ノ方ニハ必ス多少ノ關係ヲカルヘカラス同品ノ方ニハ多少ノ關係ヲ要スルト共ニ其異品ノ方ニハ一異品ノ關係モナカラシトチ要ス然ルニ其異品ノ方ニ無關係ナルト共ニ亦同品ノ方ニモ無關係ナル因(第二相缺)並ニ其同品ノ方ニ關係スルト

共ニ亦異品ノ方ニモ關係アル因(第三相缺)ハ宗ヲシテ或ハ乙ト極メ
トスレハ亦非乙ナリト見ルヲ得或ハ非乙ナリト云ハントスレハ亦
乙ナリト見ルヲ得ル故ニ不定ノ名ヲ命シタルモノナリ請フ圖ヲ設
ケテ之ヲ説明センカ先ツ因ノ後ニ相ヲ完全シタルモノヲ圖ニ表セハ
左ノ如シ



此甲乙二圖ハ九句因ノ第二ト第八トヲ表シタモノナリ凡ソ真正ナル
第二段ノ因ハ第三段ノ同喻異喻ニ望ルニ必ス此二圖孰レカニ相當ス

ルモノナリ故ニ讀者ハ此二圖ニ就テ正ノ正ナル趣キヲ心得テ後ニ不
正ノ不正ナル趣キヲ知レ余カ是ヨリ講述スル六不定四相違ト云ハ皆
此圖ニ應セサルモノナリ故ニ下モ六不定四相違ニ出ス圖ハ皆此二圖
ニ對照シテ其正否ヲ判斷スヘキナリ
然レトモ六不定凡テ此二圖ニ應セサルニアラス換言スレハ六不定ハ
皆悉ク因ノ後ニ相ニ缺乏アル過ナリト云ニアラス即チ相違決定ノ如
キハ三相完全スレトモ尙之ヲ過誤トシ不定ノ中ニ入レタリ故ニ六不
定中第六ヲ除キテ餘ハ因ノ後ニ相ニ缺乏アル過ニシテ此二圖ニ相當セ
サルモノト思ヘ

第十八節 共不定ノ過失

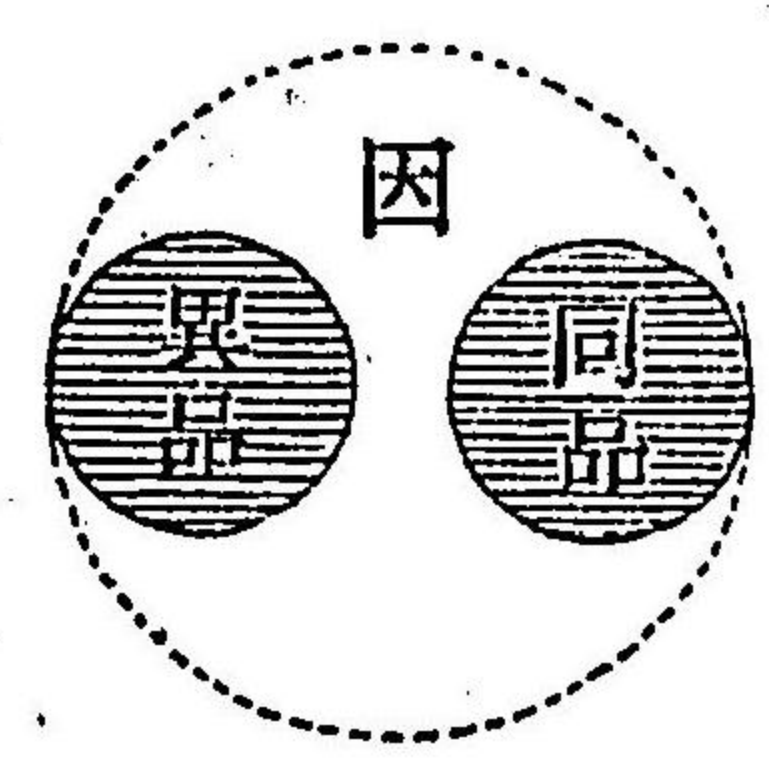
六不定ノ中第一ノ過失ヲ共不定ト名ク共不定ト云ハ第二段ノ因ガ寬
廣ニ過キテ第三段中同品異品ノ全部ニ遍通スルモノ是ナリ丙ノ因カ

乙ノ宗同品ト非乙ノ宗異品ト兩方共ニ關係シ而モ其全部ニ遍通スルニ由テ甲ヲ乙ト定メルヲ能ハサルト共ニ亦非乙ト定メルヲモ能ハサル不定ノ結果ヲ招クカニエ之ヲ共不定ト名ク入正理論ニ其例ヲ出シ聲論學派ヨリ佛教徒ニ對シ聲は常なるヘシ(宗)心々所に量度せらるゝか故に(因)ト陳ルカ如シトイヘリ凡ソ天地萬有ハ常住ト無常ノ區別ナク凡テ吾人ノ心ニ量度セラル、モノナリ故ニ此ヲ共不定ノ例トナセリ余更ニ一例ヲ舉ンカ耶蘇教ノ徒アリテ

(宗) 造物主は實在すヘシ
(因) 吾人意識の面に影現するか故に

トイハソカ然ラハ天ニアリテハ日月星辰地ニアリテハ動物植物等凡テノ實在物ハ皆同品ト成リ又過去百般ノ現象未來萬般ノ出來事ノ如キ今現ニ實在セサルモノハ皆異品ト成ル而ノ同品異品共ニ吾人意識

ノ面ニ影現スト云點ハ一致ナリ故ニ斯ノ如キ寬漫周到ノ因ハ總テ共不定ノ過アル僞因ナリトス之ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



圖ノ如ク因カ宗ノ同品ト異品ノ全部ニ遍通スルヲ共不定ノ過トス而シテ此共不定ハ九句因ノ中テハ第一句ニ當リ(第二篇足目ノ因明論ヲ見ヨ)因ノ三相中テハ唯三相ヲ缺乏セル過ニシテ第二相ヲ缺ケタル過ニハアラサルナリ何トナレハ因ガ同品ニ關係スルニ就テ有過トナルニアラス唯異品ニ關係スル方ニテ有過トナルカ故ナリ

然リ而ノ斯ノ如キ不定ノ過アル僞因ヲ陳ヘタ時ニハ夫ヲ攻撃スル法式アリ語ヲ換レハ不定ノ過誤ヲ公言シテ立者ヲ攻ル規則アリ名ケテ不定ノ作法トイフ不定ノ過誤ヲ顯ナリハ其作法ハ

動物植物等の如く吾人意識の面に影現するが故に汝が造物主は實在ある乎又過去未來の現象の如く吾人意識の面に影現するが故に汝が造物主は實在にあらざとせん乎

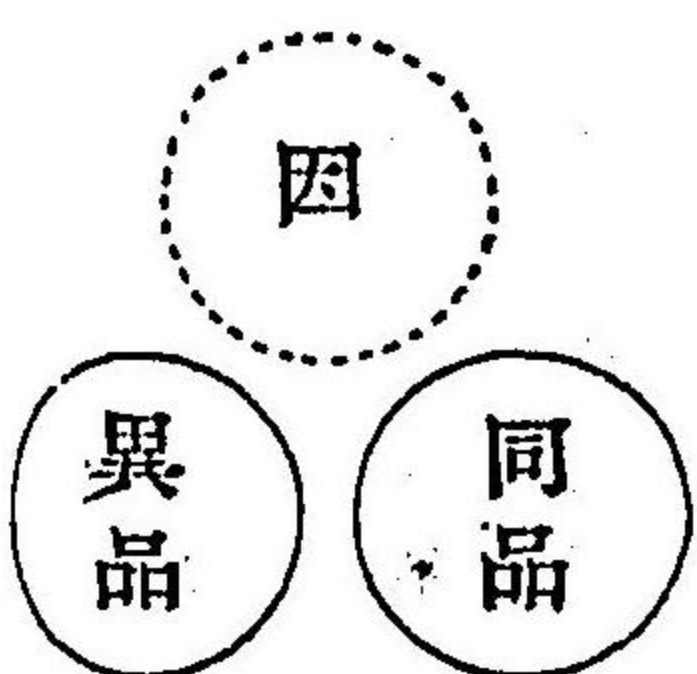
ト云ニアリ之ヲ不定ノ過失ヲ附ル法則トス(下ノ四過之ニ准シ知レ)其意ハ汝ノ因ハ若シ同品ノ關係ヨリ見レハ汝ノ説ノ如キ宗ノ義ヲ立スレモ若シ異品ノ關係ヨリ見レハ汝ノ説ニ反對セル點ヲモ立スルトトナル然ラハ汝ノ論法ハ一定ノ斷決ヲ見ルト能ハス既ニ一定ノ斷決ヲ見ルト能ハサル者豈奚ソノ真正ノ論斷トナスヘケンヤト責ルニアリ

第十九節 不共不定ノ過失

六不定ノ中第二ノ過失ヲ不共不定ト名ク前ノ共不定ハ因ノ寛大ニ過キタル失ナリ今ノ不共不定ト云ハ因ノ狭小ニ過キタル失ナリ余屢々云如ク因ハ媒介者ナルカ故ニ宗ト同品トノ兩方ニ關係スヘキヲ規則トス然ルニ第二段ノ因狭小ニ第一段宗ノ方ニハ關係アルモ第三段喻ノ方ニハ其異品ニ無關係ナルト共ニ亦同品ニ無關係ナルヲ名ケテ不共ト云若シ因ニ宗ノ同品異品共ニ關係ナキトキハ其宗ヲ乙トモ乙トモ一方ニ片付ルト能ハス故ニ之ヲ不共不定ト名ク入正理論ニ其例ヲ出シ聲は常住なるヘシ(宗)所聞性あるが故に(因)ト説クカ如シトイヘリ凡ソ萬有中ニ聲ヲ除キテハ所聞性ナルモノアルトナキカ故ニ如何ナル同品ニモ又如何ナル異品ニモ此因ノ關係スヘキ様ナシ故ニ之ヲ不共不定ノ例トナセリ余更ニ一例ヲ擧ンカ茲ニ耶蘇教徒アリテ宗 神は敬愛すヘシ

因 萬物能造の主なるが故に

トイハソカ然ラハ主君父母ノ如キハ同品ト成リ惡獸毒蟲ノ如キハ異品ト成ル而シテ萬物ヲ能造セリト許スモノハ假令宇宙ノ内外ヲ尋ルモ彼レ洋教徒ノ信奉スル獨一眞神ヨリ外ニアルコトナキナリ此ニ由テ萬物能造ハ主ト云ヘル因ハ唯彼レノ云フ神一個ヲ説明スルニ限ル語ニシテ宇宙ノ内外ヨリ如何ナル物ヲ取リ來ルモ此因ノ通スヘキモノアルコトナシ故ニ彼レ若シ斯ノ如キ因ヲ陳レハ即チ不共不定ノ過ヲ招クト云モノナリ之ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



圖ノ如ク因ヲ喩ニ望ムルニ同品ノ方ニモ異品ノ方ニモ一點ノ關係ナキモノ之ヲ不共不定ノ過トス即チ九句因ノ中テハ第五句ニ當リ三相缺減ノ中テハ第二相ヲ缺タル過ナルモノナリ何トナレハ此ハ異品ニ無關係ナル點ニ付テ過トナルニアラス同品ニ無關係ナル點ニ付テ過トナルカ故ナリ

第二十節 同分異全不定ノ過失

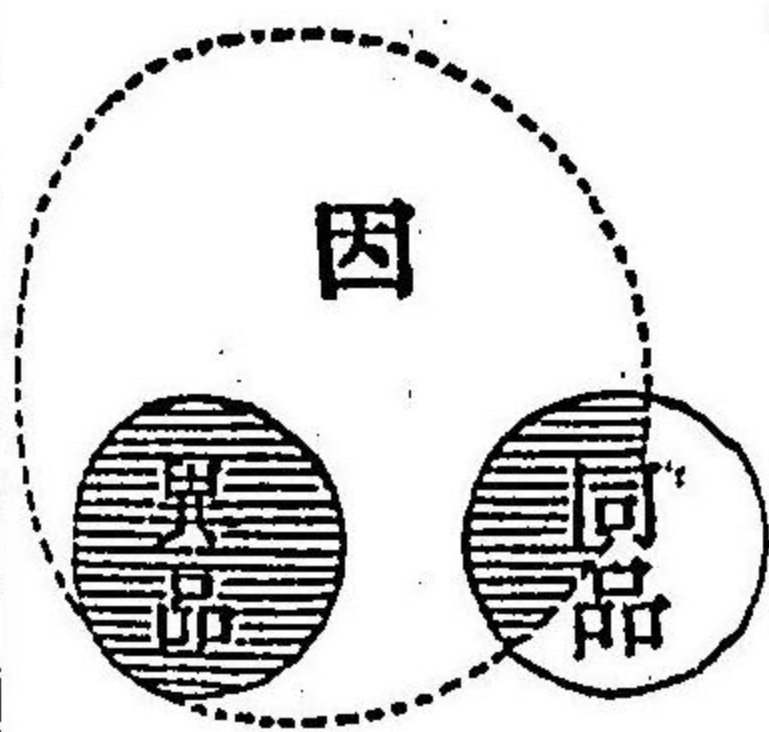
六不定ノ中第三ノ過失ヲ同分異全不定ト名ク具サニハ同品一分轉分異全ト云ハ第二段ノ因ヲ以テ第三段ノ喩ニ望ルニ其同品ノ方ハ一部分ニ關係シテ(一部分ニハ關係セス)其異品ノ方ハ全部分ニ關係スルヲ同分異全ト云フ既ニ異品ノ方ニ關係アル因ナルカ故ニ亦タ宗チ一方ニ斷決スルコト能ハス故ニ不定ノ過アル偽因トナセリ入正理論ニ其例ヲ出シ聲生派ヨリ聲顯派ニ對シテ聲は勤勇無間の所發に非るヘシ

(宗)無常性なるが故に(因)ト説クカ如シトイヘリ(此論法ハ九句因ノ中第七句ニテ説明スルカ如シ)余更ニ一例ヲ舉ンカ茲ニ人アリ

宗 或る人は女子なるへし

因 子を産まざるか故に

ト云カ如キ即チ或ル女子ヲ除キテ外ノ女子ハ皆同品トナリ凡テノ男子ハ異品トナル而シテ子を産まズト云因ハ女子中ノ一部分ニ關係シ(一部分ノ子ヲ已ニ産メル女ニハ關係セス)且ツ凡テノ男子ニ關係セリ故ニ此ハ同分異全ノ過アル偽因トスヘキナリ之ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



圖ノ如ク因ヲ喩ニ望ルニ同品ノ方ハ其一部分ニ關係ヲ有シ異品ノ方ハ其全部分ニ關係ヲ有スルモノ之ヲ同分異全不定ノ過トス即チ九句因ノ中テハ第七句ニ當リ三相缺減ノ中テハ第三相ヲ缺タル過ナリ何トナレハ唯第二相ヲ缺タル一點ニ依テ此過失トナルカ故ナリ

第二十一節 異分同全不定ノ過失

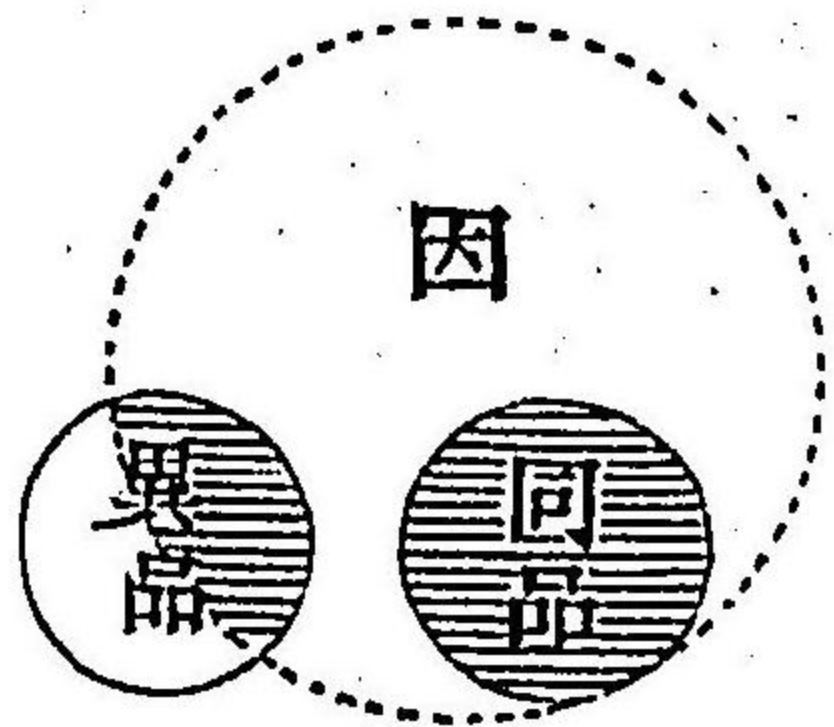
六不定ノ中第四ノ過失ヲ異分同全不定ト名ク具サニハ異品一分轉異分同全ト云ハ第二段ノ因ヲ第三段ノ喩ニ望ルニ其異品ノ方ハ一部ニ關係シ其同品ノ方ハ全部分ニ關係スト云テ意味ス既ニ同品ノ外ナル異品ニ迄關係スル因ナルカ故ニ前ト等シク宗ヲ一方ニ決斷スルト能ハサレハ之ヲ不定ノ過アル偽因ナリトス入正理論ニ其例ヲ出シ聲顯派ヨリ聲生派ニ對シテ聲は勤勇無間の所發なるへし(宗)無常性なるが故に(因)ト説クカ如シトイヘリ(此論法ハ九句因ノ中第三句ニテ説明ス

ルカ如シ余更ニ一例ヲ舉フカ茲ニ人アリ

(宗) 或る人は男子なるべし

(因) 子を産まざるが故に

ト云カ如キ凡テノ男子ハ同品ニシテ凡テノ女子ハ異品ト成ル而シテ子を産まザト云因ハ同品ノ全部ニ關係スト云ヘク亦異品ノ一部分ニ關係スト云ヘシ何トナレハ女子ニシテ子を産マサル者アルカ故ナリ斯ノ如キ因ヲ異分同全不定ノ過アル因トス之ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



圖ノ如ク因ヲ喻ニ望ムルニ同品ノ方ハ全部分ニ關係ヲ有シ異品ノ方ハ一部分ニ限リ關係ヲ有スル者ナレハ皆同分異全不定ノ名ヲ得ル偽因ナリトス即チ九句因ノ中テハ第三句ニ當リ三相缺減ノ中テハ第三相ヲ缺タル過ナリ何トナレハ異品ニ關係スルノ一點ニ付テ過ト成ルカ故ナリ

第廿二節 俱分不定ノ過失

六不定ノ中第五ノ過失ヲ俱分不定ト名ク分具サニハ俱品一俱分ト云ハ第二段ノ因ヲ第三段ノ喻ニ望ルニ同品ノ方モ異品ノ方モ俱ニ一部分ニ限リ關係アリテ一部分ニハ關係ナシト云テ意味ス假令一部分ナリト既ニ兩方ニ關係スルカ故ニ前例ノ如ク宗ヲ一方ニ決斷スルヲ能ハス故ニ之ヲ不定ノ過アル偽因トナセリ入正理論ニ其例ヲ出シ聲論學

立能似

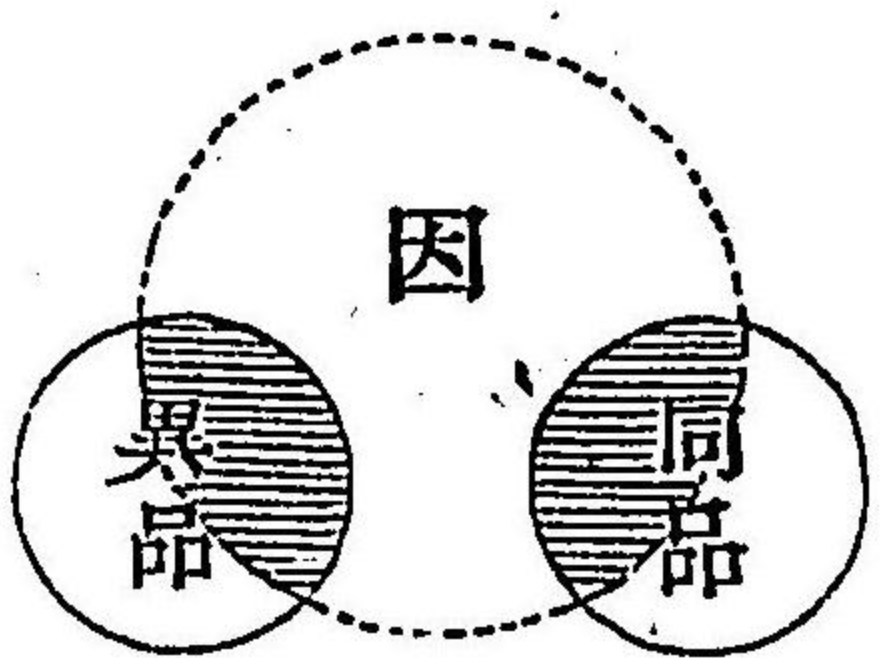
派ヨリ勝論學派ニ對シテ聲は常住あるへし(宗)無質碍なるが故に(因)ト
説クカ如シトイヘリ(此論法ヲ説明スルコトハ九句因ノ中第九句ニテ説
明スルカ如シ)余更ニ一例ヲ舉ンカ茲ニ人アリ或ル學校教員ヲ指シテ

(宗) 或る人は男子なるへし

(因) 教員を勤務するが故に

ト云カ如キ凡テノ男子ハ同品ト成リ凡テノ女子ハ異品ト成ル而シテ教
員を勤務すトイヘル因ハ男子ト女子トノ兩方俱ニ其一部分ニ限リ關
係ヲ有シ他ノ部分ニハ關係セス故ニ之ヲ俱分不定ノ過アル因ト云ヘ
キナリ凡ソ男子ナル者ハ皆教員ヲ務ムルニアラス又女子ナル者ハ皆
教員ヲ務メサルニアラス故ニ此ノ如キ因ハ同品異品俱ニ一部分ノ關
係アルカ爲メ不定ノ過ヲ招クコトナル請フ之ヲ圖ニ表セン

第廿三節 相違決定ノ過失



圖ノ意味ハ前ニ准シ知ルヘシ此ハ九句因ノ中テハ第九句ニ當リ三相
缺減ノ中テハ第三相ヲ缺タル過ナリ何トナレハ異品ノ一部分ニ關係
アル一點ニテ過誤トナレハ也
已上五種不定ノ過アル中ニテ因ノ第二相ヲ缺タルカ爲メ過誤トナ
ルモノハ唯不共不定ノ一過ノミ餘ノ四過ハ皆第三相ヲ缺タルニ由
テ過説トナルモノ也

六不定ノ中第六ノ過ヲ相違決定ト名ク相違決定ト云ハ立敵二者ノ中ニテ立者ノ方ハ甲を乙ありト決定シテ動カサレハ敵者ノ方ハ甲を非乙なりト決定シテ動カズト云様ニ雙方互ニ相違シタル宗ヲハ各自ニ確乎不拔ノ論法ヲ組織シテ對立セルモノ是ナリ換言スレハ雙方睨ミ合ヒノ立論トナリテ孰レガ勝ヲ得タルニアラス又孰レガ負ケタルニモアラサルヲ相違決定ト云但シ其結局ハ俱打ノ同士負ナルモノトスルガ因明ノ法則トナレリ

此ニ由テ先ツ相違決定ハ餘ノ過誤ニ殊ナルコト二件アリト云コトヲ心得ヘシ一ニ相違決定ハ立者ト敵者ト兩方各自ニ一個ノ論法ヲ組織セルヲ法則トスルコト二ニ相違決定ハ立者ノ論法ヲ見ルモ又敵者ノ論法ヲ見ルモ雙方俱ニ能立ノ因ハ三相完全シテ其缺典ナキコト是ナリ此二件ヲ具ヘタルモノハ三十三過ノ中ニ相違決定ヲ除テ外ニアルコトナ

キ也

先ツ立者ノ方ニ於テ完全無缺ノ論法ヲ組織シテ甲ヲ論シ甲は乙なりト云コトヲ主張スルコトアリトセンカ敵者ハ必ス此ニ反對ノ意見ヲ懷クモノナリ敵者此ニ反對ノ意見ヲ懷クト雖モ立者ノ論法既ニ無過ナレハ之ヲ論破セントスルモ破スルコト能ハサルナリ此ニ由テ敵者ハ立者ノ論法ヲ破壊スルコトハ止メニシテ敵者ハ立者ノ論法ノ外別ニ完全無缺ノ論法ヲ組織シ立者ニ反對シテ甲ヲ論シ甲は非乙なりト云コトヲ確立ス爰ニ宗ヲ見レハ立敵反對ノ相違アレトモ其論法ヲ見レハ二者孰レモ完全無缺ナリ二者共ニ其論法完全無缺ナルカ故ニ其一方ハ甲は乙なりト決定シ一方ハ甲は非乙ありト決定シテ汝ハ汝ナリ吾レハ吾レナリト云有様ニテ雙方ノ睨ミ合ヒトナレリ斯ノ如ク立者ノ説ヲ敵者ニ同意サセルコトモ能ハス又敵者ノ説ヲ立者ニ同意サセルコトモ能ハ

論理學明因

サルモノ之ヲ名テ相違決定ノ過ト云ナリ〔啓ノ之ヲ違
決ト云フ〕
 入正理論ニ此例ヲ舉テ勝論學派ヨリ聲論學派ニ對シ聲は無常なるヘ
 し〔宗〕所作性なるガ故ニ〔因〕譬ヘハ瓦器等ノ如し〔喩〕トイヘハ聲論學派ハ
 之ニ對反シ聲は常住なるヘし〔宗〕所聞性なるガ故ニ〔因〕譬ヘハ聲性ノ如
 し〔喩〕ト云カ如シトイヘリ余別ニ一例ヲ試シカ茲ニ人アリ
 宗 般ノ湯王周ノ武王ハ亂臣賊子なるヘシ
 因 主君ヲ弑害スルガ故ニ
 喩 譬ヘハ王莽等ノ如し〔同〕周公等ノ如し〔異〕
 トイハンカ湯王武王ハ主君ヲ弑シタルモノナリ而シテ凡テ主君ヲ弑ス
 ル者ハ亂臣賊子ナリト云命題ヲ下シ得ルト共ニ亦タ凡テ亂臣賊子ニ
 非ル者ハ主君ヲ弑セズト云テ得ルカ故ニ此論法ハ無過ナリトイハ
 サルヘカラス然ルニ此ニ反對ノ意見ヲ懷ケル者アリテ

立能似

宗 般ノ湯王周ノ武王ハ明君なるヘシ
 因 治國平天下ノ効偉大ナルガ故ニ
 喩 譬ヘハ堯舜ノ如し〔同〕王莽等ノ如し〔異〕
 トイハンカ然ラハ湯王武王ハ共ニ治國平天下ノ効偉大ナル者ナリ而
 シテ凡テ治國平天下ノ効偉大ナル者ハ明君ナリト云命題ヲ下シ得ルト
 共ニ又凡テ明君ニ非ル者ハ治國平天下ノ効偉大ナルニ非ズト云命題
 ヲ下スニ差支ナキカ故ニ第二ノ論法モ亦無過ナリトイハサルヘカラ
 ス爰ニ於テ雙方睨ミ合ヒノ狀トナリテ兩論共ニ勝負ハナキトナ
 ル
 斯ノ如ク相違決定ハ同一ノ主體ニ付キ後名辭ニ呈出スヘキ意見ノ雙
 方殊ナルヨリシテ立敵各別ニ論法ヲ組織スルニ其論法ハ立敵孰レモ
 完全無過ナルモノナリ既ニ論法ノ組織完全セルモノヲ過誤ノ部ニ屬

スルハ如何ト云ニ因明ハ悟他ヲ目的トスル論理學ナルカ故ナリ抑モ
因明學ノ要點何レニアル歟曰ク因明ハ八大部門ニ分ルト雖モ其要點
ハ眞能立ニアリ眞能立トハ何ヲ意味スル乎曰ク正當ナル因喻ヲ以テ
宗ヲ立スルニアリ宗ヲ立ストハ如何ナル意味乎曰ク敵者ニ自己ノ宗
義ヲ悟了セシメ彼レ從來不許ノ事件ヲ今方ニ許容セシムルニアリ換
言スレハ是迄ハ雙方反對ノ意見ヲ懷キシ者ガ議論ノ結果トノ雙方一
致ノ意見トナリ得ルヲ宗ヲ成立スト名ク然リ而ノ相違決定ノ如キ其
論法ハ完全セリト雖モ悟他ノ益ヲ呈セサルナリ既ニ悟他ノ益ナキカ
故ニ能立ニアラサルナリ既ニ能立ニアラサルカ故ニ之ヲ過誤ト爲サ
ルヲ得ス是ヲ以テ之ヲ過誤ノ中ニ數ヘ殊ニ前後二種ノ論法ヲ對照
スルニ其立論乙ト非乙ト兩方ニ跨リテ一方ニ決セサルカ故ニ之ヲ不
定ノ中ニ屬シタモノナリ

第廿四節 四相違因ノ總論

因ニ十四種ノ過誤アリトスル中後ノ四種ニ相違因ノ名ヲ命ス相違因
ト云ハ立者ノ本ト成立セント樂ヒ望メル宗ニ反對シタル宗ヲ成立ス
ヘキ因トナルモノ是ナリ重言スルニ立者若シ乙なりト云テ宗ノ後陳
トセンカ然ラハ此ニ相違ノ非乙なりト云テ立スルノ因ト成リ又立
者若シ非乙なりト云テ宗ノ後陳トセンカ然ラハ此ニ相違シテ乙なり
ト云テ立スルノ因ト成ルモノ之ヲ相違因ト名ク
此相違因ヲ辨明セントスルニ先立テ豫メ學者ノ心得置クヘキ要件ア
リ請フ之ヲ陳ヘン
(一)相違因モ前ノ相違決定ノ如ク立者ト敵者ト雙方各自ニ一種ノ論法
ヲ組織スルヲ以テ其法則トスルト是ナリ而ノ立者ノ方ニ於ケル論法
ヲ前量ト名ク敵者ノ方ニ於ケル論法ヲ後量ト名ク相違決定モ亦立者

ナヒ敵者ノ論法

(二) 相違因ト相違決定ハ區別是ナリ、相違因ト相違決定ハ相似タル者ナ
 レトモ大ニ二種ノ區別アルモノトス一ニ相違決定ハ立者ノ論法ト敵
 者ノ論法ト其宗既ニ反對セルカ故ニ之ヲ成立セントスル能立ノ因モ
 雙方各別ナル事件ヲ應用ノ論法ヲ組織スルカ規則トナレリ然ルニ相
 違因ハ立者ノ方ニ應用シタル因ヲ敵者少シモ改ムルヲナク其儘採用
 ノ立者ノ立論ヲ擊破スル論法ノ因トナスガ規則トナレリ二ニ相違決
 定ヲ前後俱邪ト名テ彼ハ前量後量共ニ悟他ノ結果ナキカ故ニ似能立
 ニ屬スルモノトス然ルニ相違因ヲ前邪後正ト名テ此ハ立者ノ方ヲ似
 能立ニ屬シ敵者ノ論法ヲ真能破即チ無過ノ真正論法ナルモノトス此
 カ相違因ト相違決定ノ區別ナリ

(三) 比量相違ハ過ト相違因ハ過トハ區別是ナリ、比量相違ト相違因トハ

二者相似タル者ナリ比量相違モ立者ノ乙なりト陳ヘタル宗ナレハ敵
 者ノ思想即チ因喩ニ相違スルカ爲メ反ノ非乙トナルヘキ過ナリ相違
 因ト云モ立者ノ乙なりト陳ヘタル宗ナレハ敵者ノ思想即チ因喩ニ相
 違スルカ爲メ反ソ非乙トナルヘキ過ナリ然ルニ二者ノ異點トスルト
 コロハ比量相違ハ立者ノ宗ガ敵者ノ見付タル因ニ違スル過ナリ相違
 因ハ立者ノ宗ガ敵者ノ陳ル因喩ニ違スルニ違ヒナケレトモ其敵者ノ
 陳ル因ハ本ト立者自身ニ見付ケ立者自身ニ陳ヘタル因ナリ故ニ其本
 トヲ論スレハ敵者ノ因ハ即チ立者ノ因ナリ立者ノ因ニシテ立者自身
 ノ宗ニ順セス反テ自身ノ因ニ相違シタル敵者ノ宗ヲ立スル爲メ因ト
 ナル過ナリ故ニ之ヲ立敵相對シテ論セハ比量相違ハ立者ノ宗ガ敵者
 ノ因ニ違スル過ナリ相違因ハ立者ノ因ニ立者ノ宗ニ違スル過ナリ
 ト謂ヘシ又之ヲ宗因相對シテ論セハ比量相違ハ宗ノ方ニ就テ因ニ違

スルノ過誤ヲ論スルニアリ相違因ハ因ノ方ニ就テ宗ニ違スルノ過誤
 ヲ論スルニアリ之ヲ比量相違ト相違因ノ區別ナリトナス相違因ノ區
 別ハ古來因明專門家ノ語シム
 (四) 因明學科中、ハ相違因ニ局ル特殊ハ名詞アルト是ナリ余先キモ云
 如ク宗ノ前陳ヲ自性或ハ自相ト名ク宗ノ後陳ヲ差別或ハ共相ト名ク
 ルハ因明學普通ノ名詞ト云テ可ナリ然ルニ相違因ノ部分ニ限り前陳
 後陳ノ區別ヲ言語ノ發表ヲ總テ自相ト名ク意内ノ懷抱ヲ總テ差別
 ト名ク斯ノ如ク自相ト差別ガ言語ト意内ヲ區分スル記號トナルハ因
 明學中四相違段ニ局ル名詞ナリ故ニ余之ヲ四相違特殊ノ語例トナス
 其表左ノ如シ

前陳自性
 言語發表……………自相
 意内懷抱……………差別

四相違門特殊名稱是也

學者爰ニ於テ相違因ニ四種分ル、所以ヲ知ルヘシ前表ノ如ク別宗ニ
 ハ前陳後陳ノ二名辭アリト定メ而シ其前陳ニモ已ニ言語ニ發表セル
 トト又其言ニ因ミテ意内ニ一種別ナル考ヘテ懷抱シ居ルトトノ二種
 分レ來リ其後陳ニモ已ニ公言セルトト又其言ニ因ミテ意内ニ一種別
 ナル考ヘテ懷抱シ居ルトトノ二種分レ來ルカユエ都合四種ノ區別ア
 ルトトナル斯ク四種ノ區別アルニ隨テ根本立者ノ成立セント願望ス
 ル件即チ宗ニ於テ自ラ四種ノ區別ヲ見ルトトナル既ニ立者ノ所成立
 ニ四種ノ區別ヲ見ルカユエ立者成立ノ宗ニ違シ反ノ相違ノ宗ヲ立ス
 ヘキ因ニモ四種ノ區別ヲ見ルトト成ル故ニ相違因ニ四種分ル、トト
 ナレリ

後陳差別
 言語發表……………自相
 意内懷抱……………差別

(五)相違因ニ四種アル中、後ノ三種ハ狡黠手段ノ曖昧的論法ナリト云フ是ナリ、凡ソ論議ニ就キ思想ノ儘ヲ言語ニ發メ立論スルアリ又思想ノ儘ヲ言ヒ兼テ巧ミニ曖昧的ノ語ヲ用ヒテ過難ヲ避ントスル立論アリ後者ヲ名テ方便矯立ト云フ而シテ四相違因ノ中第一種ハ正直ナル立論ニ就ク相違因ノ過失ナルモノ也、後ノ三種ハ方便矯立ニ就ク相違因ノ過失ナルモノ也、請フ下テ之ヲ知レ

第廿四節 法自相相違因ノ過失

四相違ノ中第一ノ過テ法自相相違ト名ク法自相相違ト云ハ法トハ別宗中ノ後陳ニ名ツク、後陳ヲ法ト名ク前陳ヲ有法ト呼フ、一ハ宗ノ組織方ニ就テ辨明スルカ如シ、自相トハ即チ是ガ四相違門ニ局ル名稱ニシテ立者ノ意内ニ懷抱セル一種ノ別件ニ對シ言語上發表ノ點ヲ取テ自相ト名ク然ラハ法自相トハ別宗中ノ後陳是ナリ、別宗ノ後陳ヲ法自相

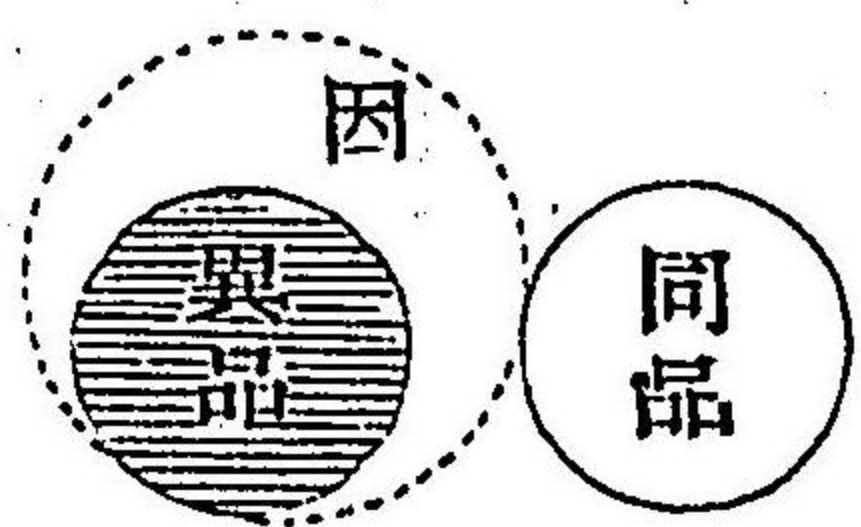
ト名クルハ四相違ハ思想ノ儘ヲ言ヒ顯サ、ル曖昧的論法ヲ訂ス爲メノ法則ナルカ故ニ自相ト説テ意内ノ別件ヲ簡フタモノナリ、相違トハ立者ノ公言セル宗ノ後陳ニ反對セル事件(相違宗)ヲ指ス然ラハ法自相々違因ト云ハ換語スレハ、後陳公言反對因ト云ヘシ何トナレハ立者自身ノ陳ヘタル因ニノ自身ノ立セシガタメ公言シタル宗ノ後陳ヲ立セス却テ反對的ノ事件ヲ成立スル因トナルカ故ナリ、入正理論ニハ此例ヲ出シ若シ聲生派ヨリ佛教徒ニ對シテ聲は常住なるヘシ(宗)所作性なるガ故ニ(因)ト説キ或ハ聲顯派ヨリ佛教徒ニ對シテ聲は常住なるヘシ(宗)勤勇無間所發性なるガ故ニ(因)ト説ク、アリトセシカ佛教者之ヲ駁シ聲は無常なるヘシ(宗)所作性なるガ故ニ(因)ト説ク、聲生派勤勇無間所發性あるガ故ニ(因)ト説ク、聲顯派(因)瓦器並ニ電光の如シ(喩)ト云カ如キ是ナリトイヘリ、余試ミニ一例ヲ設シテ茲ニ人アリテ

宗 甲某は死するとあかるへし

因 生物なるが故に

ト説ク「アリトセンカ然ラハ法自相々違ノ過アル因ト云モノナリ何トナレハ斯ノ如キ因ハ宗ノ後陳ハ前陳ニ附着スト云「ヲ立セサルノミナラス反テ之ヲ打消シ己レノ宗ニ反對シタル相違宗ヲ立スル」トナルカ故ナリ抑モ死するとなしト云宗ハ石瓦等ノ無機物ヲ以テ同品トナシ人類畜類ノ如キハ皆異品トナル而シテ生物なりト云因ハ異品ノ方ニ全部ニ遍通スレトモ同品ノ方ニハ反テ少シモ關係セサルナリ故ニ本ト立セント欲シタル件ヲ立セス反テ之ヲ打消ス相違ノ件ヲ立スルノ因トナル之ヲ同無異有ノ相違因ト名ク同無異有ノ相違因トハ因ノ三相中後ノ二相ヲ缺乏セルカ故ニ通スヘキ同品ニハ通セス反テ通スヘカラサル異品ニ通ス故ニ其因ハ相違ノ宗ヲ立スル「ニナルト云

意味ナリ之ヲ圖ニ表セハ左ノ如シ



圖ノ如ク第二段ノ因ヲ第三段ノ喩ニ望ルニ其同品異品トニ於ケル關係ノ仕方ガ正則ニ反對セルカ故ニ相違因トナル也此ニ由テ人若シ斯ノ如キ立論ヲナセハ之ヲ聽ク者ハ必ス敵者ノ位置ニ立テ反對的ノ駁撃論法ヲ組織スヘキナリ(之ニ由テ先ニ陳ヘタル論法ヲ前置ト名ク亦ハ所違ノ量ト云フ後ニ之ヲ駁スル敵者ノ論法ヲ後量ト名ク亦ハ能違

ノ量トイフ

其前量ヲ駁撃スル敵者ノ論法ハ立者ノ應用セシ前量ノ因ヲ其儘採用シテ能違ノ論法ヲ組織スルヲ規則トス但彼レノ同喩ヲ改テ異品トナシ又彼レノ異喩ヲ取テ同品トナスノミ其敵者ニ於ケル能違ノ量即チ駁撃的論法ヲ示サンカ即チ前論ニ對シ

宗 甲某は死するとなきに非るへし

因 生物なるが故に

喩 餘の一切動物の如し

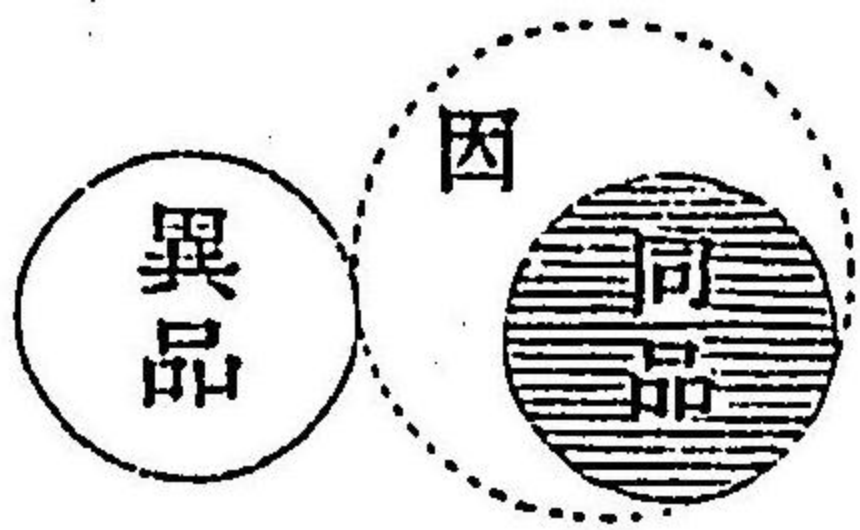
ト云カ如キモノ是ナリ斯ノ如ク前後同一ノ因ナレトモ前ニハ同無異有トナリシモノガ後ニハ同有異無トナル故ニ前ノ圖ハ轉ノ左圖ノ如ク改ムヘキトナレリ

因明學理論

似

能

立



既ニ圖ノ如ク同有異無トナルカ故ニ生物なりトノ因ハ死するとなしト云フ宗ヲ立セズ反テ死するとなきに非すト云方ノ宗ヲ立スルトナル爰ニ於テ知ヘシ相違因ハ相違決定ト異ナリ立者ノ前量ニアリテハ不正ノ甚シキ邪因ナレトモ敵者ノ後量ニアリテハ完全無缺ノ正因ニナルト云フテ之ヲ喩ルニ相違因ハ之ヲ敵者ノ位置ヨリ論セハ敵馬ニ乘テ敵ヲ打ツカ如ク敵ノ捧ヲ奪テ敵ヲ僵スカ如キモノナリ豈愉快ナル能破ナラスヤ又之ヲ立者ノ位置ニ就テ論セハ自己ノ持タル刀劔

ニテ自己ノ頸ヲ切斷スルカ如キモノナリ豈甚シキ似能立ノ過ナラズ
ヤ請フ後ニ陳ル三種ノ相違因モ皆此ニ例ノ知レ

第廿六節 法差別相違因ノ過失

四相違ノ中第二ノ過ヲ法差別相違因ト名ク法差別相違ト云ハ法トハ
別宗中ノ後陳ニ名クルト前ノ如シ差別トハ前ニ云如ク此ノ四相違門
ニ局ル名稱ナリ凡ソ吾人ハ若シ充分ニ思フ通り公言スレハ過失ヲ招
クトテ恐レテ曖昧的ニ造語スルアリ而シテ其曖昧的ノ造語ト云モノ
ハ言語ニ幾分ノ關係ナキニアラサレトモ言語ノ表面トハ稍々殊ナル
別件ノ思想ヲ言ノ裏ニ懷キ居ルモノナリ其言ノ裏ニ懷ケル思想内ノ
別件ヲ呼テ差別ト名ク而シテ其公言スルトテ恐レテ言ノ裏面即チ思想
内ニ含ミ居ル別件即チ差別ニハ必ス兩件アルモノトス其兩件アル中
ニテ一ハ立者ノ成立ヲ希望スルモノナリ他ノ一ハ立者ノ成立ヲ厭ヒ

嫌フモノナリ之ヲ因明ニハ二等ノ意許差別トイフ其中前者ヲ意許ノ
樂爲所立宗ト名ク前者ヲ意許ノ樂爲所立宗ト名クル所以ハ其過ヲ恐
レテ公言セサレトモ曖昧的造語ノ意趣ヲ調ブレハ本ト立セントスル
所ノ目的ハ公言シタル點ヨリモ尙進シテ竊カニ意中懷抱ノ別件ニア
ルカ故ナリ然リ而シテ其因ヲ調フルニ公言ノ宗ニ望シハ同有異無トナ
リテ因ハ後ニ相完全スレトモ意内ハ宗ニ望シハ同無異有トナリテ因
ハ後ニ相共ニ缺乏スレトナル因ノ後ニ相共ニ缺ルカ故ニ其因ハ意
内ニ成立ヲ求メタル第一件ヲ立セス反テ成立ヲ忌ミ嫌ヘル第二件ヲ
立スルトニナル故ニ之ヲ法差別相違因ト名ケタリ余ハ換語シテ之ヲ
後陳意内相違因トイハントス

入正理論ニ此例トノ數論派ヨリ佛教徒ニ對シ眼等は必ず他の爲に用
ひらるヘシ(宗)積聚性なるが故に(因)臥具の如し(喻)ト説クコトアルトキ佛

論理學明因

教徒之ヲ駁ノ眼等は實我他の爲に用ひらるゝと勝るへし(宗)積聚性なるが故に(因)臥具の如し(喩)ト云カ如シトイヘリ抑モ此入正理論ニ出タル論法ハ因明専門家ノ最モ苦ミテ種々ノ解釋ヲ附スルトコロナレトモ余ハ此カ解釋ヲ下マサス余ハ只之ヲ應用ノ更ニ別種ノ論法ヲ組織シ以テ法差別相違因ノ過ヲ犯ス模様ヲ説明スヘキナリ

茲ニ耶蘇教徒アリテ佛教徒ニ向ヒ

宗 萬物は他に造られたるものあるへし

因 自身に自身を造ると能はざるが故に

喩 人造的器械の如し

トイハシカ然ラハ忽チニ之ヲ見レハ言語上敢テ過失ナキモノ、如シ何トナレハ因ニ三相完全スレハナリ此因ニ三相完全スト云所以ハ第一相ト第二相ノ缺ケサルトハ辨テ俟マスシテ知ルヘキナリ又第三相

能 似 立

ノ缺ケサル所以ハ余先キニ陳ル如ク異喩ハ理喩アレハ事喩ナキモ妨ナシト云カ因明學ノ規則ナリ而シテ耶蘇教ノ説ハ神ヲ以テ萬物已外ニ置キ萬物ハ凡テ神ノ造レル者トスルカ故ニ天然の萬有ハ皆宗ノ中ニ屬シ人造的物品ハ凡テ同喩ニ屬スルトナリテ異品トスヘキモノハ天地間ニアルトナキナリ神ヲ除テ論ナリ異品トナスヘキ事物ハナケレトモ凡て他に造られざる者は宗異 自身に自身を造ると能はざるに非ず因異 品と見よト云フヲ得ルカ故ニ第三相モ完全セリト云フヲ得ルナリ

然リト雖モ詳カニ立論ノ本意ヲ訂シ見ルトキハ此因ハ第二相第三相共ニ缺乏セル同無異有ノ相違因トナル何トナレハ彼レ立論ノ本意ハ萬物ハ獨一眞神ノ造作ニ係ルモノト云フヲ立スルニアルカ故ナリ抑モ耶蘇教者ハ何ノ意アリテ斯ノ如キ論法ヲ作ル乎曰ク他ナシ彼レ萬

物ハ獨一眞神ノ造作ニ係ルモノトナシ以テ眞神ノ存在ヲ立セシカ爲
 ナルコトハ彼ノ教理ヨリ推測スルニ其旨瞭然タリ然ルニ彼レ若シ萬物
 ハ眞神の造る所なりトイハシカ然ラハ能別不極成ノ過アリ此ニ由テ
 若シ眞神は能く萬物を造る者なりトイハシカ然ラハ所別不極成ノ過
 アリ故ニ彼レ是等ノ過ヲ避シカ爲メニ自己ノ意内ヲ公言セス狡黠手
 段ヲ以テ曖昧的ニ造語ヲナシ萬物は他に造られたるものなるべしト
 陳タモノナリ

既ニ然ラハ彼カ意口宗ノ後陳ニ他ト指ス言ノ裏ニハ二種ノ別件ヲ含
 メリ一ニ萬有外ノ獨一眞神是ナリ二ニ萬物中ノ原因事情是ナリ而シテ
 彼ノ意内ニ立セントスル所ハ前者ニアリテ後者ニアラス故ニ若シ正
 當ニ意内ヲ公言スルトキハ萬物は獨一眞神に造られたるものあるべ
 しト云ニアリ因明ニハ之ヲ名クテ意許ノ樂爲所立宗ト名ク此ノ意内

ニ合メル樂爲所立宗ニ望ルトキハ前ノ因ハ忽チニ轉ノ後ニ相共ニ缺
 乏セル同無異有ノ相違因トハナルナリ此ニ由テ敵者ハ彼ヲ論破シテ
 抑モ汝ノ宗ニ他ト指スハ誰レナル乎萬有中ノ原因事情ニアル乎將々
 萬有外ノ獨一眞神ニアル乎之ヲ汝ノ教理ヨリ推スニ其目スルトコロ
 後者ニアルニ相違ナシ若シ然ラハ汝ノ因ハ汝ノ宗ヲ自ラ打消ス相違
 因ト云モノナリト辨駁セサルヲ得ス其敵者ヨリ彼レヲ論破スル能違
 ノ作法ヲ示サハ

宗 萬物は眞神に造られたるものに非るべし

因 自身に自身を造ると能わさるが故に

喩 人造的器械類の如し

ト云ヘキヲ規則トス斯ノ如ク彼ノ因喩ヲ其儘採用シテ彼ヲ駁破スル
 能違ノ論法ト成ル所以ハ本ト彼ノ因ハ其公言シタル宗ニ望レハ三相

完全スレトモ彼ガ意内ノ樂爲所立宗ニ望レハ三相中後ノ二相ハ共ニ
 缺テナキカ故ナリ
 抑モ彼カ論法ハ萬有ヲ天然物ト人造品ト兩方ニ分テ其天然物ヲ總テ
 宗ノ中ニ屬シ其人造品ヲ凡テ同喩ノ中ニ屬シタモノナリ此外ニ亦異
 品トナスヘキ者アルトナシ而シテ彼カ同喩トナセル人造的器械類ノ如
 キハ人造ニ相違ナクセントモ神造ニハ非ルモノナリ既ニ神造ニ非ルカ
 ヲ凡テノ人造品ハ神造ヲ立スル爲ノ宗異品ニシテ宗同品ニハ非ルナ
 リ既ニ然ラハ彼ガ因ハ宗同品ナキカ故ニ同品ノ方ニ關係スヘキ様ナ
 ク第二相缺反テ宗異品ノ方ニ全部ノ關係ヲ有スト云モノナリ第三相缺是ヲ以
 テ彼ノ因ハ後ニ相共ニ缺クマリト云フヲ得ル彼ニ於テ既ニ後ニ相共
 ニ缺クマルカユエ敵者ハ彼ノ因喩ヲ其儘應用シテ彼ノ宗ヲ打消ス消
 極的駁撃ノ論法ヲ作ルヲ得ルナリ

爰ニ注意スヘキハ四相違ノ中ニテ能違ノ量ト稱スル敵者駁撃ノ論法
 ハ總テ遮詮ニシテ表詮ニハアラスト云フ是ナリ殊ニ後三相違ノ如キ
 ハ遮詮無昧ノ論法ヲ法則トナス遮詮無昧ノ論法ヲ法則トスルカ故ニ
 敵者能違ノ論法ハ只立者意内ノ樂爲所立ヲ打消スニ止ル敵者敢テ彼
 レニ反對シタル説ヲ立セント欲スルニハアラサルナリ今余ノ設クマ
 ル論法ニテ之ヲイヘハ敵者ハ立者ノ神造ナリト想ヘルヲ打消シテ神造
 ニアラストスレハ夫ニテ事足レリ敢テ神造ニアラスト説ク同時ニ天
 造トカ人造トカ云フヲ立セント欲スルニハアラサルナリ講フ次ノ二
 相違因モ此ニ準メ知レ

第二十七節 有法自相相違因ノ過失

四相違ノ中第三ノ過ヲ有法自相相違因ト名ク有法自相々違ト云ハ有
 法トハ別宗中ノ前陳ヲ指スト前ニ准メ知ヘシ自相トハ意内ノ別件ニ

對シテ宗ノ前陳ニ公言シタル發表ノ點ヲ取ルテ亦前ノ法自相ニ准シ知ヘシ相違ノ語モ亦前ニ准シ解スヘシ故ニ余ハ之ヲ換語シテ前陳公言反對因トイハントス

此ノ有法自相相違因ト有法差別相違因ノ二過ノ模様ヲ知ラントスルニ先キ立チ學者ノ心得オクヘキト二件アリ

一ニ凡テノ立論ヲ分類スルニ物ノ存在不存在ヲ諍フト物ノ屬性如何ヲ諍フトノ二種アルモノナリ(因明ニハ前者ヲ呼テ跡ヲ諍フト立論ト名ケ後者ヲ呼テ義ヲ諍フト立論トイフ)而シテ今此有法自相相違因并ニ有法差別相違因ノ如キハ二類ノ中ニテハ物ノ存在不存在ヲ諍フトニ就テ起ル過誤ナリト云フ是ナリ

二ニ凡テノ立論ハ別宗中ノ後陳ハ前陳ニ附着セリト云フヲ立スルニアレハ立敵ノ諍點論處ト云モノハ前陳後陳ノ中テハ後陳ノ方ニアリ

ト謂ヘキハ通例ナリ然ルニ狡黠手段ヲ以テ造語シタル宗ニ限リ此事一定セス或ハ立敵ノ諍點ハ宗ノ後陳ヨリモ反テ前陳ノ方ニ存在スルコトアルモノナリ凡ソ狡黠手段ニ出テタル曖昧的造語ノ宗ト云モノハ忽チニ之ヲ見レハ立敵ノ諍點ハ通例ノ如ク宗ノ後陳ニアルカ如クナレトモ更ニ立者ノ意内ヲ叩ケハ立敵ノ諍點反テ宗ノ前陳ニ存在スルコトアルモノナリ(因明ニハ之ヲ有法意許ト云)而シテ今此有法自相相違因ト有法差別相違因ノ如キハ根本立者ノ宗ハ狡黠手段ニ出テタル曖昧的造語ナルカ故ニ忽チニ言語ノ表面ヲ見レハ宗ノ後陳ヨリ立敵ノ諍點ナルカ如クナレトモ更ニ立者ノ意内ヲ叩キ見レハ立敵ノ諍點ハ後陳ノ方ヨリモ寧ロ前陳ノ方ニ存在スルヲ見ル爰ニ於テ彼レ立者自身ニ應用シタル因ハ其立敵二者ノ諍點トナル宗ノ前陳ニ望ルニ或ハ其語ヲ打消シ相違自或ハ其意義ヲ打消ス相違差別爲ノ相違因トナル

ノ過誤ナリト云フ是ナリ
 己上ノ二件ハ後二相違ノ過ヲ研究スルノ階梯ナリ己ニ階梯ヲ示シ終
 レハ方ニ本論ニ移ルヘキナリ後二相違因ノ中ニ於テ先ツ有法自相相
 違因ト云ハ立者ノ公言シタル宗ニ望レハ立者ノ因ニ三相アリテ無過
 ノ真能立トナレトモ元來立者ノ宗ハ狡黠手段ニ出テタル曖昧的造語
 ナレハ立者ノ意内ニ尊重スルトコロ即チ立敵ノ諍點トナルトコロハ
 後陳ノ方ニアラスシテ前陳ノ方ニアルモノナリ而シテ立者ノ因ヲ彼レ
 自身ニ成立ヲ希望スルノ深キ前陳ニ望ムルニ其前陳ヲ順成スル因
 ニハアラス反テ其前陳ヲ打消スヘキ因トナルモノヲ有法自相相違因
 ト名ク

入正理論ニ此例ヲ出シ勝論學派ヨリ佛教者ニ對シ有性は實に非ず徳
 に非ず業に非るヘシ(宗)有一實なるか故に有徳業なるか故に(因)同異性

の如し(喩)ト説クカ如キハ有法自相相違因ナリ故ニ佛教者之ヲ駁シ汝
 の有性は有性に非るヘシ(宗)有一實なるか故に有徳業なるか故に(因)同
 異性の如し(喩)ト云フヲ得ルトイヘリ凡ソ入正理論ニ出テタル論法多
 キ中特ニ解シ難キハ此論法ニアリトス然レトモ余ハ此解シ難キ論法
 ヲ茲ニ喋々講述スルノ必要ヲ感セサルカ故ニ余ハ之ヲ應用ノ別ニ一
 種ノ例ヲ設ケ有法自相相違因ノ過ハ斯様ナモノト云狀況ヲ示スヘキ
 ナリ
 茲ニ耶蘇教者アリ因明論理ニ依テ萬物已外ニ眞神ノ存在ヲ立セシト
 スルノハ頗ル困難ナリ然レトモ彼レ方便工夫スレハ方ニ左ノ如キ二
 種ノ論法ヲ組織スルナラン
 宗 神は物にあらず
 因 吾人の五官に觸るべき形象なきが故に

喩心の如し

又云ク

宗 神は心にあらす

因 教育經練に依て發達する性質に非るが故に

喩 物の如し

此二種ノ論法ノ如キ忽チニ言語ノ上ヲ見レハ因ニ三相アリテ眞能立ナルカ如ク見ユル然レトモ詳カニ彼ガ意内ヲ訂シテ見レハ有法自相相違因ノ過アル論法ナリ何トナレハ前後ノ二因共ニ別宗ノ前陳タル神ヲ打消スヘキ因ナルカ故ナリ抑モ彼レ何ノ爲メニ論法ヲ二種ニ組織スル乎曰ク彼レ之ヲ二種ト爲サレハ同喩ヲ示スト能ハサレハナリ故ニ萬有ヲ物心ノ二元ト視ナシ初メ神ノ非物ヲ立スル爲ニハ心ヲ採テ喩トナシ後ニ神ノ非心ヲ立

スル爲ニハ心ヲ採テ喩トナシ兩方相依テ神ハ萬有已外ニ存在スト云フヲ立セントスルモノ也彼レ若シ神は萬有にあらすトイハシカ然ラハ缺無同喩ノ過ヲ招ク缺無同喩ノ過アルモノハ必ス法自相相違因ノ過ヲモ招クトナル故ニ彼レ千思萬考ノ曉キ終ニ二種ノ論法ト爲セルモノ也且ツ又彼レ何故ニ神は萬有已外に存在すヘシト自己ノ主意ヲ公言セサル乎曰ク彼レ若シ之ヲ公言センカ然ラハ神ハ自己一人許ノ外人ノ未タ許サル萬物能造ノ神トナル若シ萬物能造ノ神トナレハ宗ニ所別不極成ノ過アルトナル此ニ由テ彼レ曖昧的ノ造語ヲ考ヘ出シ先ツ前陳ハ敵者ノ方ニモ通スル様ニトテ只神ト呼テ獨一眞神トイハス又後陳ニハ只消極的ニ物にあらす心にあらすと説テ積極的ニ萬有外トモ或ハ存在者ナリトモ公言スルヲナキナリ然レトモ彼レニ此ノ如キ立論ヲナス意趣ヲ推窮スルニ神ハ萬有外ニ存在セリト

云フヲ立スルカ立論ノ目的ナリ殊ニ萬有外ト云點ヨリモ寧ロ存在ト云點カ立論ノ眼目トナレリ既ニ然ラハ此ハ義ヲ諍フ論法ニアラス臆ヲ諍フ論法ナルト共ニ立敵ノ諍點ハ後陳ニアラスシテ前陳ノ方ニアルモノナリ又其語ハ消極的遮詮ノ宗ナントモ其意ハ積極的表詮ノ有牀論ナリ斯ノ如ク論者ノ意趣ヲ尋テ其言ヲ見レハ彼カ神ト云ハ即チ敵者未許ノ獨一神ヲ表シタモノナリ既ニ神ガ萬物能造ノ獨一神トナリテ見レハ敵者豈之ヲ許スヘケンヤ然リ而シテ彼ノ因ヲ以テ宗ノ眼目タル萬物能造ノ神ニ望ルニ其因ハ能造ノ神ヲ立スルニアラスシテ反テ能造ノ神ヲ打消スヘキ因ナルモノナリ故ニ敵者ハ先ツ神ノ語ヲ打消ス爲ニ能達ノ辨駁論法ヲ組織シテ

宗 汝の神は神に非るへし

因 吾人の五官に觸るへき形象なきが故に

又云ク 因 心の如し 宗 汝の神は神に非るへし 因 教育經練に依て發達すへき性質に非るが故に 喩 物の如し ト云フヲ得ル抑モ敵者ヨリ此ノ如キ論法ヲ組織スル意ハ只神ノ名ヲ打消ス一方ニ止マル而シテ彼ノ因喩ヲ探テ神ノ名ヲ打消スヘキ能破トスルヲ得ル所以ハ立者ノ因ヲ一往非物非心トイヘル後陳ニ望メテ見レハ三相完全シタル因ナントモ彼カ意趣ヲ尋テ其言ヲ見レハ非物非心ハ立論ノ目的ニアラス立論ノ目的ハ萬物外ニ存在スル神是ナリ而シテ萬物中ニ神ナキカ故ニ其同品ナシ同品ナキカ故ニ因ハ第二相ヲ缺乏ス又萬物ハ凡テ異品ナリ其異品ノ方ニ因ノ關係アルカ故ニ因ハ

第三相ヲ缺乏セリ之ニ由テ立者ノ正所立ヲ訂メ見レハ因ハ後ニ相共ニ缺テ同無異有トナレリ彼ノ因既ニ同無異有トナルカ故ニ敵者ハ彼ノ因ヲ探テ彼ヲ打破スルコトヲ得ルナリ
且ツ夫レ此ハ義ヲ諱フ論法ニアラス昧ヲ諱フ論法ナルカ故ニ同品ノ心ハ心ニシテ神ニアラサルト共ニ又物ハ物ニシテ神ニアラサルカ如ク汝ノ神モ汝ノ因諭ヲ以テ之ヲ見ルニ物乎心乎何乎ハ知ヲ子トモ孰レ神ト云ヘキ者ニハ非ルヘシト彼ノ因諭ヲ探テ彼ノ有法即チ前陳ヲ打消スコトヲ得ルナリ
之ヲ要スルニ有法自相相違因ト云ハ本ト方便矯立ノ論法ナルカ故ニ敵者ヨリ立者ノ意趣ヲ看破シタル末ヘ彼ノ同品ヲ例トシテ宗ノ前陳ニ公言シタル名辭ヲ打消スコトヲ得ルモノニ名クタル過名ナルモノ也

第廿八節 有法差別相違因ノ過失

四相違ノ中第四ノ過テ有法差別相違因ト名ク有法トイヒ差別トイヒ相違トイフ語ノ意味ハ前ニ准ノ解スヘシ要スルニ余前ノ第二法差別相違因ニ就テ凡ソ狡黠手段ノ論法ニハ別宗中ノ後陳ニ就キ言外ニ二種ノ別件ヲ懷抱セルコトアリト云シ如ク又別宗中ノ前陳ニ就テモ言外ニ二種ノ別件ヲ懷抱シ論者ハ其一ヲ成立セント欲シ他ノ一ハ反テ成立セザラシコトヲ怖フコトアルモノナリ而シテ論者自身ニ陳ヘタル因ヲ別宗中ノ後陳ノ公言ニ望レハ三相完全セントモ別宗中ノ前陳ニ就キ意内ニ懷抱セル兩件ノ中論者ノ立セント欲スル方ニ望レハ同無異有ノ因ト成リ又論者ノ成立ヲ忌ミ嫌フ方ニ望レハ同有異無ノ因ト成ルカ故ニ其因ハ論者ノ立セント欲スル方ヲ成立セズ反テ論者ノ成立ヲ忌ミ嫌フ方ヲ成立シ得ルモノ之ヲ有法差別相違因ト名ク

論理學明因

入正理論ニハ別ニ此例トノ論法ヲ出サス前ノ有法自相々違因ノ論法ヲ以テ亦此ノ例ト爲セリ(此ニツキ本作法家別作法家ト云異說分レ因明家ノ器々論スルヲナントモ今ハ且ク本作法家ノ說ニ伴ヒ置ク)故ニ余モ亦先キノ論法ニ就テ說明スヘシ抑モ先キノ論法ニ神は物にあらす又神は心にあらすト云ヘル前陳即チ神ノ語ニハ論者ニ於テ二種ノ別件ヲ含藏セリ第一ハ萬物能造ノ獨一眞神是ナリ第二ハ日本ノ神道ニ崇ムル所ノ神并ニ佛教等ニ說ケル神ノ如キ是ナリ而シテ立者ハ第一ヲ立セント欲スルモノナリ故ニ若シ立者ノ意内ヲ充分ニ公言シテ見レハ神は萬物の能造者なりト云ハサルヘカラス而シテ彼ノ因ヲ此意内ノ宗ニ望メテミレハ同無異有ノ因トナルカ爲メニ彼ノ立セサランヲ望ム方ヲ立スルヲトナル其辨駁方ハ左ノ如シ

宗 汝の神は萬物の能造者に非るへし

立能似

因 吾人の五官に觸るへき形象なきが故に
 教育經練に依て發達すへき性質に非るが故に

喩 心の如し
 物の如し

此亦唯否定的一方ノ辨駁ナルヲハ前ニ准ノ知ルヘキナリ
 余更ニ別種ノ論法ヲ設テ之ヲ說明センカ茲ニ耶蘇教ノ徒アリテ

宗 いゑすは通常人にあらす

因 能く万人を救濟すと許すが故に

喩 眞神の如し喩又吾人の如し喩

ト云カ如キ言ノ表面ニテハ三相完全ノ眞能立ト云テ得ル其故ハ彼ノ宗派ニ就テ論スルニいゑすハ萬人ノ罪ヲ贖ヘリト說クカ故ニ因ノ第一相ヲ缺クサルヲ知ルヘシ又通常人にあらすト云宗同品ハ眞神并

ニ動物植物等ニ及フ中ニ眞神ノ一部ニハ因ノ關係アルカ故ニ第二相ヲ缺クサルヲ亦以テ知ヘシ通常ノ人間ハ凡テ異品トナル而シテ其中ニ因ノ關係ナキカ故ニ第三相ヲ缺クサルヲ亦以テ知ヘシ故ニ一往其宗ヲ立シ得ルナリ

然リト雖モ彼レ耶蘇教徒何ノ意アリテ斯ノ如キ論法ヲ作レル乎ト竊ニ其意底ヲ穿鑿スルトコロ彼等いゑすハ人間ニアラス人間己外ノ神子ナリト豫テ信仰セリ此ヲ以テ之ヲ觀ルニ其語面ハ人ニあらずト云フ否定的遮詮ノ宗ナントモ其意ハいゑすハ神子ナリト云フ肯定的表詮ノ命題ヲ作ルヘキ筈ナリ然ルニ彼レ能別不極成ノ過亦ハ缺無同喩或ハ法自相々違ノ過ヲ避ノカ爲メニ否定的ノ語ヲ以テ肯定的ノ宗ヲ立セントスル狡黠手段ノ論法ト云フモノ也由テ若シ明瞭ニ意内ヲ公言スルトキハいゑすハ神子ナリトイハサルヘカラス

既ニ此意内ヲ公言シタル宗ニ望メテ見レハ同品ノ眞神ハ眞神ニシテ神子ニ非ルニエ宗ノ異品ナリ其異品ノ方ニ因ノ關係アレハ則チ第三相ヲ缺乏セリ又いゑすノ外ニ神子ト云者ナシトスレハ則チ同品ナシ同品ナケレハ因ハ同品ニ關係スヘキ様ナシ故ニ第二相ヲ缺乏セリ既ニ第二相第三相共ニ缺乏セルカ故ニ同無異有ノ相違因トナラサルヲ得ス語ヲ換テ之ヲイハ、立者自ラ陳ヘタル因ハ自ラ意内ニ於テ立セシト欲スル論點ヲ立シ得ス反テ之ヲ打消スヘキ相違因ノ過トナル故ニ敵者ハ左ノ如ク辨駁ノ論法ヲ作ルヘキナリ

宗　いゑすは神子に非るへし

因　能く万人を救済すと許すが故に

喩　眞神等の如し同

斯ク論難スル意ハ眞神ハ能ク萬人ヲ救済スヘキ全能ヲ具ヘタリト許

因明學理論

スモ彼ハ眞神ニシテ神子ニハ非ルモノナリ然ラハいゑすモ假令萬人ヲ救濟スト許ストモ之レヲ神子トハ云ヘカラスト唯否定的ニ彼ヲ論難スルニ止マル換言スレハ同喩ノ例ヲ以テ立者ノ成立セントスル件ヲ打消ス一方ナリ余前ニモ云フ如ク凡テ四相違因ノ能破ハ立者ノ成立セントスル件ヲ打消シテ仕舞ヘハ夫ニテ能破ノ効ハ奏シ終ルモノトス

問テ云ク前辨ノ如クいゑすは神子なりトイフニ對シテいゑすは神子にあらすト論破スルナレハ其ハ有法差別相違因ト云ヘキ過ニハアラスシテ法差別相違因ト云ヘキ過ニハアラサル乎何トナレハ既ニ有法ノ前陳ヲ駁スルニアラスシテ反テ法ノ後陳ヲ駁スルカ故ナリ

答テ云ク豈前ニイハスヤ若シ明瞭ニ意内ヲ公言スルトキハいゑすは神子なりトイハサルヘカスト彼ノ意ヲ發表ノ見レハ斯ノ如クナレト

似能立

モ彼ハ過ヲ避ンカダメ未タ此事ヲ言外ニ發表セサルナリ彼レ未タ之ヲ發表セサルヲ敵者ヨリ彼ノ意見ヲ看破シ彼カ後陳ニ通常人にあらすト説クヨリ其意趣ヲ叩ケハ彼ノ意ロいゑすハ即チ神子ナリト想ヒ而モ之ヲ成立セント欲スルコトハ瞭然タリ是ヲ以テ敵者ハ其いゑすトイヘル前陳ニ含ミ居ル意内ノ樂爲所立ヲ論破シテいゑすは神子に非すト云モノユエ之ヲ有法差別相違因ト名クテ法差別相違因トハイハサルナリ若シ立者其意ヲ發表シテいゑすは神子なりトイヘルヲ俟テ後ニ此辨駁ヲ爲スナレハ有法差別相違ニハアラソノ法自相相違因ナルヲ論ヲ俟タス

上陳ノ四相違ハ因明學科ニ於テ最モ重要ナル件ニシテ且ツ最モ困難ナル部分ナリ古今因明ヲ學フ者ノ苦勞ヲ設ルモ多クハ四相違段ニアリ今ハ僅ニ其大要ヲ示スノミ學者之ヲ深ク研究セント欲セハ